

**日向市地域福祉計画の見直しに伴う
アンケート調査
結果報告書**

**令和４年７月
日向市**

目 次

I	アンケート調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査概要	1
3	報告書の見方	1
II	住民アンケート調査結果	2
1	あなたご自身のことについて	2
2	地域との関わりについて	7
3	近所との関わりについて	10
4	地域福祉に対する考えについて	16
5	民生委員・児童委員や社会福祉協議会について	31
6	ボランティア活動や福祉教育について	33
7	災害時における助け合いについて	39
8	地域共生社会について	51
9	生活の困窮について	60
10	妊娠、出産、育児等について	63
11	手話について	67
12	行政運営及び地域の福祉について	77
III	事業所アンケート調査結果	99
1	貴団体・事業所の概要について	99
2	地域活動（ボランティア活動や助け合い活動）について	103

I アンケート調査の概要

I 調査の目的

本調査は、日向市地域福祉計画の見直しの一環として、地域福祉に対する住民、団体・事業所の皆さまの考えやご意見をいただき、「第4次日向市地域福祉計画」（令和5年度～令和9年度）の策定の参考とさせていただくことを目的として実施しました。

2 調査概要

項目	住民調査	団体・事業所調査
調査対象者	市内在住の20歳以上の方 (無作為抽出)	市内で活動している団体及び事業所 (無作為抽出)
調査期間	令和4年1月～2月	令和4年1～2月
調査方法	郵送配布・郵送回収による 本人記入方式	郵送配布・郵送回収による 本人記入方式
配布数	2,000件	129事業所
有効回収数	738件	64件
有効回収率	36.9%	43.6%

3 報告書の見方

◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。

◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。

◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

◇「その他」「不明・無回答」を除き、回答の高いもの**第1位**を太字で表記しています。

◇集計対象者総数（n）が少ない（10件未満）クロス集計については、分析文の記載を省略しています。

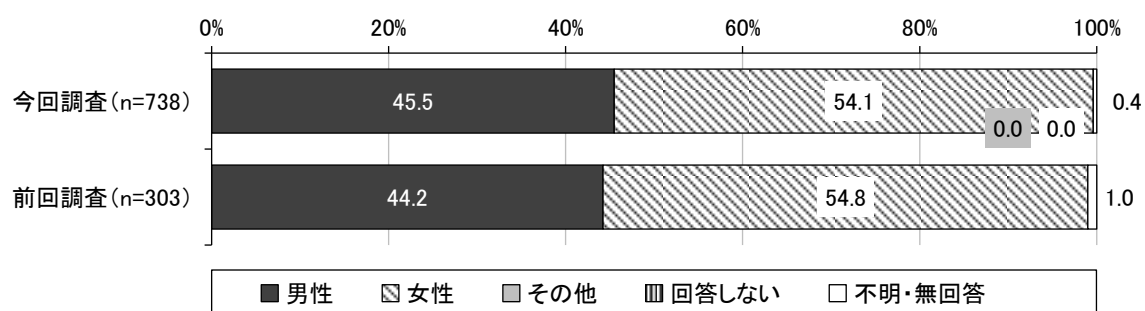
Ⅱ 住民アンケート調査結果

Ⅰ あなたご自身のことについて

問１ あなたの性別（自己認識による性別）を選んでください。（単数回答）

性別についてみると、「女性」が54.1%と最も高く、次いで「男性」が45.5%、「その他」「回答しない」が0.0%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

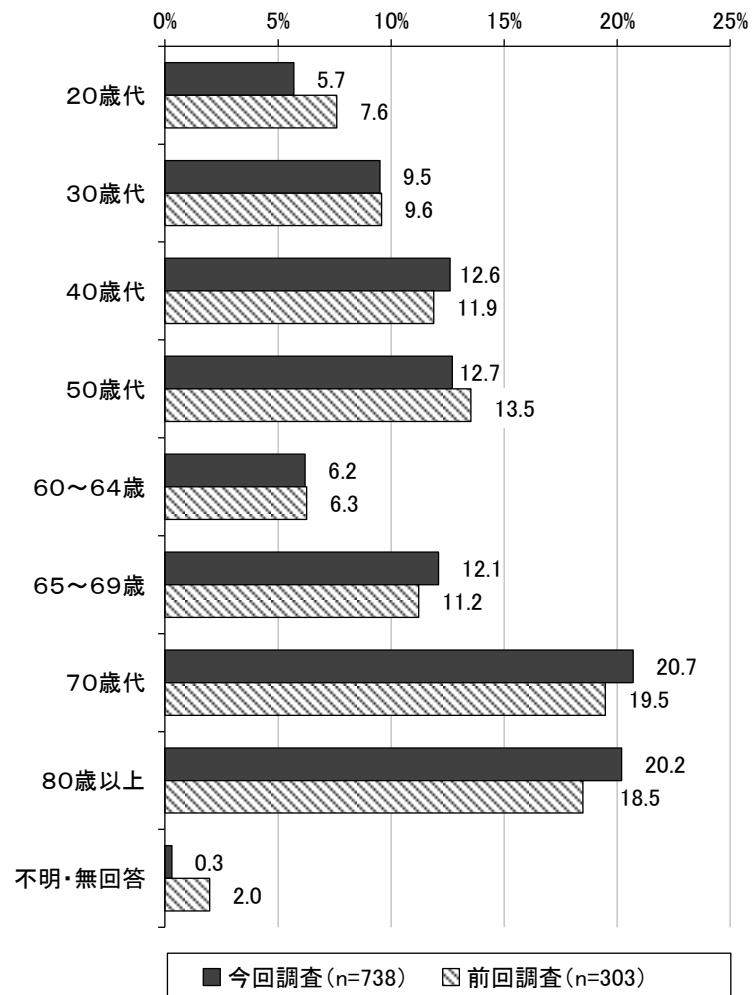


※「その他」「回答しない」は今回調査のみの選択肢。

問2 あなたの年齢はいくつですか。(単数回答)

年齢についてみると、「70歳代」が20.7%と最も高く、次いで「80歳以上」が20.2%、「50歳代」が12.7%となっています。

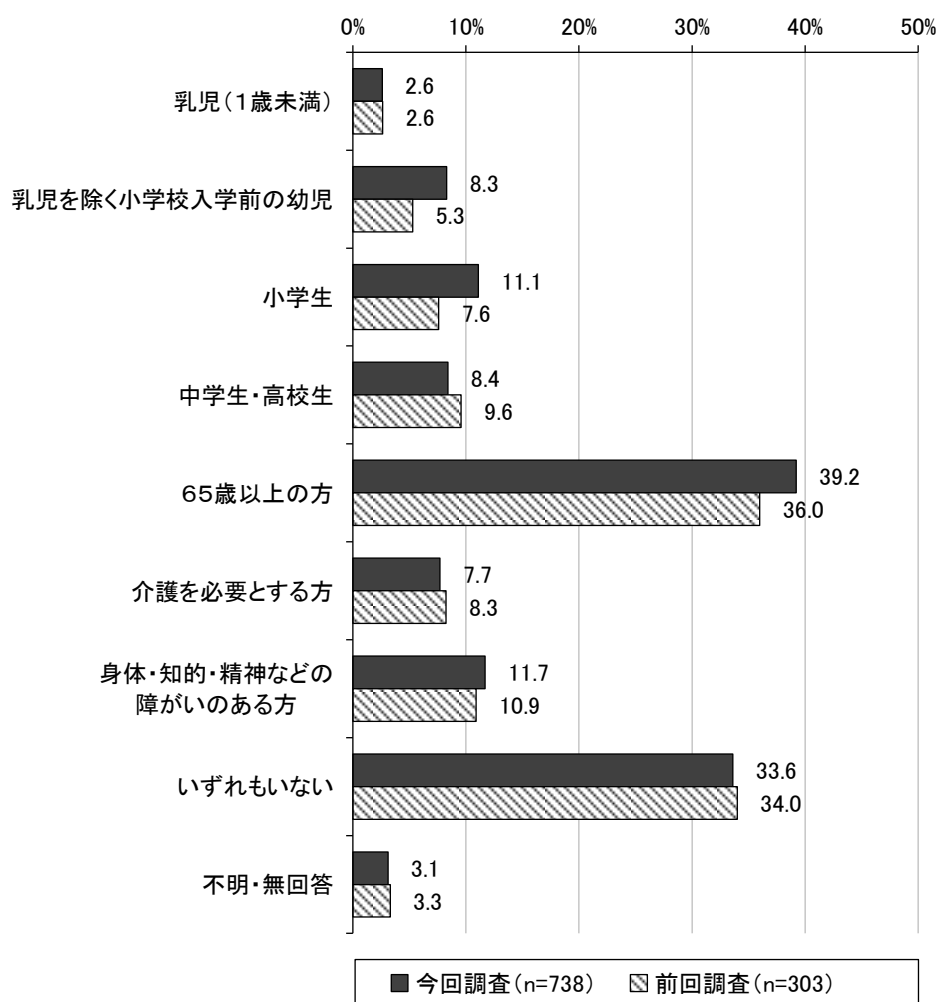
前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



問3 現在、あなた自身、もしくはあなたが同居している家族の中に、次のような方はいますか。
(複数回答)

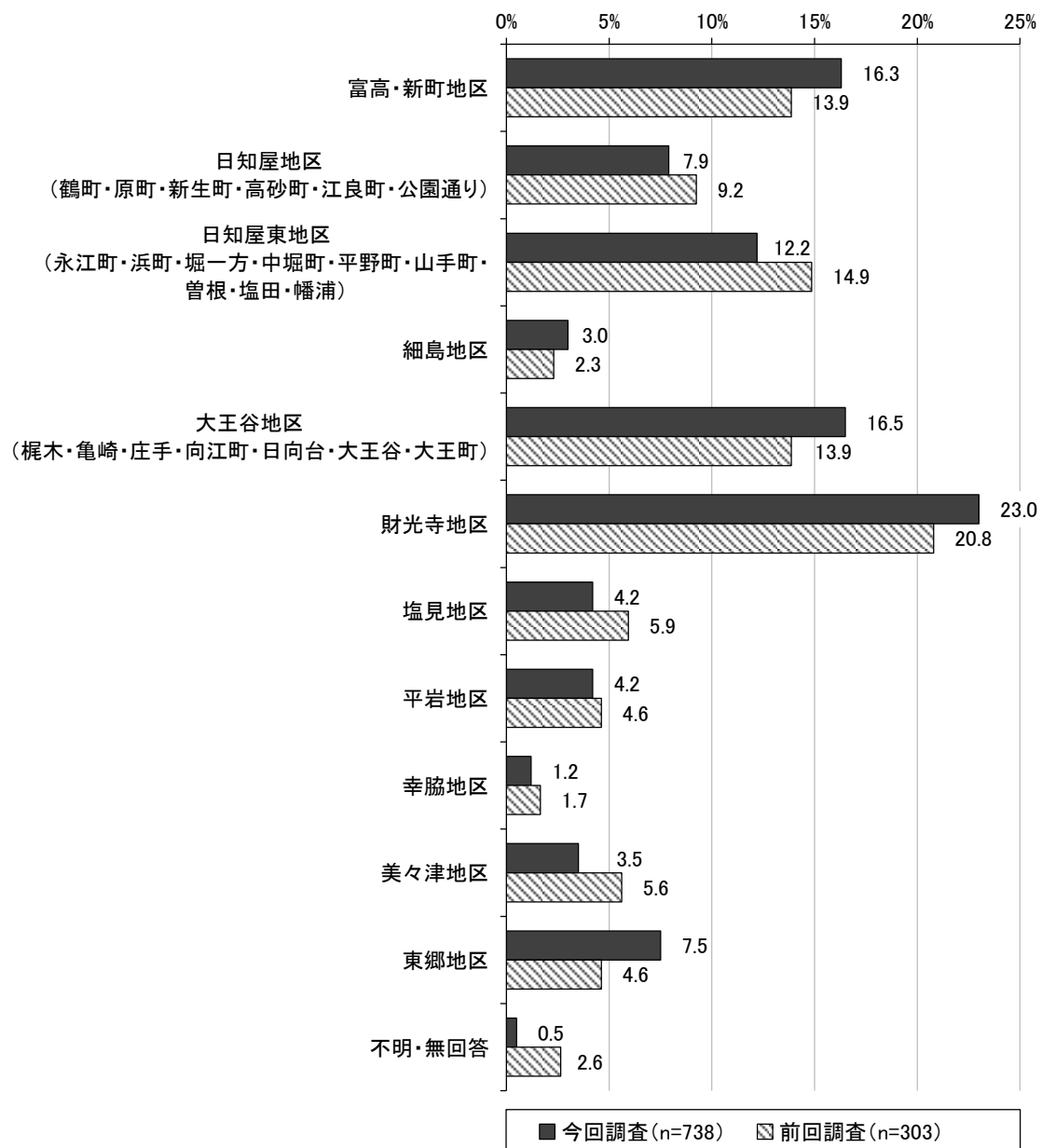
同居家族についてみると、「65歳以上の方」が39.2%と最も高く、次いで「いずれもない」が33.6%、「身体・知的・精神などの障がいのある方」が11.7%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



問4 あなたが現在お住まいの地区はどこですか。(単数回答)

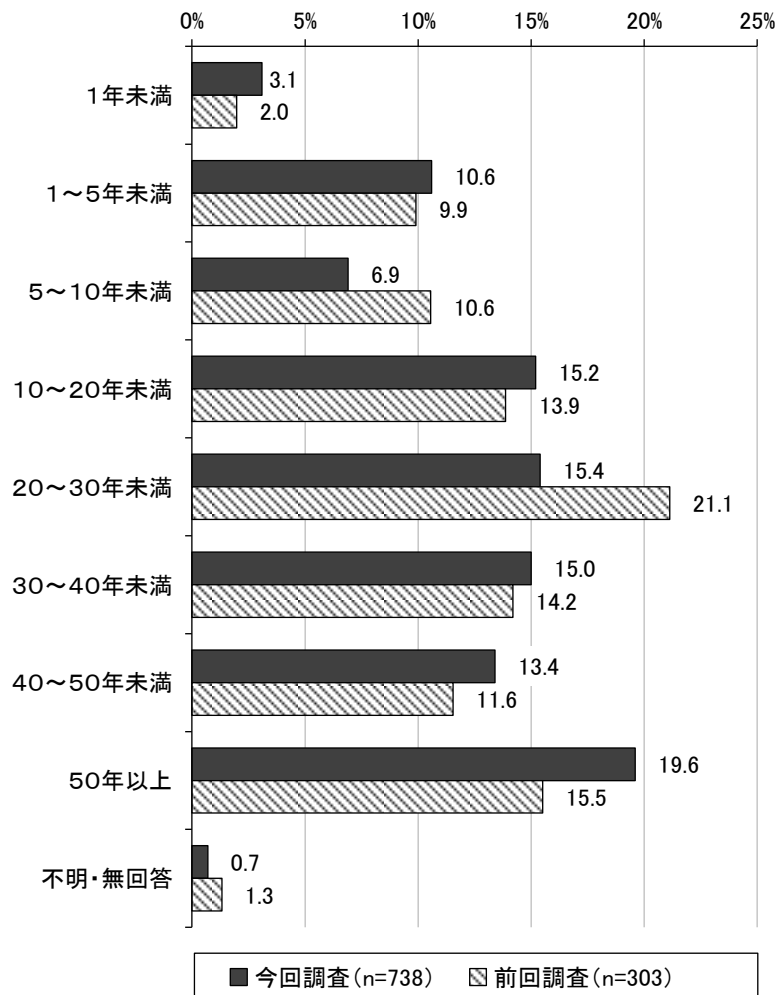
居住地区についてみると、「財光寺地区」が23.0%と最も高く、次いで「大王谷地区（梶木・亀崎・庄手・向江町・日向台・大王谷・大王町）」が16.5%、「富高・新町地区」が16.3%となっています。
前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



問5 現在の地区に、何年住んでいますか。(単数回答)

居住年数についてみると、「50年以上」が19.6%と最も高く、次いで「20～30年未満」が15.4%、「10～20年未満」が15.2%となっています。

前回調査と比較すると、「20～30年未満」が5.7ポイント低くなっています。

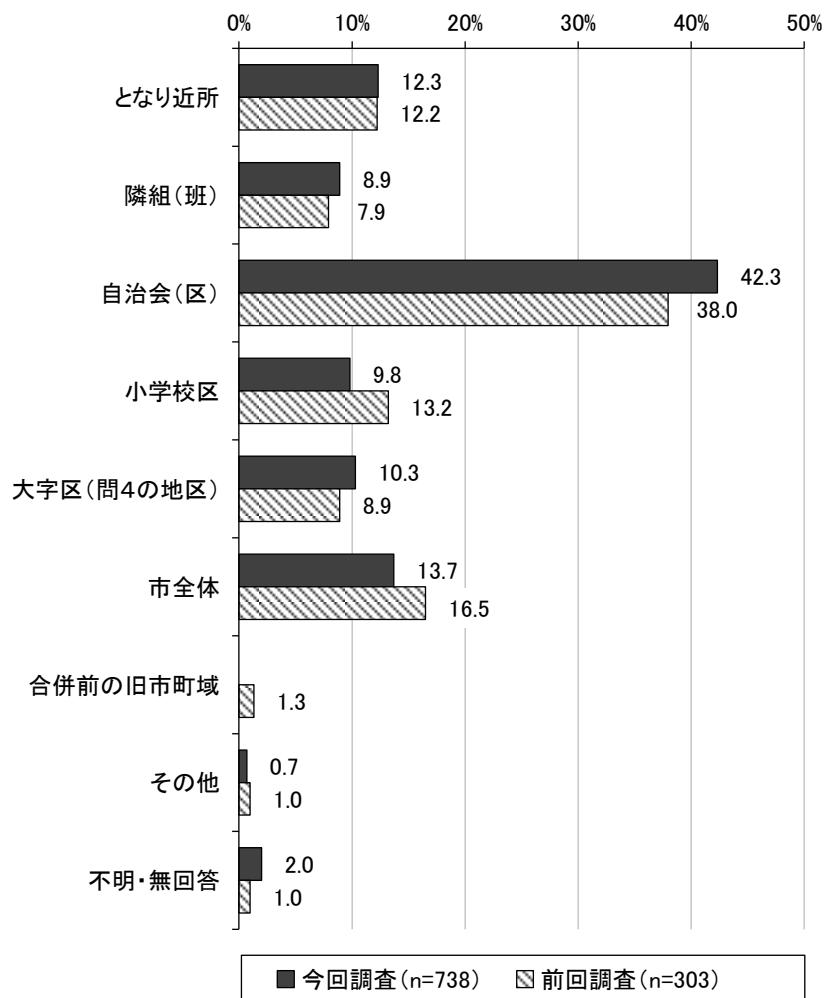


2 地域との関わりについて

問6 あなたにとって「地域」とは、どういった範囲のことだと思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。（単数回答）

地域の範囲についてみると、「自治会（区）」が42.3%と最も高く、次いで「市全体」が13.7%、「となり近所」が12.3%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



※「合併前の旧市町域」は前回調査のみの選択肢。

— 「その他」の回答 —

日知屋地域／ほとんど付き合いがない

地域別にみると、細島地区では「大字区（問4の地区）」、その他の地域では「自治会（区）」が最も高くなっています。

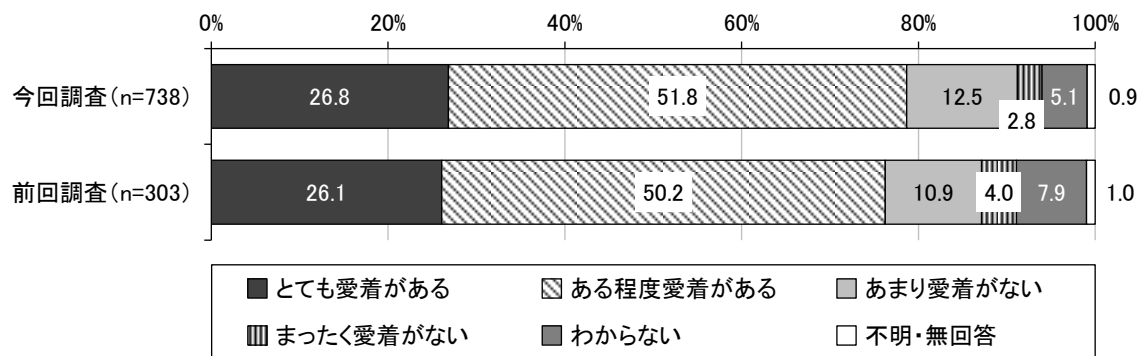
単位：%		となり近所	隣組（班）	自治会（区）	小学校区	大字区（問4の地区）	市全体	その他	不明・無回答
全体（n=738）		12.3	8.9	42.3	9.8	10.3	13.7	0.7	2.0
地域別	富高・新町地区（n=120）	15.0	9.2	50.0	6.7	5.0	11.7	0.8	1.7
	日知屋地区（n=58）	15.5	10.3	36.2	8.6	3.4	20.7	1.7	3.4
	日知屋東地区（n=90）	13.3	4.4	51.1	7.8	4.4	16.7	1.1	1.1
	細島地区（n=22）	22.7	4.5	18.2	13.6	27.3	13.6	0.0	0.0
	大王谷地区（n=122）	7.4	8.2	41.8	13.1	10.7	16.4	0.8	1.6
	財光寺地区（n=170）	9.4	8.8	36.5	8.8	18.2	16.5	0.6	1.2
	塩見地区（n=31）	22.6	6.5	38.7	12.9	3.2	9.7	0.0	6.5
	平岩地区（n=31）	9.7	6.5	54.8	9.7	12.9	3.2	0.0	3.2
	幸脇地区（n=9）	11.1	11.1	44.4	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0
	美々津地区（n=26）	11.5	11.5	50.0	11.5	7.7	3.8	0.0	3.8
	東郷地区（n=55）	14.5	20.0	38.2	12.7	10.9	3.6	0.0	0.0

問7 あなたは、お住まいの「地域」に愛着をお持ちですか。(単数回答)

住んでいる地域への愛着についてみると、「ある程度愛着がある」が51.8%と最も高く、次いで「とても愛着がある」が26.8%、「あまり愛着がない」が12.5%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

地域別にみると、細島地区、東郷地区では「とても愛着がある」、その他の地域では「ある程度愛着がある」が最も高くなっています。



単位: %		とても愛着がある	ある程度愛着がある	あまり愛着がない	まったく愛着がない	わからない	不明・無回答
全体(n=738)		26.8	51.8	12.5	2.8	5.1	0.9
地域別	富高・新町地区(n=120)	34.2	48.3	9.2	0.8	5.8	1.7
	日知屋地区(n=58)	25.9	46.6	19.0	6.9	1.7	0.0
	日知屋東地区(n=90)	21.1	62.2	7.8	2.2	5.6	1.1
	細島地区(n=22)	50.0	31.8	13.6	4.5	0.0	0.0
	大王谷地区(n=122)	20.5	54.9	10.7	7.4	5.7	0.8
	財光寺地区(n=170)	22.9	55.3	14.7	0.0	6.5	0.6
	塩見地区(n=31)	16.1	51.6	16.1	3.2	12.9	0.0
	平岩地区(n=31)	25.8	51.6	16.1	3.2	3.2	0.0
	幸脇地区(n=9)	33.3	55.6	0.0	11.1	0.0	0.0
	美々津地区(n=26)	19.2	53.8	23.1	0.0	3.8	0.0
	東郷地区(n=55)	45.5	40.0	9.1	1.8	1.8	1.8

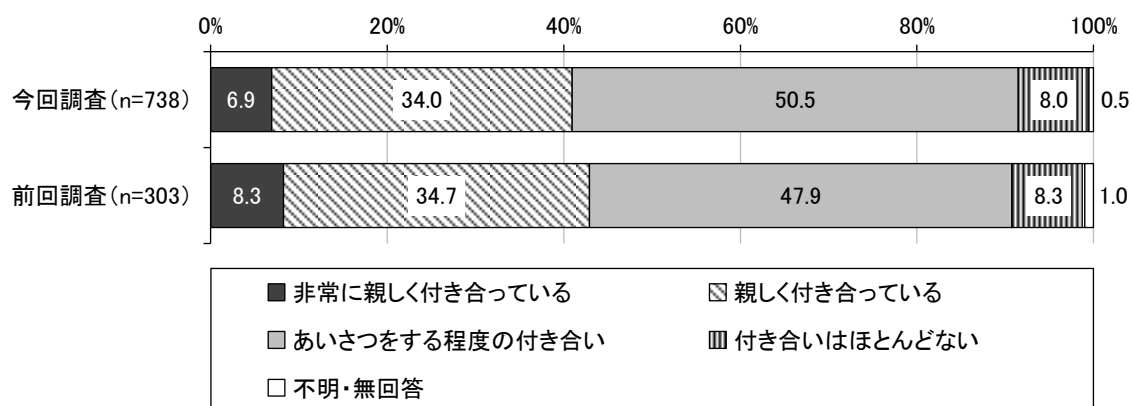
3 近所との関わりについて

問8 あなたは、近所の人とどの程度のお付き合いをしていますか。(単数回答)

お付き合いの程度についてみると、「あいさつをする程度の付き合い」が50.5%と最も高く、次いで「親しく付き合っている」が34.0%、「付き合いはほとんどない」が8.0%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

地域別にみると、平岩地区、美々津地区、東郷地区では「親しく付き合っている」、その他の地域では「あいさつをする程度の付き合い」が最も高くなっています。



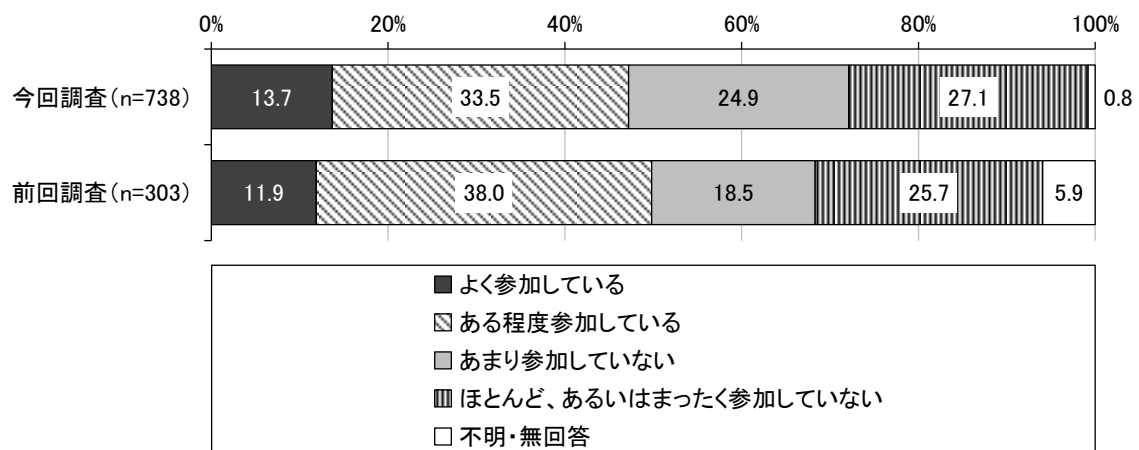
単位: %		非常に親しく付き合っている	親しく付き合っている	あいさつをする程度の付き合い	付き合いはほとんどない	不明・無回答
全体(n=738)		6.9	34.0	50.5	8.0	0.5
地域別	富高・新町地区(n=120)	7.5	41.7	44.2	6.7	0.0
	日知屋地区(n=58)	3.4	19.0	62.1	15.5	0.0
	日知屋東地区(n=90)	6.7	32.2	54.4	5.6	1.1
	細島地区(n=22)	13.6	27.3	50.0	4.5	4.5
	大王谷地区(n=122)	2.5	31.1	52.5	13.1	0.8
	財光寺地区(n=170)	4.7	23.5	65.9	5.9	0.0
	塩見地区(n=31)	16.1	25.8	41.9	16.1	0.0
	平岩地区(n=31)	3.2	54.8	38.7	3.2	0.0
	幸脇地区(n=9)	11.1	55.6	22.2	11.1	0.0
	美々津地区(n=26)	11.5	46.2	34.6	7.7	0.0
	東郷地区(n=55)	14.5	63.6	20.0	1.8	0.0

問9 あなたは、自治会(区)等の活動にどの程度参加していますか。(単数回答)

自治会(区)等の活動への参加頻度についてみると、「ある程度参加している」が33.5%と最も高く、次いで「ほとんど、あるいはまったく参加していない」が27.1%、「あまり参加していない」が24.9%となっています。

前回調査と比較すると、「あまり参加していない」が6.4ポイント高くなっています。

地域別にみると、平岩地区では「よく参加している」「ある程度参加している」、日知屋地区、財光寺地区、塩見地区では「ほとんど、あるいはまったく参加していない」、その他の地域では「ある程度参加している」が最も高くなっています。



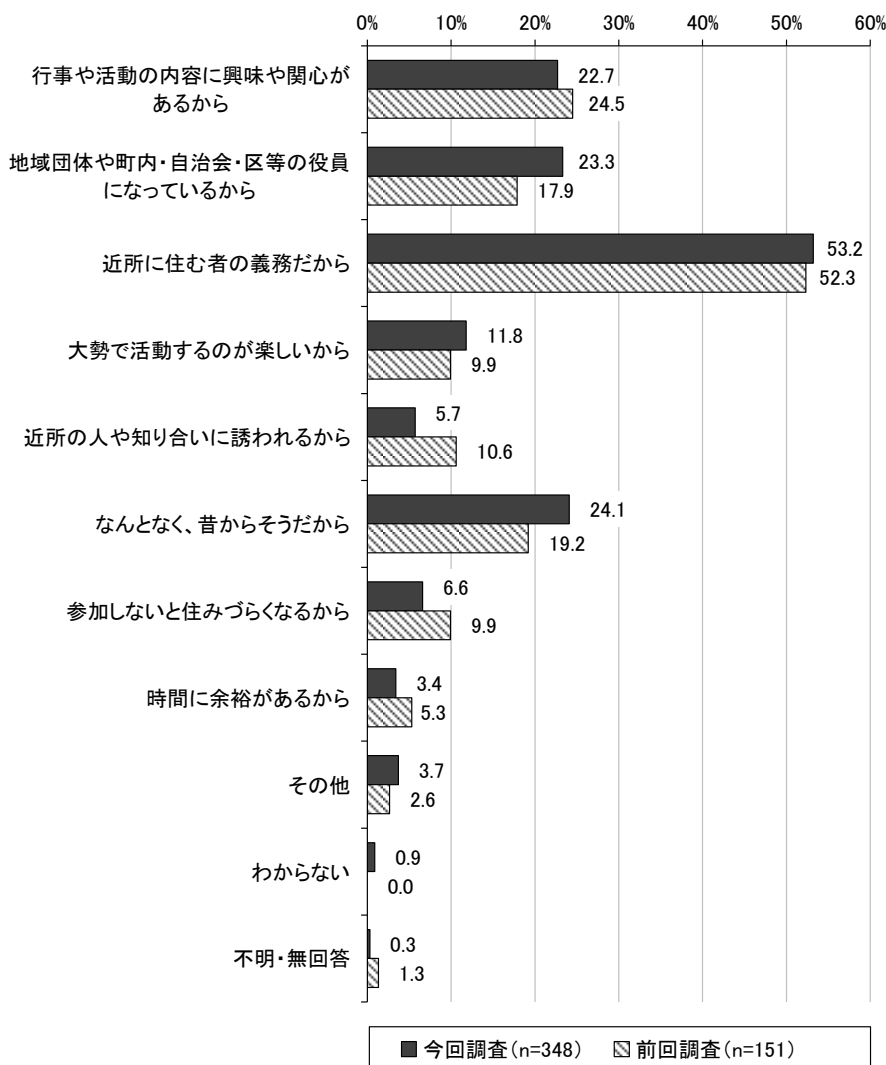
単位: %		よく参加している	ある程度参加している	あまり参加していない	ほとんど、あるいはまったく参加していない	不明・無回答
全体(n=738)		13.7	33.5	24.9	27.1	0.8
地域別	富高・新町地区(n=120)	12.5	34.2	25.8	27.5	0.0
	日知屋地区(n=58)	6.9	29.3	20.7	43.1	0.0
	日知屋東地区(n=90)	12.2	33.3	30.0	24.4	0.0
	細島地区(n=22)	13.6	40.9	27.3	18.2	0.0
	大王谷地区(n=122)	10.7	39.3	21.3	28.7	0.0
	財光寺地区(n=170)	8.2	27.1	30.0	32.9	1.8
	塩見地区(n=31)	12.9	25.8	22.6	35.5	3.2
	平岩地区(n=31)	35.5	35.5	16.1	12.9	0.0
	幸脇地区(n=9)	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0
	美々津地区(n=26)	19.2	46.2	23.1	11.5	0.0
	東郷地区(n=55)	30.9	43.6	18.2	5.5	1.8

問9で「よく参加している」または「ある程度参加している」と答えた方のみ

問10 自治会(区)等の活動に参加している主な理由は何ですか。(2つまで複数回答)

自治会(区)等の活動に参加している主な理由についてみると、「近所に住む者の義務だから」が53.2%と最も高く、次いで「なんとなく、昔からそうだから」が24.1%、「地域団体や町内・自治会・区等の役員になっているから」が23.3%となっています。

前回調査と比較すると、「地域団体や町内・自治会・区等の役員になっているから」が5.4ポイント高くなっています。



— 「その他」の回答 —

近所づきあい・つながりは大事だと思うから(2) / 住んで10年です / 班からぬけている / 気まずい。仲良しが役員の時に行く / 区の行事がないから / 区に入っていない / 区長等をしていたから / 住人(近隣)の顔位は知っておきたいから / 育成会 / 小さい子どもがいるため、なるべく活動に参加して知り合いをつくり、子どもを見守ってもらいたいと思ったから / 若い人がいるから / 日中仕事で留守のため、自治会の人と知り合う機会になるので / 区民の人数が少ない / 公民館を使わせてもらっているから / 人と会う事がとても楽しいから ※括弧内の数字は同様意見の数(以下、同)

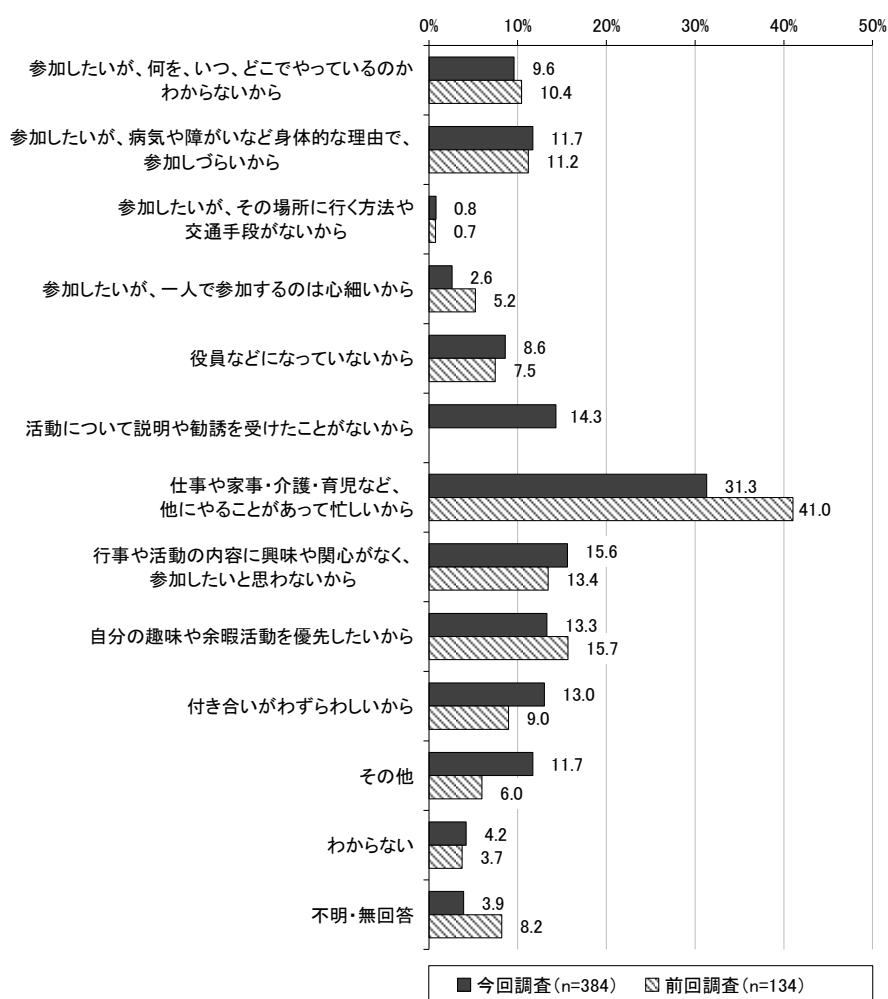
地域別にみると、塩見地区では「近所に住む者の義務だから」「なんとなく、昔からそうだから」、その他の地域では「近所に住む者の義務だから」が最も高くなっています。また、平岩地区では「地域団体や町内・自治会・区等の役員になっているから」が他の地域と比べて高くなっています。

単位：％		行事や活動の内容に興味や関心があるから	地域団体や町内・自治会・区等の役員になっているから	近所に住む者の義務だから	大勢で活動するのが楽しいから	近所の人や知り合いに誘われるから	なんとなく、昔からそうだから	参加しないと住みづらくなるから	時間に余裕があるから	その他	わからない	不明・無回答
全体 (n=348)		22.7	23.3	53.2	11.8	5.7	24.1	6.6	3.4	3.7	0.9	0.3
地域別	富高・新町地区 (n=56)	26.8	23.2	57.1	8.9	5.4	21.4	7.1	0.0	5.4	0.0	1.8
	日知屋地区 (n=21)	14.3	23.8	57.1	4.8	0.0	23.8	4.8	4.8	14.3	0.0	0.0
	日知屋東地区 (n=41)	24.4	22.0	58.5	7.3	7.3	22.0	7.3	0.0	0.0	4.9	0.0
	細島地区 (n=12)	25.0	16.7	50.0	0.0	16.7	16.7	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0
	大王谷地区 (n=61)	18.0	16.4	57.4	11.5	4.9	27.9	8.2	9.8	3.3	0.0	0.0
	財光寺地区 (n=60)	35.0	28.3	36.7	11.7	10.0	18.3	6.7	0.0	1.7	1.7	0.0
	塩見地区 (n=12)	25.0	8.3	41.7	8.3	8.3	41.7	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0
	平岩地区 (n=22)	18.2	40.9	54.5	22.7	0.0	31.8	4.5	4.5	0.0	0.0	0.0
	幸脇地区 (n=3)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	美々津地区 (n=17)	17.6	17.6	52.9	23.5	11.8	23.5	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0
	東郷地区 (n=41)	9.8	29.3	58.5	17.1	0.0	29.3	7.3	4.9	4.9	0.0	0.0

問9で「あまり参加していない」または「ほとんど、あるいはまったく参加していない」と答えた方のみ
問11 自治会(区)等の活動に参加しない主な理由は何ですか。(2つまで複数回答)

自治会(区)等の活動に参加しない主な理由についてみると、「仕事や家事・介護・育児など、他にやることがあって忙しいから」が31.3%と最も高く、次いで「行事や活動の内容に興味や関心がなく、参加したいと思わないから」が15.6%、「活動について説明や勧誘を受けたことがないから」が14.3%となっています。

前回調査と比較すると、「仕事や家事・介護・育児など、他にやることがあって忙しいから」が9.7ポイント低くなっています。



※「活動について説明や勧誘を受けたことがないから」は今回調査のみの選択肢。

— 「その他」の回答 —

高齢だから(6)／コロナ禍の影響で活動がない・参加したくない(6)／居住年数が少ないから(4)／親または他の家族が参加しているから(3)／いやな思い・たいへんな思いをしたことがあるから(5)／体調がすぐれないから(3)／仕事等で忙しいから(3)／以前は参加していたが、疎遠になった(3)／意義を感じないから(2)／活動そのものがないから／誘いがある時は参加している／グループホーム入居中／アパートなので／他地区の寮にいるため／入会していない／地元やその他縁のあった地域(市・町)の活動を行っているから／自分から参加している／区の人口が多いので参加しづらい／同年代があまり参加していないから

地域別にみると、塩見地区では「活動について説明や勧誘を受けたことがないから」、東郷地区では「自分の趣味や余暇活動を優先したいから」、その他の地域では「仕事や家事・介護・育児など、他にやることがあって忙しいから」が最も高くなっています。

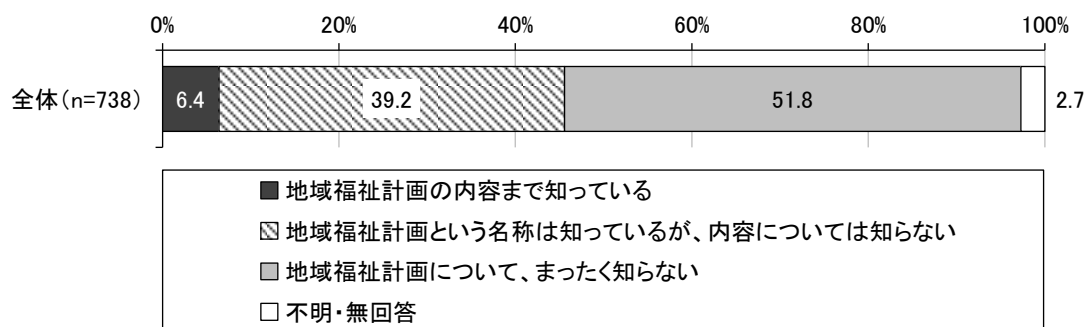
単位: %		や参加しているのか、わからないから	参加したいが、病気や障がいなど身体的理由で、参加しづらいから	参加したいが、その場所に行く方法や交通手段がないから	参加したいが、一人で参加するのは心細いから	役員などになっていないから	活動について説明や勧誘を受けたことがないから	仕事や家事・介護・育児など、他にやることがあって忙しいから	行事や活動の内容に興味がなく、参加したいと思わないから	自分の趣味や余暇活動を優先したいから	付き合いがわずらわしいから	その他	わからない	不明・無回答
全体 (n=384)		9.6	11.7	0.8	2.6	8.6	14.3	31.3	15.6	13.3	13.0	11.7	4.2	3.9
地域別	富高・新町地区 (n=64)	9.4	14.1	0.0	4.7	9.4	12.5	25.0	18.8	10.9	9.4	17.2	1.6	6.3
	日知屋地区 (n=37)	16.2	13.5	2.7	0.0	8.1	16.2	32.4	5.4	24.3	10.8	5.4	2.7	5.4
	日知屋東地区 (n=49)	4.1	4.1	0.0	2.0	10.2	16.3	32.7	14.3	14.3	12.2	14.3	10.2	4.1
	細島地区 (n=10)	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	40.0	20.0	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0
	大王谷地区 (n=61)	6.6	6.6	0.0	0.0	9.8	9.8	42.6	19.7	13.1	11.5	13.1	6.6	1.6
	財光寺地区 (n=107)	13.1	11.2	0.0	5.6	7.5	17.8	33.6	16.8	10.3	15.0	11.2	2.8	2.8
	塩見地区 (n=18)	16.7	22.2	5.6	0.0	5.6	33.3	27.8	11.1	5.6	11.1	5.6	5.6	0.0
	平岩地区 (n=9)	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	22.2	55.6	11.1	0.0	0.0
	幸脇地区 (n=6)	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0
	美々津地区 (n=9)	11.1	22.2	0.0	0.0	22.2	0.0	22.2	11.1	0.0	0.0	22.2	0.0	11.1
	東郷地区 (n=13)	7.7	23.1	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7	15.4	30.8	7.7	0.0	0.0	7.7

4 地域福祉に対する考えについて

問 12 日向市地域福祉計画を知っていますか。(単数回答)

日向市地域福祉計画の認知度についてみると、「地域福祉計画について、まったく知らない」が51.8%と最も高く、次いで「地域福祉計画という名称は知っているが、内容については知らない」が39.2%、「地域福祉計画の内容まで知っている」が6.4%となっています。

地域別にみると、日知屋地区、美々津地区、東郷地区では「地域福祉計画という名称は知っているが、内容については知らない」、その他の地域では「地域福祉計画について、まったく知らない」が最も高くなっています。

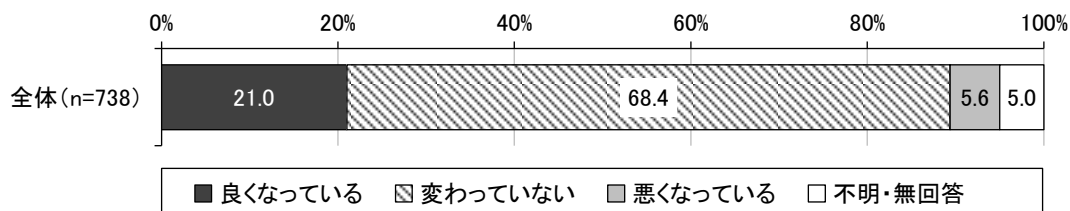


単位: %		地域福祉計画の内容まで知っている	が地域福祉計画という名称は知っているが、内容については知らない	ない地域福祉計画について、まったく知らない	不明・無回答
全体 (n=738)		6.4	39.2	51.8	2.7
地域別	富高・新町地区 (n=120)	9.2	35.0	50.0	5.8
	日知屋地区 (n=58)	1.7	25.9	70.7	1.7
	日知屋東地区 (n=90)	3.3	50.0	45.6	1.1
	細島地区 (n=22)	9.1	22.7	59.1	9.1
	大王谷地区 (n=122)	6.6	37.7	54.9	0.8
	財光寺地区 (n=170)	5.3	37.6	56.5	0.6
	塩見地区 (n=31)	3.2	32.3	51.6	12.9
	平岩地区 (n=31)	12.9	41.9	45.2	0.0
	幸脇地区 (n=9)	0.0	33.3	66.7	0.0
	美々津地区 (n=26)	3.8	50.0	42.3	3.8
	東郷地区 (n=55)	10.9	58.2	27.3	3.6

問 13 以前と比べて、地域福祉（誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくり）は良くなっていると感じますか。（単数回答）

地域福祉は良くなっていると感じるかについてみると、「変わっていない」が 68.4%と最も高く、次いで「良くなっている」が 21.0%、「悪くなっている」が 5.6%となっています。

地域別にみると、すべての地域で「変わっていない」が最も高くなっています。



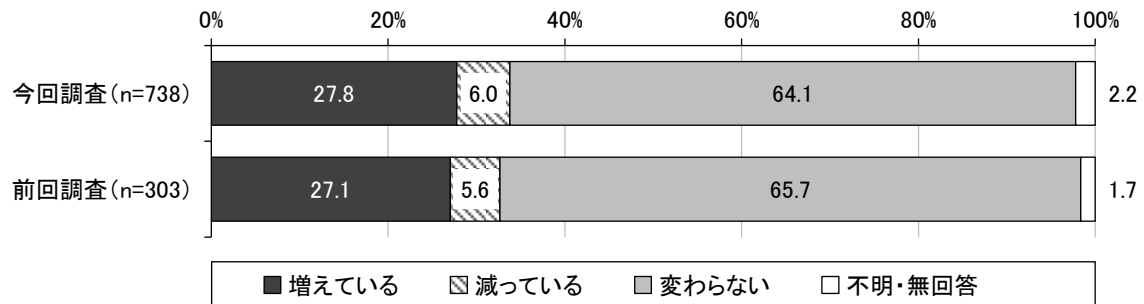
単位: %		良くなっている	変わっていない	悪くなっている	不明・無回答
全体 (n=738)		21.0	68.4	5.6	5.0
地域別	富高・新町地区 (n=120)	21.7	65.8	5.8	6.7
	日知屋地区 (n=58)	19.0	69.0	6.9	5.2
	日知屋東地区 (n=90)	20.0	71.1	5.6	3.3
	細島地区 (n=22)	22.7	63.6	9.1	4.5
	大王谷地区 (n=122)	23.0	69.7	3.3	4.1
	財光寺地区 (n=170)	20.0	72.9	4.1	2.9
	塩見地区 (n=31)	19.4	64.5	3.2	12.9
	平岩地区 (n=31)	19.4	67.7	6.5	6.5
	幸脇地区 (n=9)	11.1	77.8	0.0	11.1
	美々津地区 (n=26)	19.2	69.2	0.0	11.5
	東郷地区 (n=55)	25.5	54.5	16.4	3.6

問 14 普段の暮らしの中で、あなたの「困りごと」は以前より増えていますか。(単数回答)

普段の暮らしの中で困りごとは以前より増えているかについてみると、「変わらない」が 64.1%と最も高く、次いで「増えている」が 27.8%、「減っている」が 6.0%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

地域別にみると、すべての地域で「変わらない」が最も高くなっています。



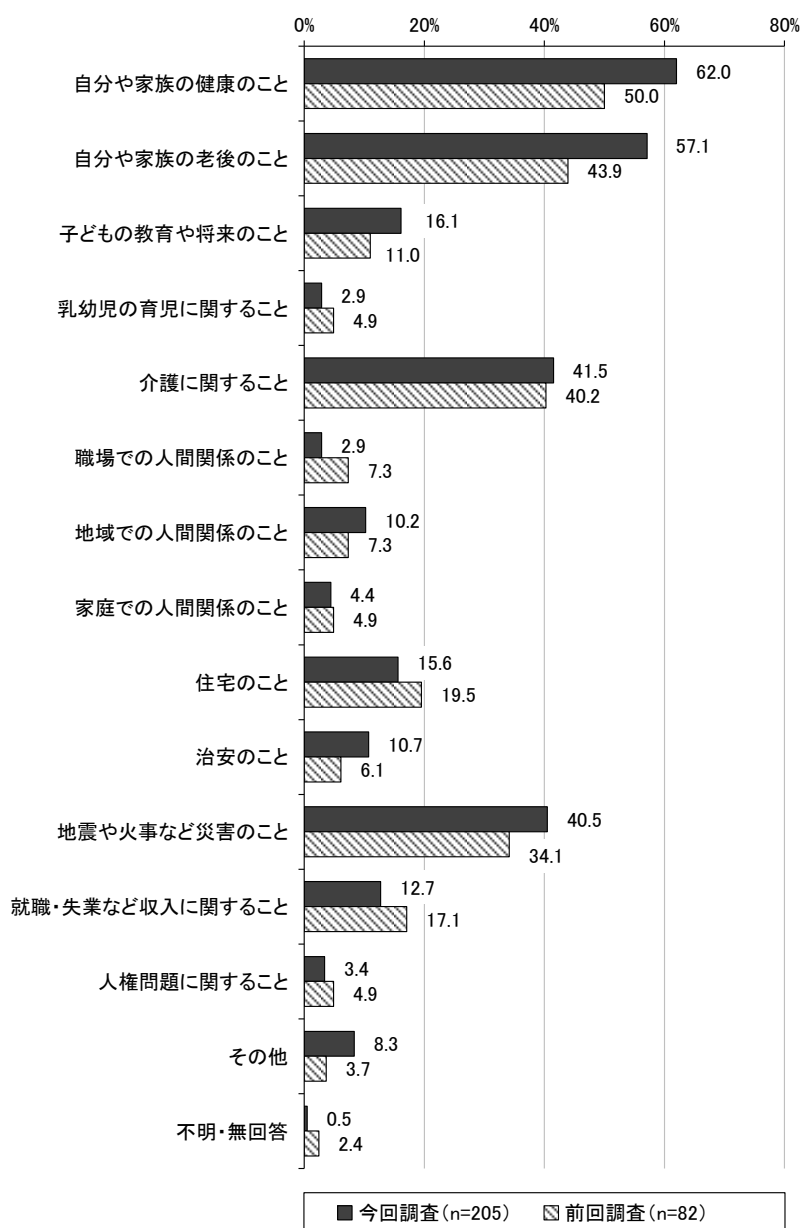
単位: %		増えている	減っている	変わらない	不明・無回答
全体(n=738)		27.8	6.0	64.1	2.2
地域別	富高・新町地区(n=120)	19.2	5.8	72.5	2.5
	日知屋地区(n=58)	27.6	6.9	65.5	0.0
	日知屋東地区(n=90)	30.0	6.7	62.2	1.1
	細島地区(n=22)	27.3	9.1	59.1	4.5
	大王谷地区(n=122)	26.2	5.7	65.6	2.5
	財光寺地区(n=170)	28.2	6.5	65.3	0.0
	塩見地区(n=31)	32.3	0.0	61.3	6.5
	平岩地区(n=31)	38.7	3.2	58.1	0.0
	幸脇地区(n=9)	44.4	22.2	33.3	0.0
	美々津地区(n=26)	34.6	0.0	53.8	11.5
	東郷地区(n=55)	30.9	7.3	58.2	3.6

問 14 で「増えている」と答えた方のみ

問 15 どんな「困りごと」が増えましたか。(複数回答)

増えた困りごとについてみると、「自分や家族の健康のこと」が 62.0%と最も高く、次いで「自分や家族の老後のこと」が 57.1%、「介護に関すること」が 41.5%となっています。

前回調査と比較すると、「自分や家族の老後のこと」が 13.2 ポイント、「自分や家族の健康のこと」が 12.0 ポイント高くなっています。



— 「その他」の回答 —

全て該当／働けなくなった後のこと／子どもの遊び場／ペットについて／地域でのこと／日向市が劣化していく／covid19 の影響、営業電話が多くて邪魔／山の開発による土地のトラブル／野良猫が増えて、ゴミを安心して集積所へ置けないこと／ゴミ処理／通院について／軽度の障がい者として住みづらい／生活困窮／高齢集落になって来ている／ひとりになったから／インフラの劣化、障がい者差別など
全て

地域別にみると、平岩地区では「自分や家族の健康のこと」「自分や家族の老後のこと」、日知屋東地区では「自分や家族の老後のこと」、その他の地域では「自分や家族の健康のこと」が最も高くなっています。

単位：%		自分や家族の健康のこと	自分や家族の老後のこと	子どもの教育や将来のこと	乳幼児の育児に関すること	介護に関すること	職場での人間関係のこと	地域での人間関係のこと	家庭での人間関係のこと	住宅のこと	治安のこと
全体 (n=205)		62.0	57.1	16.1	2.9	41.5	2.9	10.2	4.4	15.6	10.7
地域別	富高・新町地区 (n=23)	69.6	65.2	26.1	8.7	47.8	0.0	26.1	8.7	21.7	17.4
	日知屋地区 (n=16)	56.3	43.8	37.5	0.0	37.5	6.3	6.3	12.5	18.8	25.0
	日知屋東地区 (n=27)	66.7	77.8	11.1	3.7	55.6	3.7	11.1	3.7	11.1	11.1
	細島地区 (n=6)	33.3	16.7	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0
	大王谷地区 (n=32)	68.8	65.6	28.1	3.1	43.8	0.0	6.3	3.1	28.1	6.3
	財光寺地区 (n=48)	62.5	50.0	14.6	4.2	33.3	4.2	4.2	4.2	14.6	8.3
	塩見地区 (n=10)	50.0	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0	20.0	10.0	10.0	10.0
	平岩地区 (n=12)	75.0	75.0	8.3	0.0	41.7	8.3	25.0	0.0	8.3	16.7
	幸脇地区 (n=4)	25.0	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	美々津地区 (n=9)	44.4	55.6	11.1	0.0	55.6	0.0	0.0	0.0	11.1	22.2
	東郷地区 (n=17)	64.7	52.9	0.0	0.0	52.9	0.0	5.9	0.0	5.9	0.0

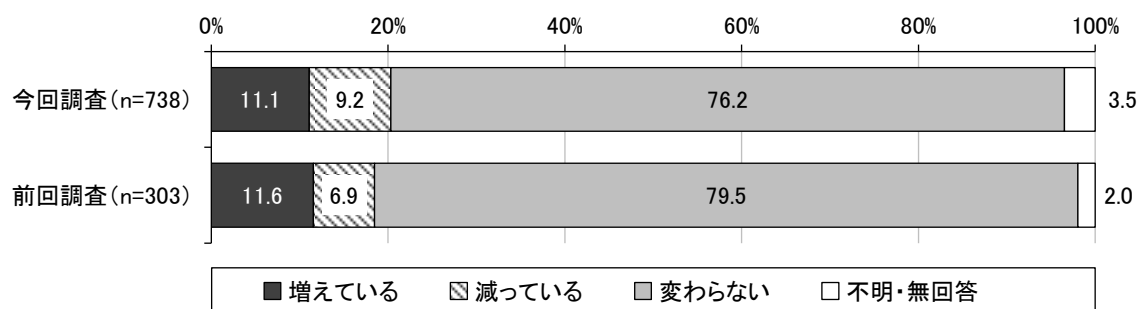
単位：%		と地震や火事など災害のこと	就職・失業など収入に関すること	人権問題に関すること	その他	不明・無回答
全体 (n=205)		40.5	12.7	3.4	8.3	0.5
地域別	富高・新町地区 (n=23)	52.2	8.7	0.0	0.0	0.0
	日知屋地区 (n=16)	18.8	25.0	6.3	12.5	0.0
	日知屋東地区 (n=27)	59.3	11.1	3.7	11.1	0.0
	細島地区 (n=6)	50.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	大王谷地区 (n=32)	43.8	15.6	0.0	9.4	0.0
	財光寺地区 (n=48)	29.2	20.8	6.3	6.3	2.1
	塩見地区 (n=10)	30.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	平岩地区 (n=12)	33.3	0.0	8.3	0.0	0.0
	幸脇地区 (n=4)	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	美々津地区 (n=9)	44.4	11.1	11.1	0.0	0.0
	東郷地区 (n=17)	52.9	0.0	0.0	29.4	0.0

問 16 普段の暮らしの中で、あなたの「困りごと」を相談できる相手先は、以前より増えていますか。（単数回答）

困りごとを相談できる相手先は増えているかについてみると、「変わらない」が 76.2%と最も高く、次いで「増えている」が 11.1%、「減っている」が 9.2%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

地域別にみると、すべての地域で「変わらない」が最も高くなっています。

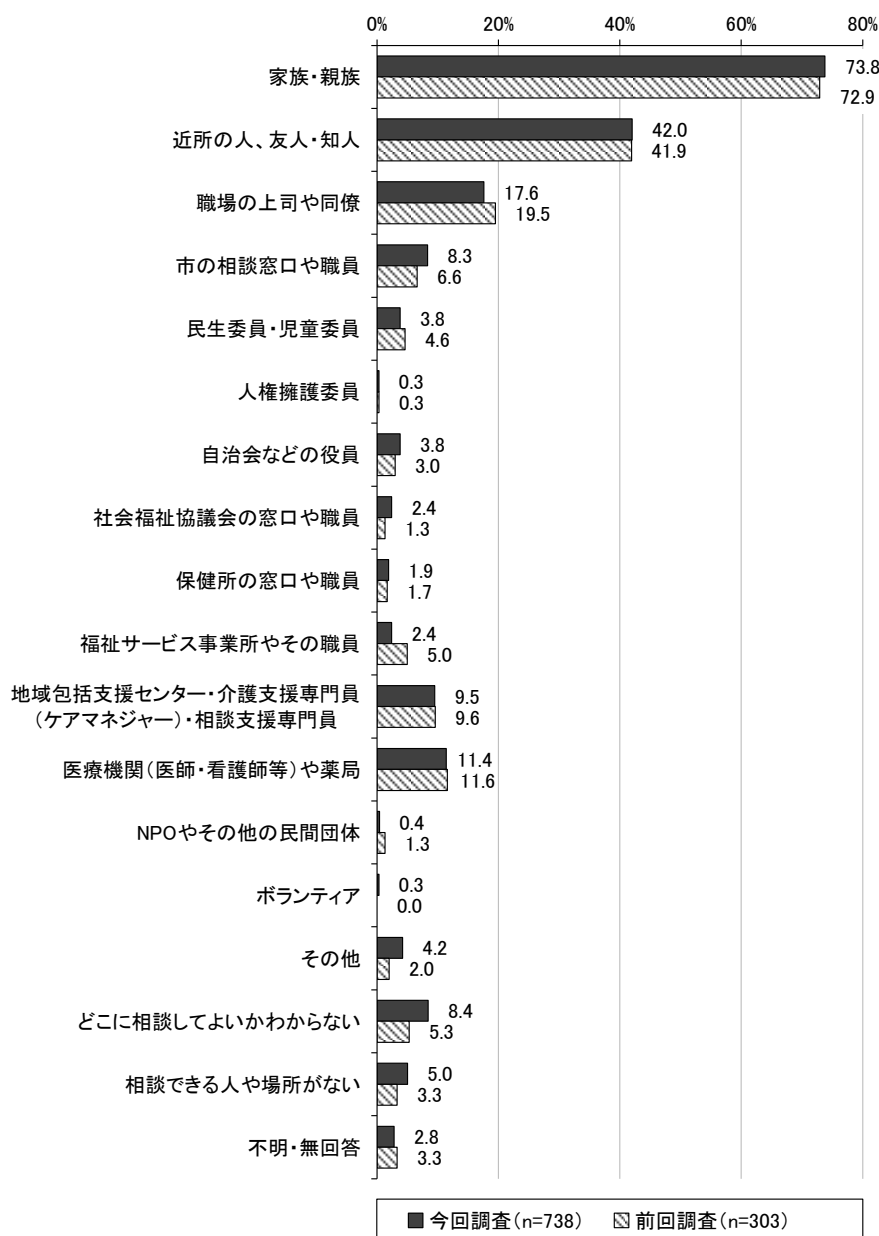


単位: %		増えている	減っている	変わらない	不明・無回答
全体 (n=738)		11.1	9.2	76.2	3.5
地域別	富高・新町地区 (n=120)	10.8	9.2	75.0	5.0
	日知屋地区 (n=58)	12.1	8.6	79.3	0.0
	日知屋東地区 (n=90)	15.6	8.9	73.3	2.2
	細島地区 (n=22)	0.0	9.1	77.3	13.6
	大王谷地区 (n=122)	11.5	7.4	78.7	2.5
	財光寺地区 (n=170)	11.2	9.4	78.8	0.6
	塩見地区 (n=31)	16.1	9.7	67.7	6.5
	平岩地区 (n=31)	9.7	9.7	71.0	9.7
	幸脇地区 (n=9)	22.2	0.0	66.7	11.1
	美々津地区 (n=26)	11.5	3.8	76.9	7.7
	東郷地区 (n=55)	3.6	16.4	74.5	5.5

問 17 あなたの「困りごと」や悩み、不安について、誰に、またはどこに相談していますか。
(複数回答)

困りごとや悩み、不安の相談先についてみると、「家族・親族」が 73.8%と最も高く、次いで「近所の人、友人・知人」が 42.0%、「職場の上司や同僚」が 17.6%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



※「地域包括支援センター・介護支援専門員 (ケアマネジャー)・相談支援専門員」は前回調査では「包括支援センター・介護支援専門員 (ケアマネジャー)」。

— 「その他」の回答 —

相談しない (4) / 警察 (3) / インターネットや SNS で調べる (3) / 施設の職員 (3) / 親しい友人 (2) / 市議会議員 (2) / 自己解決 (2) / 相談するする内容がない / 動物病院 / 教会 / 相談することで悪化する危険性がある / 弁護士 / 遠方にいる兄弟 / 適切な相談先 / 特になし / 困りごとがない / 警察に相談した事があるが現在はあきらめている / 海外の方々

地域別にみると、すべての地域で「家族・親族」が最も高くなっています。

単位：％		家族・親族	近所の人、友人・知人	職場の上司や同僚	市の相談窓口や職員	民生委員・児童委員	人権擁護委員	自治会などの役員	社会福祉協議会の窓口や職員	保健所の窓口や職員	福祉サービス事業所やその職員
全体 (n=738)		73.8	42.0	17.6	8.3	3.8	0.3	3.8	2.4	1.9	2.4
地域別	富高・新町地区 (n=120)	74.2	34.2	20.8	6.7	3.3	0.8	1.7	1.7	0.8	2.5
	日知屋地区 (n=58)	79.3	41.4	19.0	8.6	1.7	0.0	3.4	5.2	1.7	5.2
	日知屋東地区 (n=90)	67.8	40.0	17.8	7.8	2.2	0.0	5.6	2.2	5.6	3.3
	細島地区 (n=22)	72.7	36.4	18.2	4.5	0.0	0.0	13.6	0.0	0.0	0.0
	大王谷地区 (n=122)	76.2	50.8	21.3	8.2	4.1	0.0	3.3	3.3	0.8	0.8
	財光寺地区 (n=170)	79.4	44.1	19.4	11.2	4.7	0.0	4.1	0.6	2.4	3.5
	塩見地区 (n=31)	67.7	38.7	19.4	3.2	3.2	0.0	0.0	6.5	0.0	3.2
	平岩地区 (n=31)	74.2	41.9	16.1	6.5	3.2	3.2	6.5	3.2	3.2	0.0
	幸脇地区 (n=9)	77.8	55.6	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	美々津地区 (n=26)	69.2	46.2	3.8	3.8	3.8	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0
	東郷地区 (n=55)	63.6	38.2	1.8	12.7	5.5	0.0	3.6	5.5	1.8	1.8

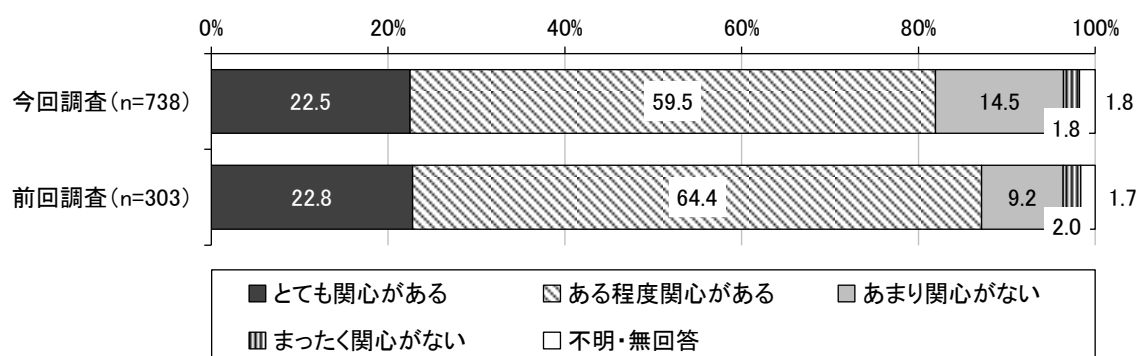
単位：％		介護施設・専門相談支援専門員	地域包括支援センター・介護支援専門員	医療機関（医師・看護師等）や薬局	NPOやその他の民間団体	ボランティア	その他	どこに相談してよいかわからない	相談できる人や場所がない	不明・無回答
全体 (n=738)		9.5	11.4	0.4	0.3	4.2	8.4	5.0	2.8	
地域別	富高・新町地区 (n=120)	10.8	10.8	0.0	0.0	7.5	6.7	6.7	3.3	
	日知屋地区 (n=58)	1.7	10.3	3.4	0.0	5.2	8.6	3.4	1.7	
	日知屋東地区 (n=90)	10.0	16.7	1.1	1.1	6.7	11.1	7.8	2.2	
	細島地区 (n=22)	4.5	4.5	0.0	0.0	0.0	4.5	4.5	13.6	
	大王谷地区 (n=122)	5.7	6.6	0.0	0.0	2.5	3.3	4.9	1.6	
	財光寺地区 (n=170)	11.2	12.4	0.0	0.6	2.9	11.8	4.7	0.0	
	塩見地区 (n=31)	12.9	9.7	0.0	0.0	6.5	6.5	0.0	9.7	
	平岩地区 (n=31)	12.9	9.7	0.0	0.0	3.2	6.5	6.5	0.0	
	幸脇地区 (n=9)	22.2	22.2	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	
	美々津地区 (n=26)	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	11.5	11.5	7.7	
	東郷地区 (n=55)	14.5	18.2	0.0	0.0	3.6	10.9	0.0	7.3	

問 18 あなたは、地域の生活・福祉課題（孤独死、高齢者・児童虐待、老々介護など）に関心をお持ちですか。（単数回答）

地域の生活・福祉課題への関心についてみると、「ある程度関心がある」が 59.5%と最も高く、次いで「とても関心がある」が 22.5%、「あまり関心がない」が 14.5%となっています。

前回調査と比較すると、「あまり関心がない」が 5.3 ポイント高くなっています。

地域別にみると、すべての地域で「ある程度関心がある」が最も高くなっています。また、塩見地区では『関心がある』（「とても関心がある」「ある程度関心がある」の計）が他の地域と比べて低くなっています。

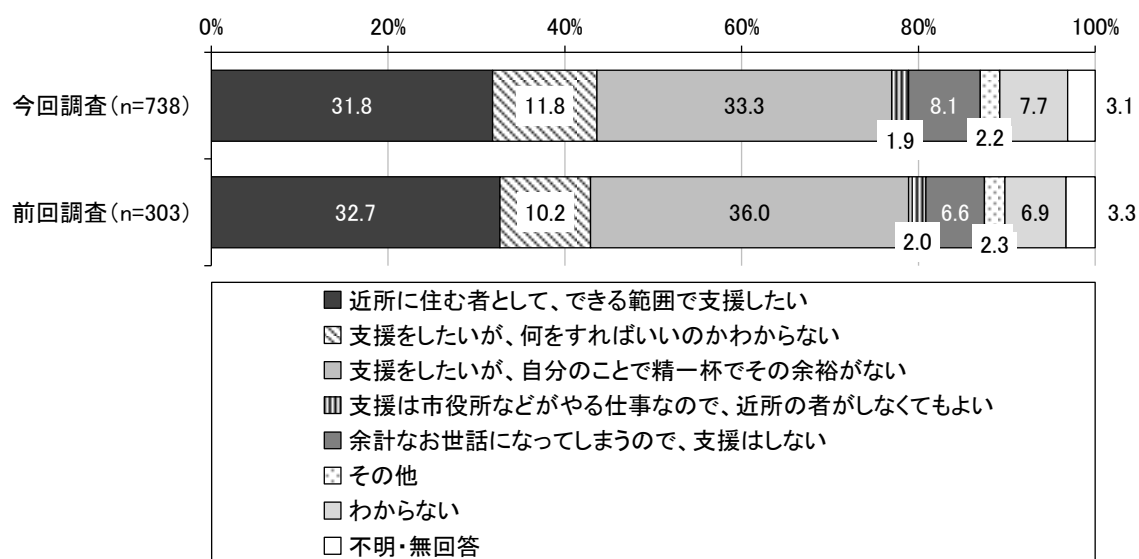


単位：%		とても関心がある	ある程度関心がある	あまり関心がない	まったく関心がない	不明・無回答
全体 (n=738)		22.5	59.5	14.5	1.8	1.8
地域別	富高・新町地区 (n=120)	23.3	62.5	11.7	0.8	1.7
	日知屋地区 (n=58)	17.2	62.1	17.2	3.4	0.0
	日知屋東地区 (n=90)	23.3	62.2	13.3	0.0	1.1
	細島地区 (n=22)	22.7	59.1	0.0	9.1	9.1
	大王谷地区 (n=122)	23.0	55.7	18.0	1.6	1.6
	財光寺地区 (n=170)	18.2	64.1	17.1	0.6	0.0
	塩見地区 (n=31)	16.1	45.2	25.8	6.5	6.5
	平岩地区 (n=31)	25.8	61.3	9.7	0.0	3.2
	幸脇地区 (n=9)	22.2	44.4	11.1	22.2	0.0
	美々津地区 (n=26)	34.6	46.2	15.4	0.0	3.8
	東郷地区 (n=55)	32.7	54.5	7.3	1.8	3.6

問 19 隣近所の、何らかの支援を必要としている方（一人暮らしの高齢者・介護をしている家族、子育て中の家族等）への支援（日常生活上の手助け・お手伝い）について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。（単数回答）

隣近所の、何らかの支援を必要としている方への支援についてみると、「支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない」が33.3%と最も高く、次いで「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」が31.8%、「支援をしたいが、何をすればいいのかわからない」が11.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



－ 「その他」の回答 －

体調がすぐれないのでできない（２）／トラブルにまきこまれそう（２）／したくない／できる事はしてあげたいが、余計なお世話になってしまうのではないかなと思う／高齢者なのでできない／状況次第で考えて支援する／地域では話を聞かない（今の所）／付き合いがない／いやがらせを受けているのでしたくない／仲の良さによる／他人の家庭までふみ込むのは気がひける／時々近所の人と声かけしている／人の支援どころではない。自分や家族の事だけで精いっぱい

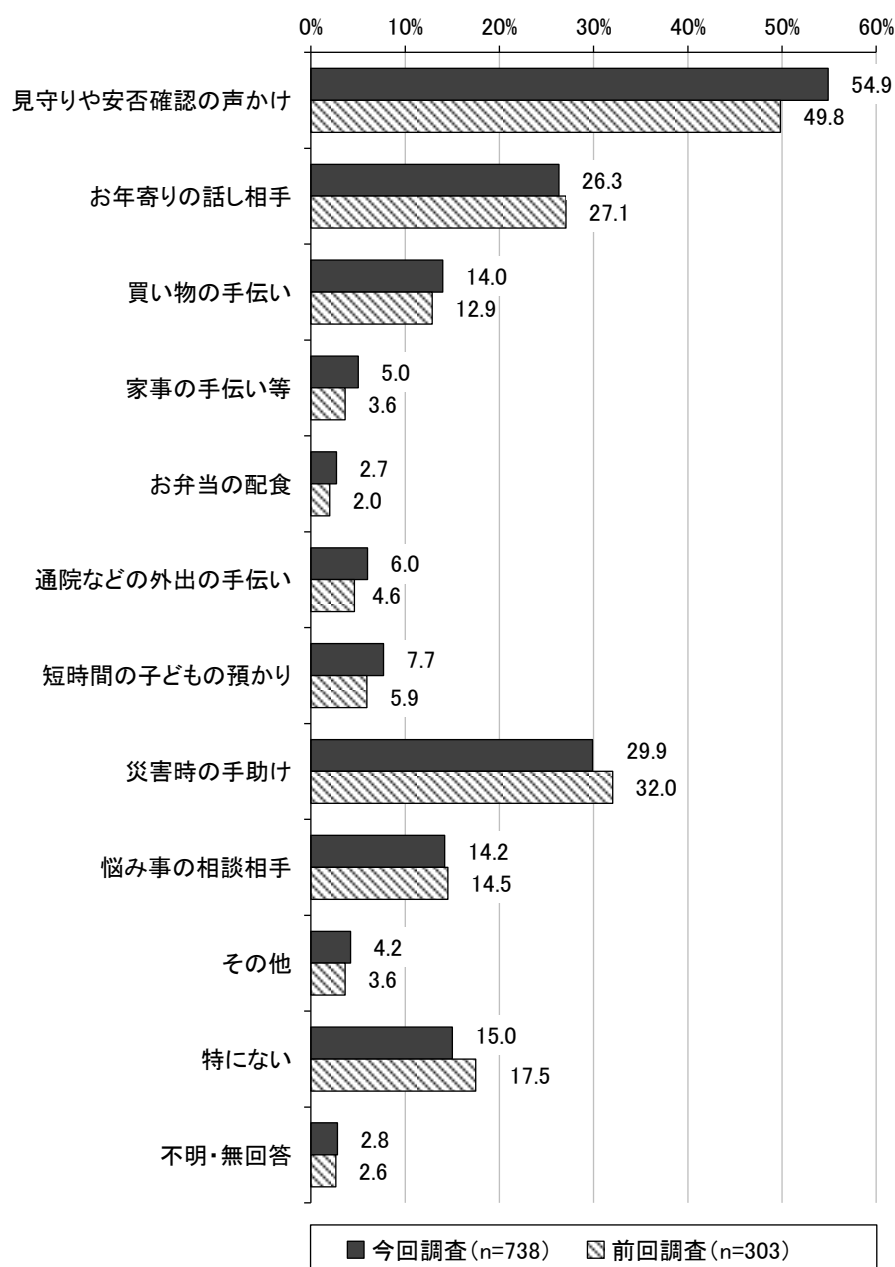
地域別にみると、細島地区では「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」「支援をしたいが、何をすればいいのかわからない」、日知屋東地区、平岩地区、美々津地区、東郷地区では「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」、その他の地域では「支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない」が最も高くなっています。

単位: %		近所に住む者として、できる範囲で支援したい	支援をしたいが、何をすればいいかわからない	支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない	支援は市役所などがやる仕事なので、近所の者がしなくてもよい	余計なお世話になってしまうので、支援はしない	その他	わからない	不明・無回答
全体 (n=738)		31.8	11.8	33.3	1.9	8.1	2.2	7.7	3.1
地域別	富高・新町地区 (n=120)	30.8	11.7	36.7	4.2	6.7	4.2	3.3	2.5
	日知屋地区 (n=58)	25.9	19.0	37.9	0.0	10.3	1.7	5.2	0.0
	日知屋東地区 (n=90)	37.8	11.1	32.2	2.2	6.7	1.1	5.6	3.3
	細島地区 (n=22)	27.3	27.3	22.7	0.0	4.5	0.0	9.1	9.1
	大王谷地区 (n=122)	27.0	12.3	34.4	0.0	9.8	3.3	10.7	2.5
	財光寺地区 (n=170)	32.4	10.6	35.3	2.4	7.6	1.2	8.8	1.8
	塩見地区 (n=31)	16.1	12.9	25.8	0.0	12.9	3.2	19.4	9.7
	平岩地区 (n=31)	38.7	9.7	29.0	3.2	6.5	6.5	6.5	0.0
	幸脇地区 (n=9)	33.3	0.0	22.2	0.0	22.2	0.0	11.1	11.1
	美々津地区 (n=26)	38.5	7.7	19.2	7.7	7.7	0.0	11.5	7.7
	東郷地区 (n=55)	43.6	7.3	34.5	0.0	3.6	0.0	5.5	5.5

問 20 隣近所に、介護や、子育てで困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができますか。(複数回答)

隣近所の困っている家庭へできる手助けについてみると、「見守りや安否確認の声かけ」が 54.9%と最も高く、次いで「災害時の手助け」が 29.9%、「お年寄りの話し相手」が 26.3%となっています。

前回調査と比較すると、「見守りや安否確認の声かけ」が 5.1 ポイント高くなっています。



— 「その他」の回答 —

高齢なのでできない (4) / 行政・相談員等につなぐ (4) / 自分のことで精いっぱい (3) / 体調がすぐれないのでできない (2) / 自分自身できるすべて (2) / したくてもできない (2) / 忙しくてできない / される側 / 生活に余裕がないので不可能 / 税金を納めています / 子ども服のおさがりをあげる / 頼られたらできる範囲でやりたいとは思う / 付き合いがない / あきらかに困っている内容のみ / ゴミ出し / 見てみぬふり

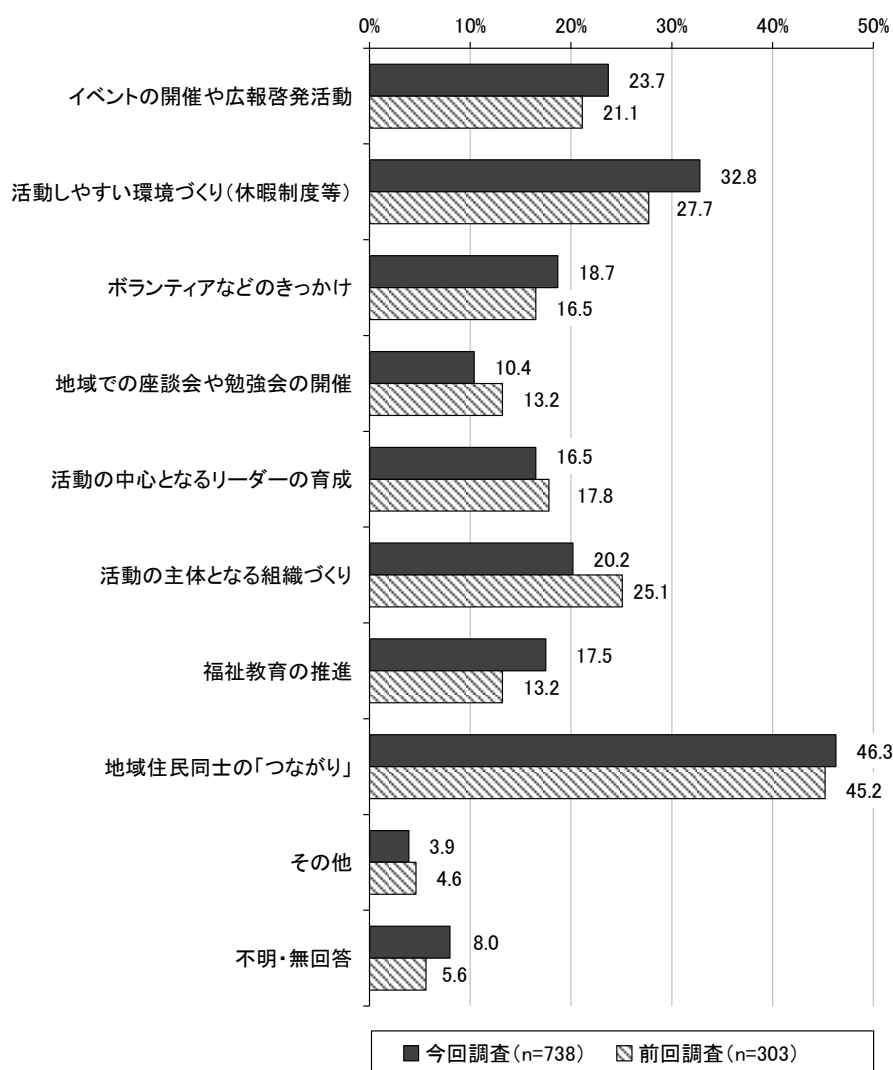
地域別にみると、すべての地域で「見守りや安否確認の声かけ」が最も高くなっています。また、美々津地区、東郷地区では「通院などの外出の手伝い」が他の地域と比べて高くなっています。

単位: %		見守りや安否確認の声かけ	お年寄りの話し相手	買い物の手伝い	家事の手伝い等	お弁当の配食	通院などの外出の手伝い	短時間の子どもの預かり	災害時の手助け	悩みの相談相手	その他	特にない	不明・無回答
全体 (n=738)		54.9	26.3	14.0	5.0	2.7	6.0	7.7	29.9	14.2	4.2	15.0	2.8
地域別	富高・新町地区 (n=120)	55.0	25.0	12.5	5.0	3.3	3.3	5.8	28.3	12.5	4.2	11.7	5.0
	日知屋地区 (n=58)	60.3	34.5	8.6	3.4	3.4	6.9	15.5	29.3	20.7	0.0	5.2	0.0
	日知屋東地区 (n=90)	57.8	17.8	18.9	10.0	5.6	6.7	16.7	36.7	14.4	2.2	14.4	4.4
	細島地区 (n=22)	50.0	22.7	9.1	4.5	0.0	4.5	4.5	36.4	13.6	9.1	13.6	13.6
	大王谷地区 (n=122)	59.0	26.2	13.1	3.3	2.5	4.9	6.6	27.9	13.1	6.6	15.6	0.8
	財光寺地区 (n=170)	50.6	29.4	15.9	5.3	3.5	4.1	5.9	28.2	13.5	4.7	19.4	0.0
	塩見地区 (n=31)	35.5	16.1	9.7	0.0	0.0	3.2	3.2	19.4	16.1	9.7	25.8	12.9
	平岩地区 (n=31)	71.0	29.0	3.2	6.5	0.0	6.5	9.7	38.7	19.4	0.0	9.7	0.0
	幸脇地区 (n=9)	44.4	22.2	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	33.3	11.1
	美々津地区 (n=26)	46.2	15.4	19.2	7.7	0.0	15.4	7.7	23.1	11.5	7.7	23.1	3.8
	東郷地区 (n=55)	58.2	36.4	14.5	1.8	0.0	14.5	1.8	36.4	14.5	1.8	9.1	1.8

問 21 地域の生活・福祉課題を解決するために必要な活動(地域福祉活動)を活発にするためには、
どのようなことが必要だと考えますか。(3つまで複数回答)

地域福祉活動を活発にするために必要なことについてみると、「地域住民同士の『つながり』」が46.3%と最も高く、次いで「活動しやすい環境づくり(休暇制度等)」が32.8%、「イベントの開催や広報啓発活動」が23.7%となっています。

前回調査と比較すると、「活動しやすい環境づくり(休暇制度等)」が5.1ポイント高くなっています。



— 「その他」の回答 —

わからない(5)／金銭や時間の余裕を人々にあたえる(2)／予算の確保(2)／経済の活性化、人口増加／お年寄りでもわかりやすい相談内容とその窓口解決法を広報、冊子作成、配布／資金運用の見直し／ボランティアに頼りすぎず賃金を市税で出しCMを使って告知する／市の政治家のクリーン化／そんな暇はない／課題による／民生委員の(仕事に)人選をしてほしい／求めてない／子育てに関する親への教育(虐待防止のため)／机の上だけでは理解してもらえない。通り一遍の活動・支援の相談をあきらめる／自宅訪問／近所同士で事前に仲を良くするのが最適／地域の伝統的行事を維持していくこと／隣人同士の気づかいがないと何事もうまくいかない／旧宿場町(美々津町)の遺産がある。発展のために呼びかけては？／有識者会議など

地域別にみると、日知屋東地区では「活動しやすい環境づくり（休暇制度等）」、その他の地域では「地域住民同士の『つながり』」が最も高くなっています。また、大王谷地区では「ボランティアなどのきかけ」、平岩地区では「福祉教育の推進」が他の地域と比べて高くなっています。

単位：%		イベントの開催や広報啓発活動	活動しやすい環境づくり（休暇制度等）	ボランティアなどのきかけ	地域での座談会や勉強会の開催	活動の中心となるリーダーの育成	活動の主体となる組織づくり	福祉教育の推進	地域住民同士の「つながり」	その他	不明・無回答
全体 (n=738)		23.7	32.8	18.7	10.4	16.5	20.2	17.5	46.3	3.9	8.0
地域別	富高・新町地区 (n=120)	24.2	30.8	15.0	11.7	20.8	22.5	13.3	43.3	4.2	8.3
	日知屋地区 (n=58)	29.3	32.8	15.5	17.2	19.0	15.5	19.0	55.2	3.4	3.4
	日知屋東地区 (n=90)	18.9	38.9	18.9	12.2	18.9	23.3	24.4	36.7	4.4	10.0
	細島地区 (n=22)	18.2	27.3	18.2	4.5	22.7	13.6	4.5	31.8	4.5	18.2
	大王谷地区 (n=122)	23.8	34.4	29.5	9.8	10.7	23.0	22.1	46.7	7.4	1.6
	財光寺地区 (n=170)	30.0	35.9	21.2	8.8	12.4	17.6	16.5	50.0	2.9	5.3
	塩見地区 (n=31)	25.8	29.0	0.0	9.7	12.9	29.0	9.7	35.5	6.5	9.7
	平岩地区 (n=31)	22.6	41.9	16.1	16.1	19.4	12.9	32.3	48.4	0.0	0.0
	幸脇地区 (n=9)	11.1	33.3	0.0	11.1	22.2	33.3	22.2	33.3	0.0	22.2
	美々津地区 (n=26)	19.2	23.1	19.2	7.7	23.1	11.5	7.7	61.5	3.8	15.4
	東郷地区 (n=55)	12.7	18.2	12.7	5.5	21.8	20.0	10.9	52.7	0.0	23.6

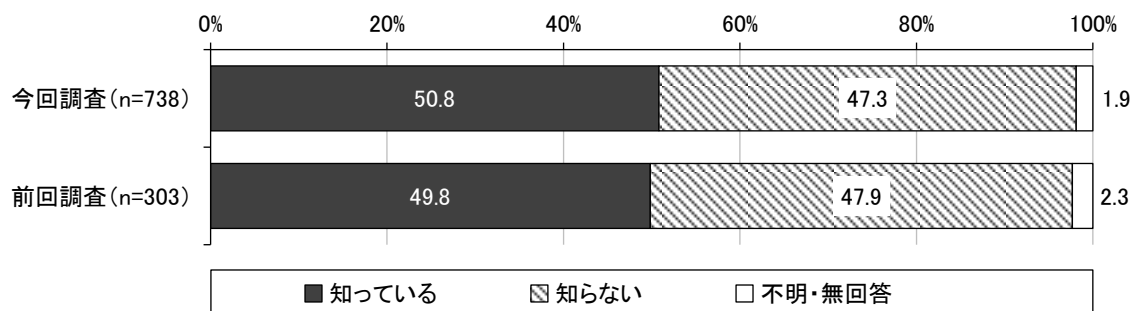
5 民生委員・児童委員や社会福祉協議会について

問 22 あなたがお住まいの地区の担当民生委員・児童委員をご存知ですか。(単数回答)

居住地区の担当民生委員・児童委員についてみると、「知っている」が50.8%、「知らない」が47.3%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

地域別にみると、日知屋地区、日知屋東地区、大王谷地区、財光寺地区では「知らない」、その他の地域では「知っている」が高くなっています。



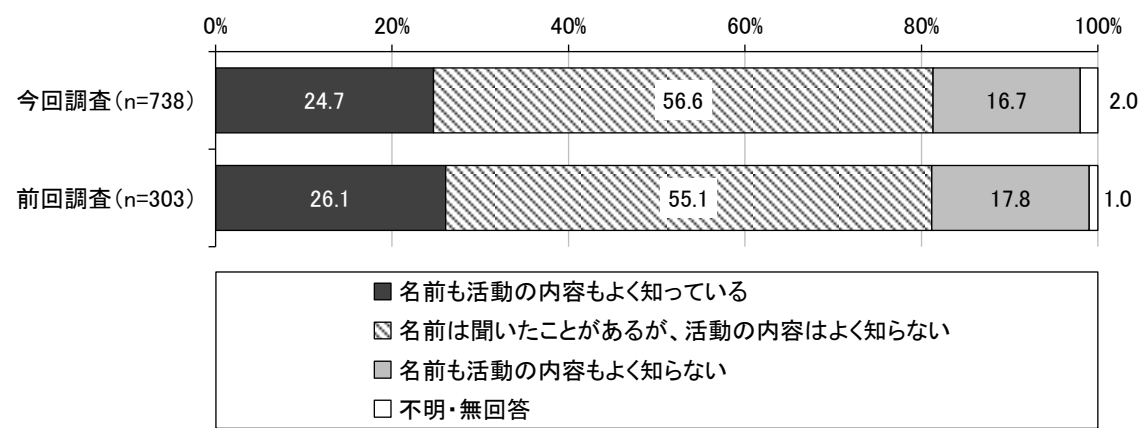
単位: %		知っている	知らない	不明・無回答
全体 (n=738)		50.8	47.3	1.9
地域別	富高・新町地区 (n=120)	50.0	49.2	0.8
	日知屋地区 (n=58)	43.1	53.4	3.4
	日知屋東地区 (n=90)	45.6	53.3	1.1
	細島地区 (n=22)	50.0	45.5	4.5
	大王谷地区 (n=122)	46.7	52.5	0.8
	財光寺地区 (n=170)	45.3	54.1	0.6
	塩見地区 (n=31)	54.8	45.2	0.0
	平岩地区 (n=31)	67.7	32.3	0.0
	幸脇地区 (n=9)	66.7	22.2	11.1
	美々津地区 (n=26)	65.4	30.8	3.8
	東郷地区 (n=55)	72.7	18.2	9.1

問 23 市には、地域福祉を推進し、社会福祉への住民参加を促し意識の醸成を図るための諸活動を行う「日向市社会福祉協議会」があります。あなたはこの組織をご存知ですか。(単数回答)

日向市社会福祉協議会の認知度についてみると、「名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない」が56.6%と最も高く、次いで「名前も活動の内容もよく知っている」が24.7%、「名前も活動の内容もよく知らない」が16.7%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

地域別にみると、すべての地域で「名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない」が最も高くなっています。また、日知屋地区では「名前も活動の内容もよく知らない」が他の地域と比べて高くなっています。



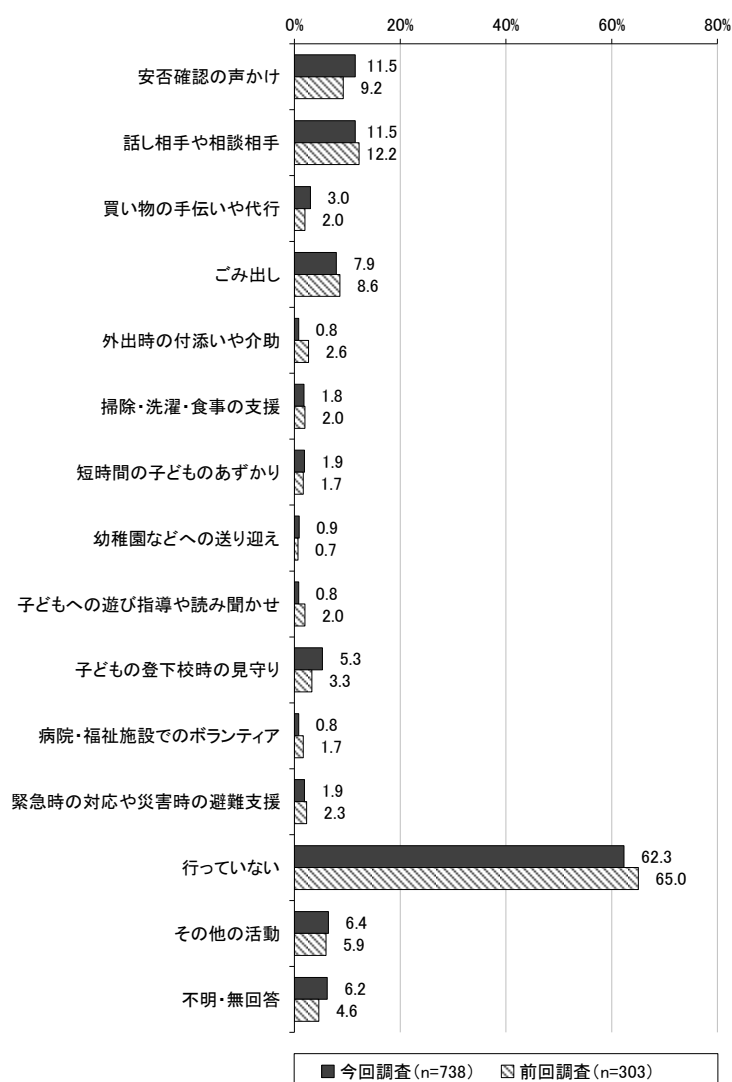
単位: %		名前も活動の内容もよく知っている	名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない	名前も活動の内容もよく知らない	不明・無回答
全体 (n=738)		24.7	56.6	16.7	2.0
地域別	富高・新町地区 (n=120)	27.5	55.0	15.0	2.5
	日知屋地区 (n=58)	17.2	53.4	29.3	0.0
	日知屋東地区 (n=90)	26.7	60.0	12.2	1.1
	細島地区 (n=22)	22.7	63.6	9.1	4.5
	大王谷地区 (n=122)	28.7	50.8	19.7	0.8
	財光寺地区 (n=170)	20.6	61.8	17.1	0.6
	塩見地区 (n=31)	16.1	74.2	9.7	0.0
	平岩地区 (n=31)	35.5	45.2	19.4	0.0
	幸脇地区 (n=9)	0.0	33.3	44.4	22.2
	美々津地区 (n=26)	19.2	61.5	15.4	3.8
	東郷地区 (n=55)	32.7	50.9	7.3	9.1

6 ボランティア活動や福祉教育について

問 24 あなたはこの1年間、どのようなボランティア活動や地域福祉活動を行いましたか。
(複数回答)

この1年間に行ったボランティア活動や地域福祉活動についてみると、「行っていない」が62.3%と最も高く、次いで「安否確認の声かけ」「話し相手や相談相手」が11.5%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



— 「その他」の回答 —

草刈り (8) / ゴミ拾い・清掃活動 (7) / コロナ禍で活動できない (5) / フードバンク活動 (2) / 百歳体操への参加 (2) / 消防団活動 / ごみ・資源物の出し方に関心を持ち続けている / 病院の送迎 / 子ども食堂に米 (自分が作った) を届けた / 地域の見守り / 保護猫ボランティア / フルタイム勤務でできない / 病気でできない / 余裕を持ち合わせていない / できない / ボランティアが必要な方を取りまとめる所があれば知らせてほしい / わが家と自身を守るのみ / 復興支援、ユニセフ募金等 / 資源物の分別、立番指導 / 本人が要介護状態 / お祭りの運営活動 / 地区高齢者の集い、食品箱詰 / 年金が少ないのでパートしなくてはお付き合いができない / 中学校、社協での学習支援 / 緑化運動の講演会の講師 / SNS 上での教育活動、自己啓発セミナー、英語翻訳 / 竹林整備

地域別にみると、すべての地域で「行っていない」が最も高くなっています。

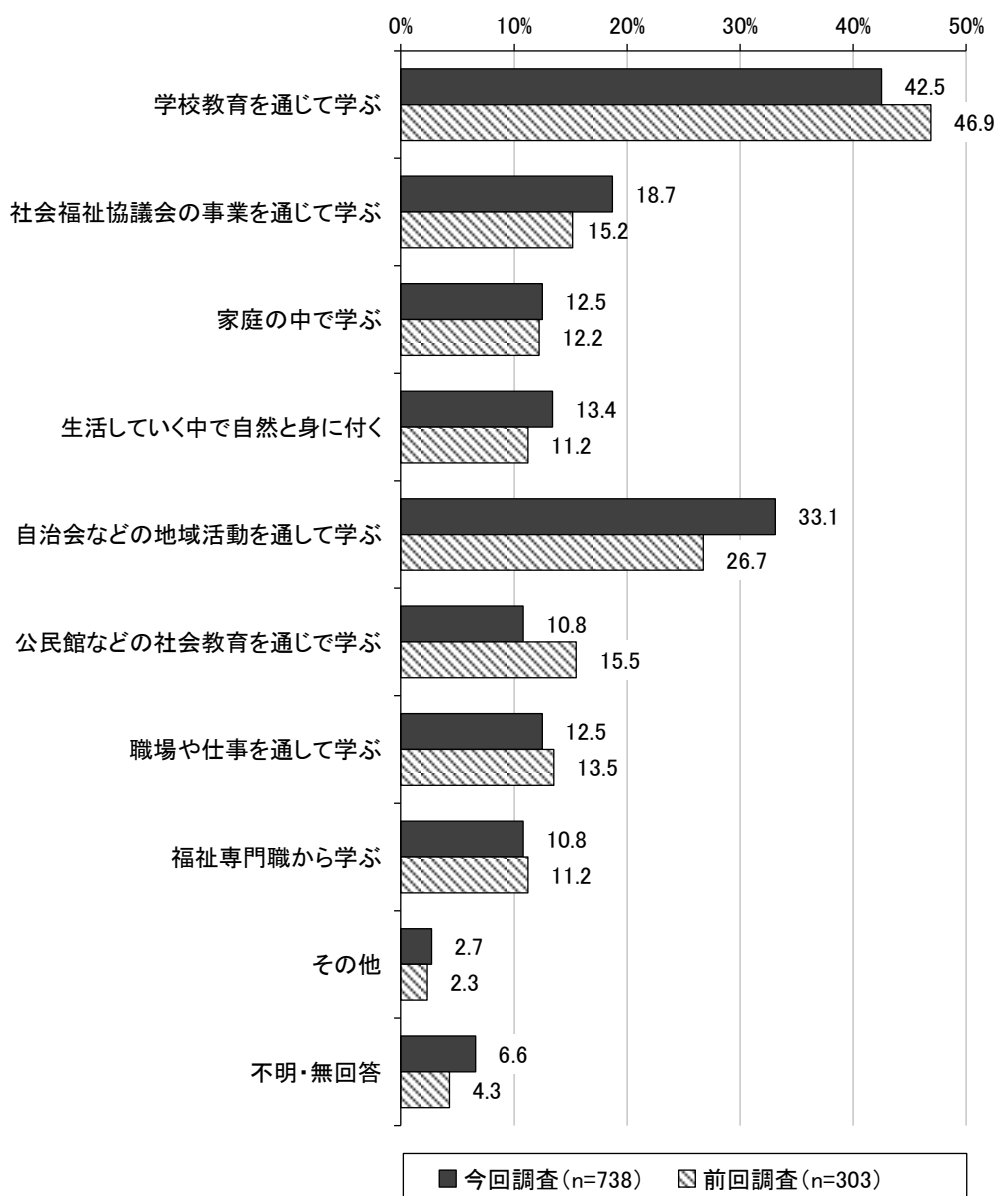
単位：％		安否確認の 声かけ	話し相手や 相談相手	買い物の手 伝いや代行	ごみ出し	外出時の付 添いや介助	掃除・洗濯・ 食事の支援	短時間の子 どものあずかり	幼稚園など への送り迎え	子どもへの 遊び指導や 読み聞かせ	子どもの登 下校時の見 守り
全体(n=738)		11.5	11.5	3.0	7.9	0.8	1.8	1.9	0.9	0.8	5.3
地域別	富高・新町地区(n=120)	10.8	9.2	1.7	5.0	0.0	2.5	2.5	0.8	0.8	5.8
	日知屋地区(n=58)	10.3	12.1	5.2	6.9	0.0	1.7	1.7	0.0	0.0	5.2
	日知屋東地区(n=90)	10.0	11.1	4.4	11.1	2.2	2.2	4.4	1.1	2.2	5.6
	細島地区(n=22)	4.5	9.1	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5
	大王谷地区(n=122)	9.0	8.2	0.0	4.9	0.0	2.5	3.3	2.5	0.0	6.6
	財光寺地区(n=170)	10.6	12.4	2.9	8.2	1.2	1.2	0.6	1.2	1.2	2.9
	塩見地区(n=31)	12.9	9.7	9.7	16.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2
	平岩地区(n=31)	16.1	16.1	0.0	9.7	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	9.7
	幸脇地区(n=9)	22.2	11.1	0.0	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	美々津地区(n=26)	15.4	11.5	3.8	3.8	3.8	0.0	3.8	0.0	0.0	3.8
	東郷地区(n=55)	20.0	20.0	7.3	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	7.3

単位：％		病 院・ 福 祉 施 設 で の ボ ラ	避 難 支 援	緊 急 時 の 対 応 や 災 害 時 の	行 っ て い な い	そ の 他 の 活 動	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=738)		0.8	1.9	62.3	6.4	6.2	
地域別	富高・新町地区(n=120)	0.8	4.2	59.2	8.3	8.3	
	日知屋地区(n=58)	0.0	0.0	60.3	10.3	3.4	
	日知屋東地区(n=90)	1.1	2.2	64.4	3.3	4.4	
	細島地区(n=22)	0.0	4.5	68.2	0.0	18.2	
	大王谷地区(n=122)	0.8	0.8	65.6	9.0	1.6	
	財光寺地区(n=170)	1.8	0.6	69.4	5.9	2.9	
	塩見地区(n=31)	0.0	0.0	67.7	3.2	3.2	
	平岩地区(n=31)	0.0	0.0	58.1	9.7	3.2	
	幸脇地区(n=9)	0.0	0.0	55.6	0.0	22.2	
	美々津地区(n=26)	0.0	3.8	50.0	3.8	15.4	
	東郷地区(n=55)	0.0	3.6	45.5	3.6	20.0	

問 25 地域福祉を推進するためには、地域福祉の担い手・支え手を育成するための「福祉教育」が重要です。あなたは、住民に対する「福祉教育」を進めるためには、次のどの方法が良いと思いますか。（2つまで複数回答）

住民に対する福祉教育を進めるために良い方法についてみると、「学校教育を通じて学ぶ」が 42.5%と最も高く、次いで「自治会などの地域活動を通して学ぶ」が 33.1%、「社会福祉協議会の事業を通じて学ぶ」が 18.7%となっています。

前回調査と比較すると、「自治会などの地域活動を通して学ぶ」が 6.4 ポイント高くなっています。



— 「その他」の回答 —

わからない（４）／高齢者クラブの年間学習計画の中に位置づける／希望者から育成すべき／どこに行っても内容がわかるような告知スペースを設置させてもらう／とにかく余裕が必要。教育など以前の問題／テレビ、ラジオなどを活用／職員の教育／老人会、病院、スーパー／回覧板などももっと興味をひく内容で広報をする／スポーツ／ボランティアからのひろがり

地域別にみると、細島地区、美々津地区、東郷地区では「自治会などの地域活動を通して学ぶ」、その他の地域では「学校教育を通じて学ぶ」が最も高くなっています。また、日知屋地区では「社会福祉協議会の事業を通じて学ぶ」、美々津地区では「生活していく中で自然と身に付く」が他の地域と比べて高くなっています。

単位: %		学校教育を通じて学ぶ	社会福祉協議会の事業を通じて学ぶ	家庭の中で学ぶ	生活していく中で自然と身に付く	自治会などの地域活動を通して学ぶ	公民館などの社会教育を通じて学ぶ	職場や仕事を通して学ぶ	福祉専門職から学ぶ	その他	不明・無回答
全体(n=738)		42.5	18.7	12.5	13.4	33.1	10.8	12.5	10.8	2.7	6.6
地域別	富高・新町地区(n=120)	40.8	15.0	13.3	14.2	32.5	8.3	11.7	13.3	4.2	5.8
	日知屋地区(n=58)	43.1	34.5	12.1	15.5	24.1	15.5	3.4	15.5	1.7	1.7
	日知屋東地区(n=90)	48.9	12.2	13.3	10.0	26.7	13.3	16.7	8.9	2.2	10.0
	細島地区(n=22)	22.7	9.1	9.1	13.6	27.3	13.6	18.2	0.0	4.5	18.2
	大王谷地区(n=122)	47.5	18.0	11.5	16.4	37.7	11.5	13.1	14.8	3.3	0.8
	財光寺地区(n=170)	48.8	21.8	12.4	9.4	33.5	13.5	17.1	10.6	1.8	1.8
	塩見地区(n=31)	41.9	22.6	12.9	12.9	25.8	3.2	3.2	6.5	6.5	12.9
	平岩地区(n=31)	45.2	22.6	9.7	6.5	38.7	6.5	12.9	12.9	0.0	6.5
	幸脇地区(n=9)	33.3	11.1	0.0	22.2	44.4	0.0	11.1	0.0	0.0	22.2
	美々津地区(n=26)	23.1	19.2	15.4	23.1	38.5	11.5	3.8	7.7	7.7	11.5
	東郷地区(n=55)	25.5	12.7	16.4	16.4	40.0	5.5	9.1	3.6	0.0	23.6

問 26 地域に暮らす住民の「ふだんの暮らしをしあわせ」にするために、住民個人レベルで「できる」地域福祉活動はどのようなものが考えられますか。

※括弧内の数字は同様意見の数（以下、同）

あいさつ、声掛けをする。（18）
隣近所との交流を深める。つながりの強化。（6）
子どもや高齢者の見守り。（4）
ゴミ拾いなどのボランティア活動。（4）
住民一人ひとりが各地域で班に入り、地域の内容を知ってもらいたい。
地域で福祉教育について学ぶことが大事だと思う。
平日、仕事しているので、なかなか活動できないのが現状。コロナで外出も控えている。今は民生委員か地域役員にお願いしたい。相談窓口になってほしい。
災害時の地域の対応・対策について知らない。地域に住む者として、お互いを知り、いざという時助け合える信頼関係が欲しい。避難訓練とか。
地区内で話し合いや相談相手がほしい。その様な人材の育成が必要。
まずお互いあつての今日の生活である事をしっかり自覚して毎日を感謝の心ですごす事、つつしみの心でくらす事、その上ではじめて他人にその心を受けてもらえる行いができる。
隣近所の助け合いと組織作り。
地域のイベント等で今の市の状況について意見交換等できるようにして、何が問題なのかをまず知る事が先だと思う。
イベント等を増やす。
お互いを尊重し合うことを基盤にして、生活していくこと。
全く余裕なく、考えがでてこない。
せまい範囲で（自宅をとり囲む4～5軒）自分を犠牲にしないで、相手に押し付けにならないようなもの「困りごとがある」と声を上げやすい雰囲気があること。
日本の中で最も生活しやすい、くらしやすい日向市になればと思う。日向市は年間通して暖かくくらしやすい地域だと思う。それにソフトの部分充実させるとさらに、良くなり移住者も増えるのでは。細かい暮らしの情報を発信したり体験させることが大切なのは。
子育てしている家庭には、時間とお金の問題が大きい。福祉活動も日払いにしてまずは経験をしてくれる人を増やせば、ボランティアをしていいと思ってくれる人が増える。
しあわせとを感じる事が個人で違うので、個人レベルで考えるのが難しい。
きまりを守る。
ゴミの分別。地域を汚さない。
長年アパートに住んでいるが、皆さん表札もなく名前も知らない。それでも不自由を感じられない。そういう人も多いと思う。活動以前の問題があると思う。
個人情報もあり、個人レベルで助け合う事は難しくなってきたらと思う。知られたくないと思う人もいるため。地域に何十年も住んでいるなら、親しく声かけもできるが、すぐ簡単には個人でできる事はあまりないと思う。

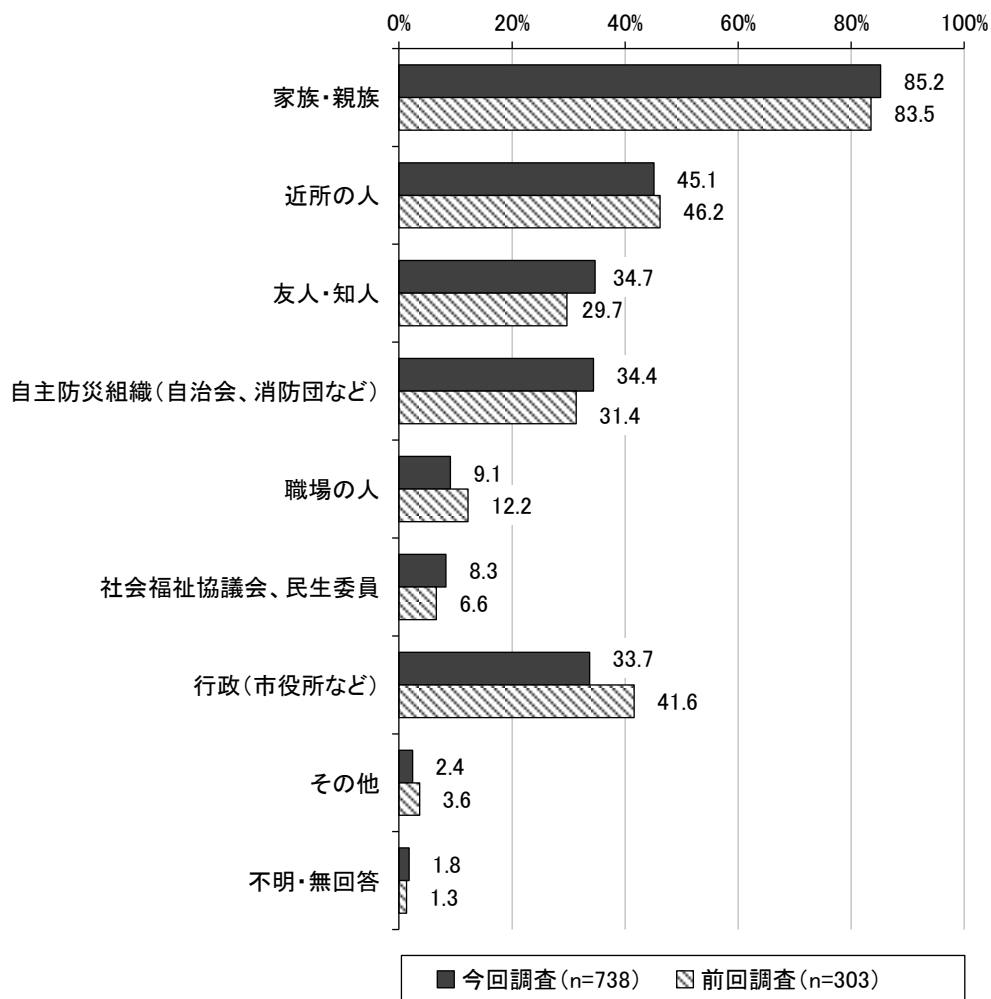
困った時の支えあい。
何事も他人事とは思わないこと。
いろいろな方と話をする。笑顔であいさつをする。ベンチを増やす（座れば自然と人が集まってくるので相談など輪が広がる）。
仕事をしている中で負担がかかる（時間等）ものは関わりづらくなるため、目視できる程度の関わり（安否確認等）は可能かと。コミュニケーションが取れないとできない関わりは、特に若い世代の方には取り組み辛いと思う。
1対1による高齢者の悩みごとの聞き取り、その解決へ向けての様々な取り組み。
高齢者が多く、「できる」ことは少ない。
困っている方（高齢者、障害者）がいた時に話を聞いて可能であれば援助する。
住民個人が実績や肩書きがなくても発案・企画に参加し実行に加わることができる場があれば、別の視点からのアプローチなど今までとは別の可能性が加わると思う。
地域（身の周り）に関心をもつ。地域の課題に気づき支援につなげる。一人ひとりができることをできる範囲で無理なく取り組む意識づくり。
住宅地の暗い所へ外灯があると良い。自宅にはソーラーライト灯を設置している。
パトロール。
住民個人レベルになると限られるが、高齢者なので地域住民同士のつながりを深めその年齢（体力）に応じた、手の差し伸べ方等ができる活動方法を学べる組織づくりの場。

7 災害時における助け合いについて

問 27 地震などの大規模災害が起きたとき、あなたは誰を頼りにしますか。(複数回答)

大規模災害が起きたとき頼りにする人についてみると、「家族・親族」が 85.2%と最も高く、次いで「近所の人」が 45.1%、「友人・知人」が 34.7%となっています。

前回調査と比較すると、「友人・知人」が 5.0 ポイント高く、「行政（市役所など）」が 7.9 ポイント低くなっています。



※「自主防災組織（自治会、消防団など）」は前回調査では「自主防災組織（自治区など）」。

「社会福祉協議会、民生委員」は前回調査では「社会福祉協議会」。

— 「その他」の回答 —

自分（8）／施設職員（3）／市役所の放送／諸委員／どのような事になってるかわからないから状態に応じて変わると思う／年配者なので誰も頼りにはしない／隣付近住宅等への声掛け／自助、共助、公助、近助

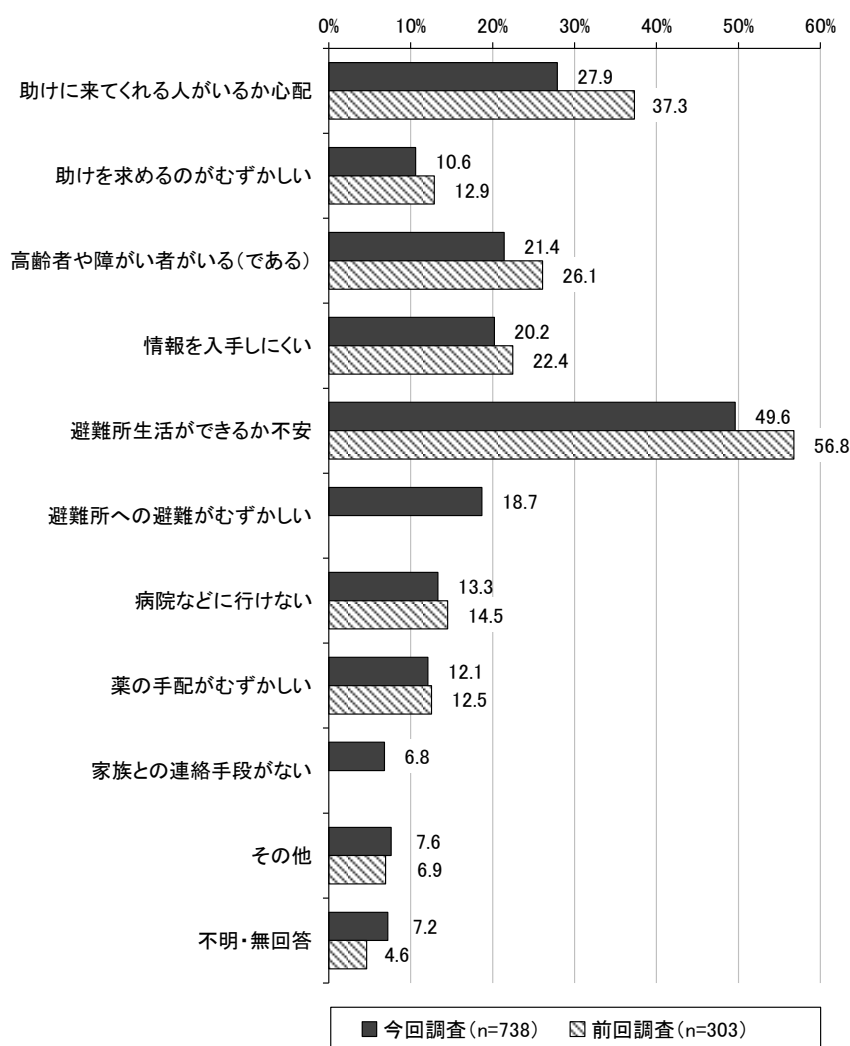
地域別にみると、すべての地域で「家族・親族」が最も高くなっています。また、平岩地区では「自主防災組織（自治会、消防団など）」「行政（市役所など）」が他の地域と比べて高くなっています。

単位：%		家族・親族	近所の人	友人・知人	自主防災組織（自治会、消防団など）	職場の人	社会福祉協議会、民生委員	行政（市役所など）	その他	不明・無回答
全体（n=738）		85.2	45.1	34.7	34.4	9.1	8.3	33.7	2.4	1.8
地域別	富高・新町地区（n=120）	88.3	45.0	34.2	30.8	10.8	10.8	37.5	1.7	0.8
	日知屋地区（n=58）	87.9	32.8	36.2	29.3	10.3	3.4	29.3	3.4	0.0
	日知屋東地区（n=90）	86.7	50.0	37.8	33.3	8.9	6.7	40.0	2.2	1.1
	細島地区（n=22）	95.5	54.5	31.8	27.3	0.0	4.5	27.3	0.0	0.0
	大王谷地区（n=122）	83.6	45.1	46.7	30.3	13.9	6.6	33.6	3.3	0.0
	財光寺地区（n=170）	88.2	41.2	31.8	35.9	8.2	8.2	34.1	1.8	0.6
	塩見地区（n=31）	80.6	38.7	19.4	16.1	9.7	12.9	29.0	12.9	3.2
	平岩地区（n=31）	87.1	54.8	22.6	58.1	6.5	9.7	58.1	0.0	0.0
	幸脇地区（n=9）	77.8	33.3	44.4	44.4	11.1	0.0	11.1	0.0	22.2
	美々津地区（n=26）	65.4	34.6	23.1	42.3	0.0	15.4	19.2	0.0	7.7
	東郷地区（n=55）	74.5	61.8	34.5	45.5	5.5	7.3	18.2	1.8	9.1

問 28 災害が起きたときに心配に思うことは何ですか。（複数回答）

災害が起きたときに心配に思うことについてみると、「避難所生活ができるか不安」が 49.6%と最も高く、次いで「助けに来てくれる人がいるか心配」が 27.9%、「高齢者や障がい者がいる（である）」が 21.4%となっています。

前回調査と比較すると、「助けに来てくれる人がいるか心配」が 9.4 ポイント、「避難所生活ができるか不安」が 7.2 ポイント低くなっています。



※「避難所への避難がむずかしい」「家族との連絡手段がない」は今回調査のみの選択肢。

－ 「その他」の回答 －

ペットのこと、ペットの避難について（11）／特にない。自分の身は自分で守る（8）／家族や身近な人の安否（5）／避難場所・避難所まで遠い（3）／避難所の設備や備品等（3）／防災無線が聞き取れない（3）／子どもを守れるか（3）／近くに避難タワー・高い建物が無い（2）／全部／食料、水の長期間の確保・備蓄／どこまで手助けできるか／防犯、コロナなどをうつされないか／水とトイレの確保（2）／家族が近くにいるので助かる（2）／住民の食糧が少なくなる／復興のためのお金がたまっていない事／乳児がいるのでミルクやオムツなど／自分の障がいを理解してもらえるか（見た目では分からない障がい）／避難所がわからない／避難すべきかの判断／スマートフォンを持っていない／車がない／孤立無援

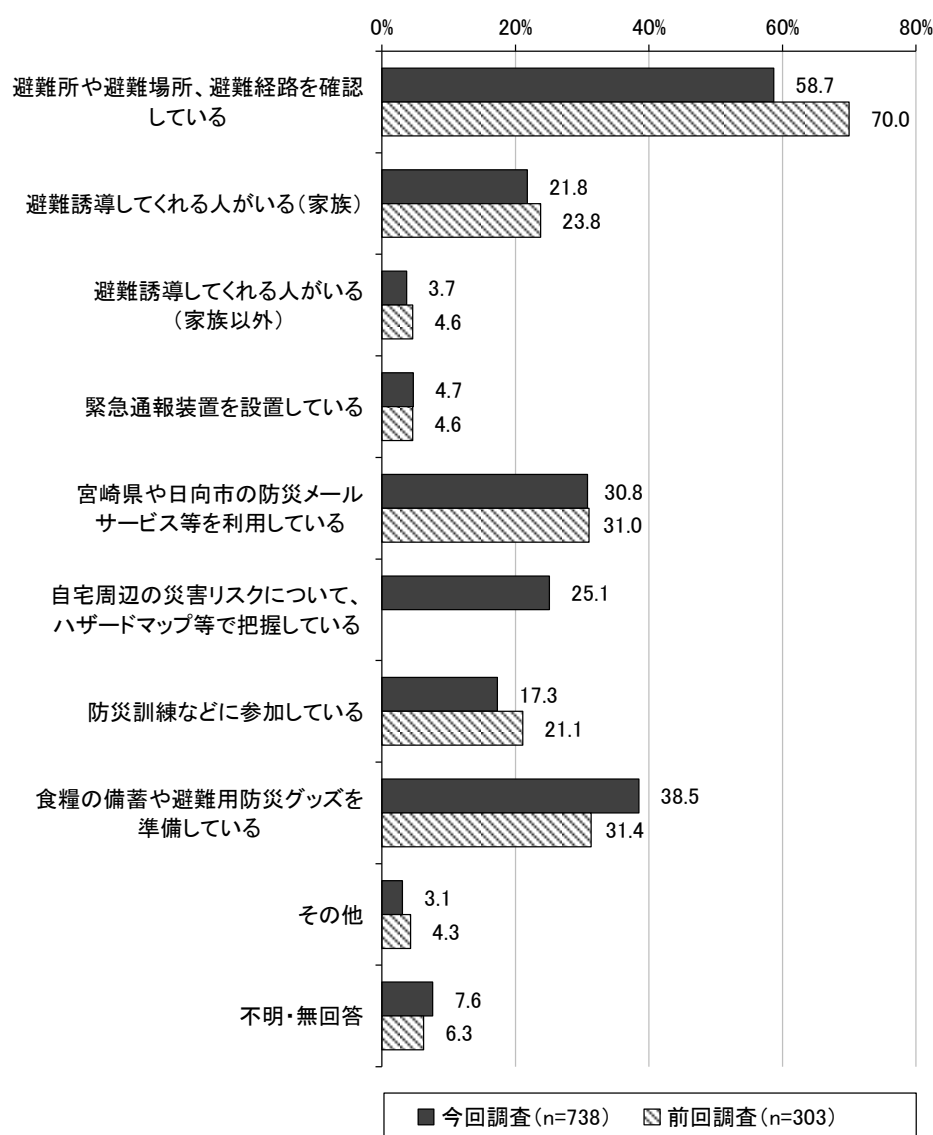
地域別にみると、東郷地区では「助けに来てくれる人がいるか心配」、その他の地域では「避難所生活ができるか不安」が最も高くなっています。また、塩見地区、平岩地区では「高齢者や障がい者がいる（である）」、東郷地区では「病院などに行けない」が他の地域と比べて高くなっています。

単位：％		助けに来てくれる人がいるか心配	助けを求めるのがむずかしい	高齢者や障がい者がいる（である）	情報を入りにくい	避難所生活ができるか不安	避難所への避難がむずかしい	病院などに行けない	薬の手配がむずかしい	家族との連絡手段がない	その他	不明・無回答
全体(n=738)		27.9	10.6	21.4	20.2	49.6	18.7	13.3	12.1	6.8	7.6	7.2
地域別	富高・新町地区(n=120)	30.0	7.5	22.5	18.3	44.2	15.0	10.0	10.8	5.8	9.2	8.3
	日知屋地区(n=58)	24.1	10.3	13.8	22.4	60.3	25.9	15.5	10.3	3.4	13.8	1.7
	日知屋東地区(n=90)	25.6	10.0	18.9	20.0	55.6	23.3	11.1	13.3	7.8	6.7	3.3
	細島地区(n=22)	31.8	13.6	13.6	22.7	45.5	18.2	13.6	9.1	4.5	0.0	4.5
	大王谷地区(n=122)	23.0	8.2	21.3	15.6	50.8	14.8	11.5	9.8	11.5	8.2	4.1
	財光寺地区(n=170)	29.4	11.2	21.8	28.2	54.7	22.4	13.5	15.3	5.9	7.1	5.9
	塩見地区(n=31)	32.3	9.7	32.3	6.5	45.2	19.4	9.7	3.2	3.2	9.7	6.5
	平岩地区(n=31)	22.6	12.9	32.3	12.9	45.2	22.6	16.1	22.6	6.5	0.0	12.9
	幸脇地区(n=9)	22.2	11.1	11.1	11.1	33.3	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	33.3
	美々津地区(n=26)	30.8	23.1	19.2	15.4	53.8	7.7	11.5	7.7	15.4	7.7	11.5
	東郷地区(n=55)	36.4	14.5	23.6	21.8	30.9	12.7	25.5	14.5	3.6	5.5	18.2

問 29 防災について何か対策をしていますか。(複数回答)

防災対策をしているかについてみると、「避難所や避難場所、避難経路を確認している」が 58.7%と最も高く、次いで「食糧の備蓄や避難用防災グッズを準備している」が 38.5%、「宮崎県や日向市の防災メールサービス等を利用している」が 30.8%となっています。

前回調査と比較すると、「避難所や避難場所、避難経路を確認している」が 11.3 ポイント低く、「食糧の備蓄や避難用防災グッズを準備している」が 7.1 ポイント高くなっています。



※「自宅周辺の災害リスクについて、ハザードマップ等で把握している」は今回調査のみの選択肢。

「避難所や避難場所、避難経路を確認している」は前回調査では「避難所や避難場所を知っている」。

「宮崎県や日向市の防災メールサービス等を利用している」は前回調査では「宮崎県防災・防犯情報メールサービスを利用している」。

— 「その他」の回答 —

何もしてない (11) / ペットと一緒に避難 / 高台に住む / メディアを利用して知識を増やしている / ここ数年にわたり防災訓練の情報もない。訓練も付き合い程度で緊張感がない / 食糧の備蓄や避難用防災グッズを毎月チェックしている / その時に自分で考える他ないと思う / 考えるが頭も体も働かない /

地域別にみると、平岩地区では「避難所や避難場所、避難経路を確認している」「食糧の備蓄や避難用防災グッズを準備している」、その他の地域では「避難所や避難場所、避難経路を確認している」が最も高くなっています。また、平岩地区では「緊急通報装置を設置している」、日知屋東地区、細島地区では「防災訓練などに参加している」が他の地域と比べて高くなっています。

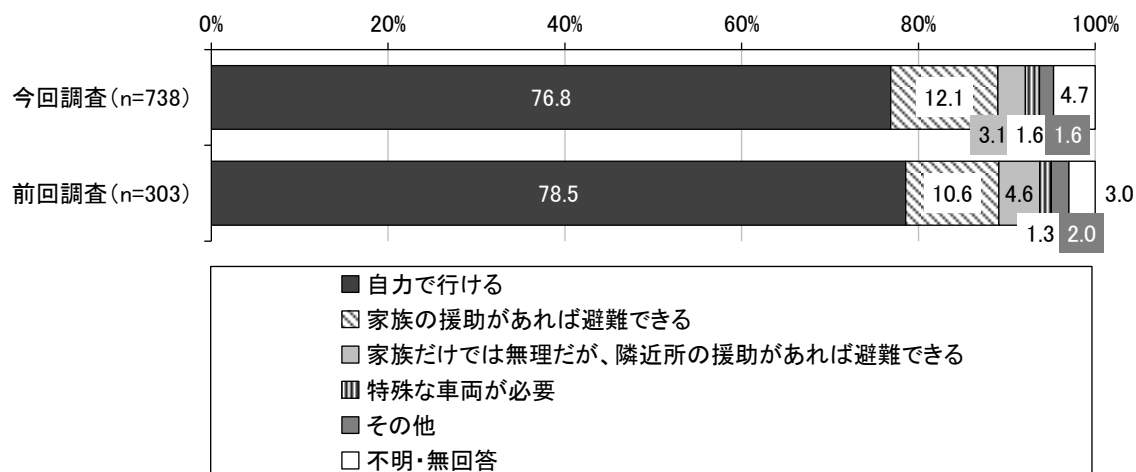
単位：％		避難所や避難場所、避難経路を確認している	避難誘導してくれる人がある（家族）	避難誘導してくれる人がある（家族以外）	緊急通報装置を設置している	宮崎県や日向市の防災メールサービス等を利用している	自宅周辺の災害リスクについて、ハザードマップ等で把握している	防災訓練などに参加している	食糧の備蓄や避難用防災グッズを準備している	その他	不明・無回答
全体 (n=738)		58.7	21.8	3.7	4.7	30.8	25.1	17.3	38.5	3.1	7.6
地域別	富高・新町地区 (n=120)	60.0	24.2	2.5	4.2	30.8	25.8	15.8	37.5	1.7	10.0
	日知屋地区 (n=58)	62.1	29.3	1.7	3.4	27.6	27.6	17.2	50.0	3.4	3.4
	日知屋東地区 (n=90)	71.1	18.9	2.2	3.3	34.4	24.4	30.0	51.1	5.6	4.4
	細島地区 (n=22)	59.1	22.7	13.6	9.1	27.3	27.3	31.8	31.8	4.5	13.6
	大王谷地区 (n=122)	56.6	18.9	2.5	1.6	31.1	24.6	12.3	41.0	2.5	6.6
	財光寺地区 (n=170)	64.1	18.8	1.2	4.7	34.1	25.3	15.3	36.5	2.9	4.1
	塩見地区 (n=31)	41.9	16.1	16.1	9.7	22.6	19.4	16.1	38.7	6.5	9.7
	平岩地区 (n=31)	45.2	29.0	3.2	16.1	25.8	25.8	12.9	45.2	3.2	6.5
	幸脇地区 (n=9)	22.2	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	22.2	22.2	0.0	22.2
	美々津地区 (n=26)	50.0	26.9	3.8	3.8	30.8	23.1	23.1	23.1	3.8	15.4
	東郷地区 (n=55)	45.5	21.8	10.9	5.5	25.5	21.8	9.1	16.4	1.8	16.4

問 30 避難情報が出た場合に避難所や避難場所まで行けますか。(単数回答)

避難情報が出た場合に避難所や避難場所まで行けるかについてみると、「自力で行ける」が 76.8%と最も高く、次いで「家族の援助があれば避難できる」が 12.1%、「家族だけでは無理だが、隣近所の援助があれば避難できる」が 3.1%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

地域別にみると、すべての地域で「自力で行ける」が最も高くなっています。また、美々津地区では「家族の援助があれば避難できる」が他の地域と比べて高くなっています。



— 「その他」の回答 —

避難場所に行かない・家の方が安全（4）／行けるが避難所・避難場所が遠い（3）／その時にならないとわからない（2）／仕事中だと家族の避難が難しい／自宅に1人でいた場合は難しい／避難所・避難場所の他に児童公園に避難タワーを建設してほしい／自力で行けるが防災無線が聞きとれない／避難所の道路が家の倒壊で塞がれている可能性あり／自分で行けるが障がい者である家族を連れて行くことは不安である／施設職員からの誘導が必要／腰痛があり、歩くのが不自由／階段の上がり降りや長い距離を歩けない／避難所（交流センター）は昔、池だったので水があふれて行きにくくなる／被害の大きさによる

単位：％		自力で行ける	家族の援助があれば避難できる	家族だけでは無理だが、隣近所の援助があれば避難できる	特殊な車両が必要	その他	不明・無回答
全体(n=738)		76.8	12.1	3.1	1.6	1.6	4.7
地域別	富高・新町地区(n=120)	75.8	16.7	2.5	0.8	1.7	2.5
	日知屋地区(n=58)	79.3	12.1	3.4	0.0	1.7	3.4
	日知屋東地区(n=90)	82.2	8.9	2.2	1.1	1.1	4.4
	細島地区(n=22)	81.8	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1
	大王谷地区(n=122)	82.0	10.7	4.1	0.0	0.8	2.5
	財光寺地区(n=170)	78.2	11.2	3.5	1.8	1.8	3.5
	塩見地区(n=31)	61.3	12.9	3.2	9.7	9.7	3.2
	平岩地区(n=31)	74.2	12.9	6.5	3.2	0.0	3.2
	幸脇地区(n=9)	55.6	11.1	0.0	11.1	0.0	22.2
	美々津地区(n=26)	61.5	26.9	0.0	0.0	0.0	11.5
	東郷地区(n=55)	69.1	7.3	3.6	3.6	1.8	14.5

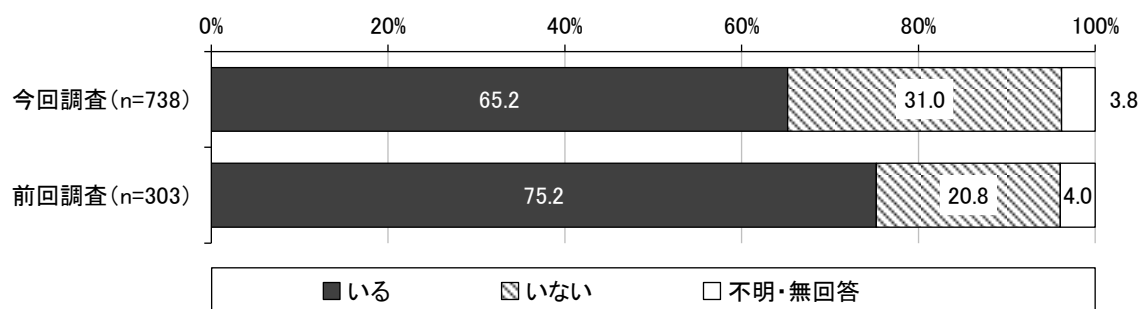
問 31 避難情報が出た場合、声をかける、または声をかけてくれる近所の方はいますか。

(単数回答)

避難情報が出た場合、声をかけ合う近所の人についてみると、「いる」が65.2%、「いない」が31.0%となっています。

前回調査と比較すると、「いない」が10.2ポイント高くなっています。

地域別にみると、すべての地域で「いる」が高くなっており、東郷地区では85.5%となっています。



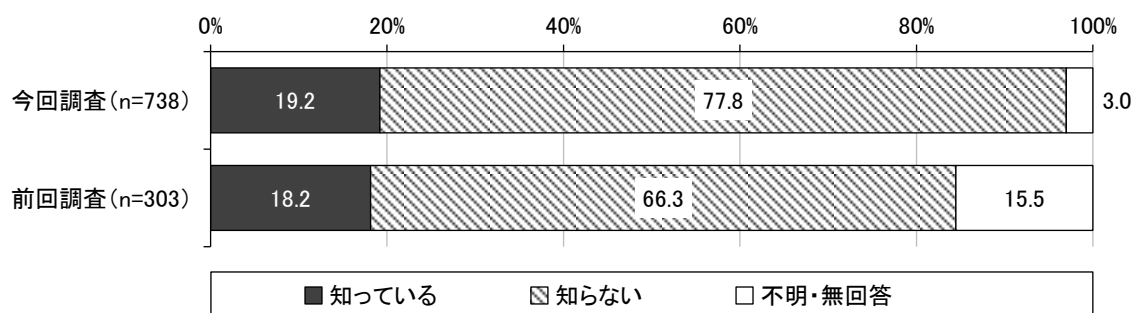
単位: %		いる	いない	不明・無回答
全体 (n=738)		65.2	31.0	3.8
地域別	富高・新町地区 (n=120)	70.0	27.5	2.5
	日知屋地区 (n=58)	65.5	32.8	1.7
	日知屋東地区 (n=90)	58.9	35.6	5.6
	細島地区 (n=22)	63.6	27.3	9.1
	大王谷地区 (n=122)	61.5	36.1	2.5
	財光寺地区 (n=170)	61.2	37.6	1.2
	塩見地区 (n=31)	64.5	29.0	6.5
	平岩地区 (n=31)	67.7	22.6	9.7
	幸脇地区 (n=9)	55.6	33.3	11.1
	美々津地区 (n=26)	65.4	19.2	15.4
	東郷地区 (n=55)	85.5	10.9	3.6

問 32 市では、台風などの災害に備えて「避難行動要支援者名簿（災害が起きたときに自力で避難することが困難な高齢者や障がいのある方の名簿）」を作成していますが、ご存知ですか。
（単数回答）

避難行動要支援者名簿の認知度についてみると、「知っている」が 19.2%、「知らない」が 77.8%となっています。

前回調査と比較すると、「知らない」が 11.5 ポイント高くなっています。

地域別にみると、すべての地域で「知らない」が高くなっています。また、東郷地区では「知っている」が他の地域と比べて高くなっています。

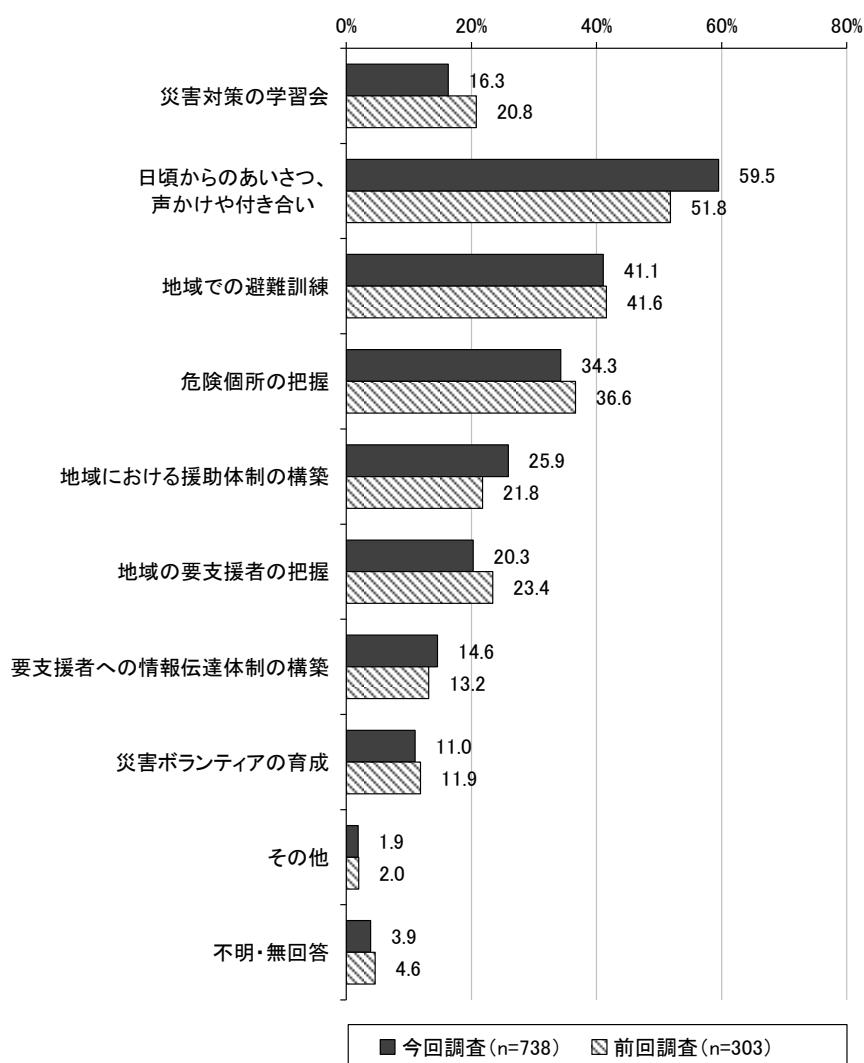


単位: %		知 っ て い る	知 ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=738)		19.2	77.8	3.0
地 域 別	富高・新町地区 (n=120)	21.7	75.8	2.5
	日知屋地区 (n=58)	13.8	84.5	1.7
	日知屋東地区 (n=90)	16.7	80.0	3.3
	細島地区 (n=22)	27.3	63.6	9.1
	大王谷地区 (n=122)	21.3	77.0	1.6
	財光寺地区 (n=170)	13.5	84.1	2.4
	塩見地区 (n=31)	9.7	87.1	3.2
	平岩地区 (n=31)	12.9	80.6	6.5
	幸脇地区 (n=9)	11.1	77.8	11.1
	美々津地区 (n=26)	23.1	65.4	11.5
	東郷地区 (n=55)	40.0	60.0	0.0

問 33 大規模災害等が懸念される中で、災害時における地域の助け合いは、非常に重要なことです。
あなたの住む地域における災害時の備えとして、どのようなことが重要だと感じていますか。
(3つまで複数回答)

地域における災害時の備えとして重要なことについてみると、「日頃からのあいさつ、声かけや付き合い」が59.5%と最も高く、次いで「地域での避難訓練」が41.1%、「危険個所の把握」が34.3%となっています。

前回調査と比較すると、「日頃からのあいさつ、声かけや付き合い」が7.7ポイント高くなっています。



— 「その他」の回答 —

区内での物資、食品の備蓄／企業との連携・意識改革／備蓄庫／地域の把握（どこにどんな人が住んでいるかなど）／避難タワーの常時開放（いざという時に本当に活躍するか疑問）／障がい者避難所では過ごせない。自宅で過ごすしかない人へのサポート／貯水／トイレ確保／家族以外の誰が誰へ安否の確認をするか決めておく／テレビで学習／避難訓練を1回もしていない／地域、自治体での災害に対する備蓄や準備がどの程度で、個人として何を準備すれば地域や自治体の負担の軽減になるかを明確にしたい／市の放送を聞こえるようにする／災害の知識を心得ておく／わからない

地域別にみると、美々津地区では「日頃からのあいさつ、声かけや付き合い」「地域での避難訓練」、その他の地域では「日頃からのあいさつ、声かけや付き合い」が最も高くなっています。また、美々津地区では「危険個所の把握」が他の地域と比べて低くなっています。

単位：％		災害対策の学習会	日頃からのあいさつ、声かけや付き合い	地域での避難訓練	危険個所の把握	地域における援助体制の構築	地域の要支援者の把握	要支援者への情報伝達体制の構築	災害ボランティアの育成	その他	不明・無回答
全体(n=738)		16.3	59.5	41.1	34.3	25.9	20.3	14.6	11.0	1.9	3.9
地域別	富高・新町地区(n=120)	14.2	60.8	44.2	34.2	27.5	15.8	11.7	12.5	3.3	4.2
	日知屋地区(n=58)	20.7	60.3	46.6	32.8	25.9	25.9	10.3	6.9	3.4	0.0
	日知屋東地区(n=90)	15.6	60.0	44.4	31.1	25.6	25.6	15.6	7.8	2.2	3.3
	細島地区(n=22)	13.6	45.5	40.9	40.9	18.2	9.1	0.0	9.1	0.0	13.6
	大王谷地区(n=122)	21.3	63.1	42.6	33.6	25.4	26.2	15.6	13.9	0.8	3.3
	財光寺地区(n=170)	18.2	59.4	40.0	34.1	28.2	18.2	18.8	13.5	1.2	1.8
	塩見地区(n=31)	9.7	61.3	29.0	38.7	19.4	19.4	3.2	9.7	6.5	6.5
	平岩地区(n=31)	16.1	48.4	38.7	38.7	22.6	12.9	16.1	3.2	3.2	6.5
	幸脇地区(n=9)	22.2	44.4	11.1	22.2	33.3	22.2	11.1	22.2	0.0	11.1
	美々津地区(n=26)	19.2	38.5	38.5	11.5	34.6	23.1	15.4	11.5	0.0	15.4
	東郷地区(n=55)	1.8	70.9	36.4	45.5	21.8	16.4	20.0	5.5	0.0	3.6

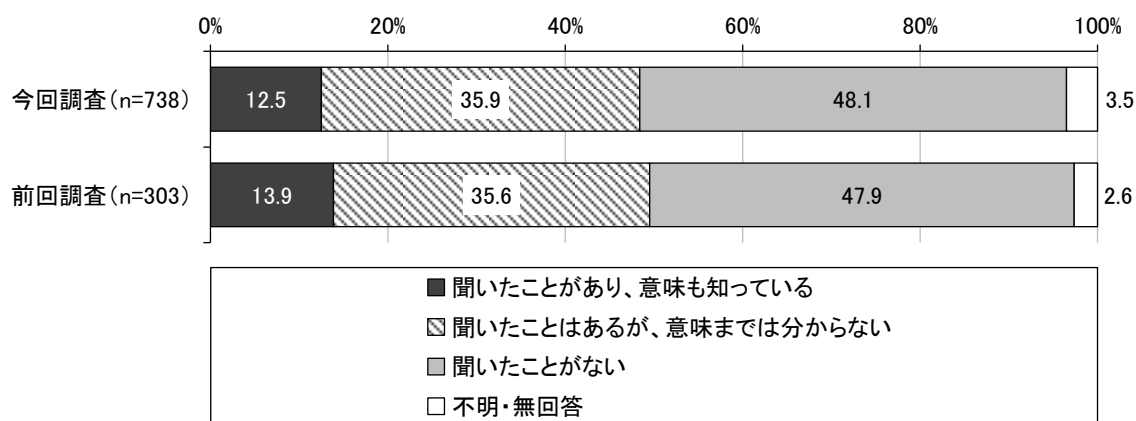
8 地域共生社会について

問 34 「地域共生社会」という言葉を聞いたことはありますか。(単数回答)

地域共生社会という言葉聞いたことがあるかについてみると、「聞いたことがない」が 48.1%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、意味までは分からない」が 35.9%、「聞いたことがあり、意味も知っている」が 12.5%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

地域別にみると、すべての地域で「聞いたことがない」が最も高くなっています。



単位: %		聞いたことがあり、意味も	聞いたことはあるが、意味	聞いたことがない	不明・無回答
全体 (n=738)		12.5	35.9	48.1	3.5
地域別	富高・新町地区 (n=120)	11.7	29.2	50.8	8.3
	日知屋地区 (n=58)	6.9	34.5	58.6	0.0
	日知屋東地区 (n=90)	13.3	35.6	45.6	5.6
	細島地区 (n=22)	13.6	31.8	45.5	9.1
	大王谷地区 (n=122)	15.6	36.9	47.5	0.0
	財光寺地区 (n=170)	11.2	42.9	44.7	1.2
	塩見地区 (n=31)	9.7	38.7	51.6	0.0
	平岩地区 (n=31)	16.1	32.3	45.2	6.5
	幸脇地区 (n=9)	0.0	22.2	66.7	11.1
	美々津地区 (n=26)	3.8	30.8	53.8	11.5
	東郷地区 (n=55)	20.0	38.2	40.0	1.8

※「聞いたことはあるが、意味までは分からない」は前回調査では「聞いたことはあるが、意味までは知らなかった」。

問 35 地域における様々な福祉課題を他人事でなく「我が事」としてとらえ、福祉分野別の相談を「丸ごと」受け止めようという、いわゆる「我が事・丸ごと」の地域共生社会の推進が求められています。どのように推進していけば、住民の皆さんが幸せに暮らせるようになると思いますか。

若い世代へのアナウンス。
市がもっと地域共生社会という内容を住民一人ひとりに広げる活動が必要だと思う。
日向（地方）もある意味都市化（隣の住民が誰かわからない）が進み、地区地域で取り組むイベントも少なくなってきた住民同士ふれ合う事が少なくなっている。なかなか「我が事」ととらえる事が難しい。せめて学校教育の場で子ども達を啓蒙していく、培っていく事が大事なのでは。
相談窓口を作ること。となり近所の住民同士がお互い支え合う、支え合える関係になること。
住民の方にとって、サポートサービスがあることを教える。
様々な福祉課題は、具体的にどのような事があるのか知らない。分野別の分野も知らない。子どもは学校教育で、大人にも学ぶ機会が必要だと思う。
身近な近所づき合いが何より大事。
あいさつ、声かけ、話し合いの機会や場所を多くつくる。
地域の住民間で交流を密にしておく事。
わかりません。
昭和のような時代なら自然と地域での付き合いがあっただろうが、最近地区に引っ越してきた方は名前も誰が住んでるのかもわからない。子どもの頃にあった地区の夏祭りなどのイベントなどで地域の交流があればと思う。
地域ごとに相談員を置き、福祉を必要としている人々を把握。どこに行けば問題解決の道となるか教える。事業所を構える。
協調心の強化。
自分達の事で手一杯で他の事は考えられない。
個人情報とか国から先に孤立型の政策を進めている中、何を今更という感がある。登校する子ども達に挨拶しても返事も返って来ない事が普通になってしまった。
子どもが少なくなっていく中で、ずっと先を見越した話し合い計画がほしいと思う。
日頃からのあいさつ、困っている人を見かけたら声かけをし、声をかけられた人は頼る気持ちを持ってほしい。人を信じ、人から信じられる行動を日頃から実行する。
「福祉分野別」とはどのようなことか内容不明。まず区・公民館の役員が区内世帯の実情を知り、班長が各世帯の内情を詳しく知ること。ただ、現在は個人情報の管理が問われ世帯の内情を他人に漏らせないことが問われているだけに、難しいこと。なお班長は1年交替が多いだけに守秘義務との兼ね合いが問われる。
各家庭の状況を班長が把握して、区で取りまとめて熟知しておく。又、市とも共有して対応する。
地域共生社会の理念である「お互いを人として尊重し合う」ことを幼少期から育てていくこと。
他人ごとではなく偽善者で手をさしのべるのではなく、本当に相手の心に寄り合い手をさし

のべる人が増えることを望む。第 34 回中学生人権作文コンテストの日向中の子の作文が今でも心に残る良き手本となる。
地域の行事などに対して皆の関心が薄くなっているの、以前よりはつながりが薄いと思う。
「困りごとがある」と声を上げやすい雰囲気作り。
価値観の多様性、家族意識の変様、世代間のつながりの希薄化、男女の格差、弱者への抑圧などなどが地域の縮図となり、生きづらさを感じる。地区の役員さんたちは頑張っているが、浸透広がらず難しさを痛感する。長期的な視野で教育が必要。
今困っている人の意見を取り入れ、環境を整えていく。
誰もが何でもいつでも相談できる窓口がほしい。
一人ひとりが豊かに生活できる事。
生活にゆとりが持てている事。
声かけ合って交流する。
「地域共生社会」という名称を変える。似たような名が多くてわかりにくい。子育て世帯に対して日向市は税が高すぎる。子どもの人数によって減税などもあればまだ余裕ができ参加もできやすい。
幸せに暮らせる訳がない。
まずは知ってもらう事。
子どもの娯楽が少なすぎる。
福祉課題を他人事でなく我が事としてとらえ、相談事を丸ごと受け止めて行く事が出来る人（ひと）づくりをする。
班を中心にして情報収集、普段からのつきあいを深める。今も結構できていると思う。
住民が一体となることが日ごろより重要。祭りなどを通じて心が豊かになるような行事を積極的に行う。参加することが大切と考える。
イベント等で推進。
思いやりの心。一致団結。
人と人との繋がりを目的としたイベントの開催。
子どもの教育に当たり前のように取り入れていく。困っている人がもっと声を上げていく。
幼少期からの教育で取り入れ、しっかりと根付かせなければ個人主義志向の若い世代にはとても理解できない事かと。その親の世代（30～40 代）でもやや厳しいかも。自分の身に降りかからないと実感が沸かないですね。
ムリだと思う。皆が幸せになるには金銭的格差をなんとかしなければ。
住民から直接問題を集め一つずつ解答を導き出す事。そしてそれを文章にし、資料化する事も大事。あくまで上から目線ではなく住民目線の体制作りを求める。
店や施設などに仕組みの内容のポスター等を掲示。TVやCMでの放送。
ボランティアの善意に支えられている活動が負担になりすぎないように日常生活を苦しめるレベルまで負担を与えない工夫。コロナ禍での状況では将来への不安から心に余裕がなく考えることができない。
住民同士のつながりがなければ何事もうまく行かないと思う。人事と思わず我が事と思い、周りを良く考える力のあるリーダーが必要。

自治区での勉強会が必要であり、各イベント時にも講話、PRが必要。
子どもの時から学習に取り入れていき、区での学習会等を行いながら、周知し理解できるようにしていかなければ、一人ひとりが推進することはできないと思う。
日頃からの顔の見える関係づくり。地域の課題を受け止めるワンストップ窓口。
ボランティアグループの養成及びその存在の周知。地域民生児童員の若年化。
老後の安定した生活の保障を図る。ボランティアを行ううえで必要な資金。
明るい暮らしの挨拶運動。住民の見守り運動。声掛け運動実施を行う。
思いやりをもっと持つ。
ふだんから、あいさつや声かけで話しやすくなると思う。
家庭で教育、特に優しさ。そのためには、衣、食、住に問題がないこと。
家庭の状況は千差万別。出来る余裕のある人、行政が真剣になって家庭環境を含めて調整（取り組み）を考えるべき。
地域のふれあいが少ない。子ども達とのふれあいが少ない。
福祉課題について知る機会を作り、教育する。
行政、民、団体職員に各地区の担当者を作り、一体となる事が情報伝達、地域活性化につながる。
一人ひとりの意識。
新しい家ができ、新しい人と、前からの人とは生活時間も違い、顔見知りでもないから、福祉が身近にない人には他人事に感じると思う。市や町や小さい地域での交流が必要。
住民に投げかけるのではなく、そこは考えて頂きたいなと願う。
他人事を我が事と捉えるという考えを持つということは、一朝一夕には完成せず、個人のその様な思いも理解されにくいという実情があると感じている。以前、隣人の嫌がらせで困っていたとき、その人の親戚の方々、地域の民生委員、警察署、保健所に相談したが何の解決もなく今に至る。親戚、民生委員には関わりたくないという態度を取られ、不信感しかない。まずは大人の意識を変えること。子ども達への教育が重要だと思う。
地域の人々とのつながりが少ないので良くわからない。
市役所で相談会等を開いてほしい。相談箱、SNS等の利用も推進して欲しい。
日頃からのあいさつ、声かけや付き合いをする。地域での避難訓練をする。
福祉とは優しさだと思う。超高齢化社会は年々進んでいく。ますます必要性は高まっていく。まさに優しい気持ちが必要だと思う。
隣保班を見直す。
何事も共栄共助で行うべき。
子育てが難しく、他人を助ける余裕がない。例えば、今、うちの小さい子どもを面倒見てくれる方がいたら、その方が1人で困っている時、車で買い物に行ったり、できる事をお互いがやり合うしくみ作りが難しいと思う
今はコロナで地区の行事等なくなってしまったが、区に参加してもらって横のつながりが少しでもできるといい。子ども会の行事参加から始まって広がっていくので、子ども会なども親の参加は、区や地区老人になるまで続いていく。
福祉課題を自分のこととして考えることを呼びかけるプリントを作成し、地域の幼稚園・保育園・小・中・高校で配布する。または市長が演説する。

「わが事・丸ごと」の推進が求められている、とは知らなかった。観念論的幸福論で福祉行政が進められるとすれば担当者の負担が大きい。
顔見知りになってある程度対話ができ、少しでも相手の方が理解できれば、次逢う時に親しみがわくようになる。
近所にどんな人が住んでいるか把握する。会社の近所でも一緒に訓練する。
まずは一人ひとり、家族が、ここの地域における様々な課題があることを自覚し、皆で話し合っていくこと。話し合った内容も地域の方々に、必ず伝えること。
前向きな個人情報の公開・共有があると、援助が必要な人に対して何かしたいという思いは誰にでもあると思う。必要な事が分からないから何をしたらいいのか分からないという面がある。
各地域（地区）に市役所の担当を作り（決め）、区長プラス市役所担当（リーダー）中心に定期的な会合を行ってもらう。地域ボランティア活動・福祉活動の推進、防災訓練等。
孤独を感じている人、助けが必要な人が繋がる場所（居場所）の提供。地域の集まりや回覧板、一斉メール等、住む地域の情報があり、繋がり（知り合い）ができること。個性、特技が活かせるようにすること。
相談や悩みをまずは知る。
戸別にチラシを配布する。知らない人が多いと思うので、まずそれを知らせる事が先だと思う。
福祉も充実していると思うが、自分達も日頃から健康管理して若い世代から気を付ければ老いても福祉に頼らなくても皆の税金を少しでも減らせるのでは。その意識を持つ事が大切なのでは。
弱者の視点、立場で共同生活を協力、助け合う普段の活動。
とにかく区として機能する事。市役所だけに頼らず、それぞれが機能する事。
普段からご近所への心がけ等。
若い世代の人に関わってもらい広めてもらう。
サポートをされるのを嫌がる方もいるので「支え手」を必要とされる方「支え手不要」の方がわかれば声をかけやすい。
地域の避難場所（公民館）の位置や経路が悪いため、安全な体制が可能とは言えない。特に体調の悪い方や老人の移動は困難である。老人の増加、「ひとり暮らし」の増加も問題だ。
声かけ、会話などを通じ、近所や地域の環境などをよく知り、小さなことから解りあい、共感しあって安全（安心）を考えていくこと。
いつでもどこでも声を届ける事ができるようにしてほしい。どこへ誰にどのように連絡を取ればいいのか不安。音声ではなく「人」に受け答えして欲しい。高齢者や障がい者が簡単に声を発する事ができるような手段を作してほしい。
地域の行事を維持していく。参加者が少なくても、やることに意義があると思う。
具体例をマンガやドラマで見て知りたい。
みんなが知り合って仲良くなること。
地域活動の一環として講習などを行い、“地域共生社会”について学び、そのような活動を増やしていけばよいと思う。
まずは知る事だと思う。地区での勉強会などで自分の視野を広げられると思う。そしていろ

んな行事に参加する事で身に付けていくと思う。
県や市からのサービスを享受するだけの立場に置くのではなく、地域住民同士が顔見知りになるため、何らかのコミュニケーションが図れる機会が必要。知らない人だから他人であり、他人のために自分の時間と労力を使おうと思わない。顔を知って話した事があるだけでも、全然違うと思う。行政からの一方通行の方策ではなく住民同士のつながりを確保するため、何らかの施策を講じてほしい。強制はできないと思うので、参加者に対して恩恵がある工夫が必要。地域住民が皆顔見知りになれば自然に助け合う。
自分は障害手帳２級を有しているが、かつて関連する事柄についての話し合いや相談ごとは全くない。淋しい限りです。
要支援者は隠れた存在だと思います。要支援者宅にステッカー等を貼り、ご近所の方に把握してもらおう。
日向市が地元ではないので、知らない事や関われない事が多くある（アパートなので回覧板などもない）。人と地域がつながるためには、活動や行事を進めるリーダーとなるような方がまずいないと、進められないのではないかと思います。
学校教育で“福祉”教育を行う。
まわりは地元でない人が多いので、つき合いも特にない。そういう人達と生活しているので質問が難しい。
相談を受ける側の知識の低さ。当たり前のことを当たり前に受け答え、傾聴をし、それで業務を行ったと思っているのかもしれない。
利用者から何か言われたら誰が責任を取るのかという問題がついてまわるから、通り一遍の活動サポートしかできないのではないかと思います。
「住民が本気で幸せに」と思うなら本気で向き合う行政であるべきだと思う。
日頃からの親密なつき合い。
一人ひとりが誰かのためになると思いながら生活していけば、自然とみんなのためになると思う。
相談をどこでしているのか、どのようにしているのか。広報等での周知活動の充実と啓発運動、連絡先、体制表等の作成→相談後の教育、育成。
ボランティアでどうにかなるという考えは無理だと思う。近所の家的事でも介護、育児を手伝うなら賃金が必要。
自治会の活動を通して地域の方と話をする。
隣に住む人を知ることからだと思う。
自治会公民館活動の中で、各班での隣近所の住民との意思疎通の深さが基盤となった上で、共生社会の具現化が図られると思う。
今は同じ地区、班でも隣近所に住んでいる人が全くわからない事があるのでまずは、小さい輪を作るために班、地区で人を知る事からはじめ、どんどん大きな輪をつくる事が大切だと思う。今はコロナの状況で難しいとは感じている。
いきなり社会全体での構築は難しいため、まずはボランティアに参加している人など、積極性がある人達でグループを構築し、人に話しかける人達を増やしていく。
地域の問題点や必要を理解できるよう、情報を発信する。インターネットを活用できる。

お役所仕事ではなくもっと地域に根差した活動でなければ、我が事としてとらえるという事はできない。
近所の方との関わりを深める。
このアンケートの中で平気で知らない事が沢山ある。回答等では無意識に見る事が多いのでしっかり住民に知らしめる事だと思う。興味を持つ楽しい集会にしてほしい。
プライバシーの問題もあり、難しいと思うが一人ひとりが周囲のことに關心を持つようにすればいいと思う。
他人の身体・私生活の中に土足で立ち入らず、見下げる事なく、我が身に置き換え思いやりの心、態度で接する事を個人個人が心に止め置けばいいのではと思う。
自治会機能の復活。誰でも気軽に参加できる。
人と人の繋がりを作っていくことが大事だと思う。まず、隣近所から逢うことによって、その積み重ねだと思う。
自分も含め生活に余裕がないことから、家族以外に目を向ける余裕がないので、まずは日常生活の向上が先だと思う。正直に言ってしまえば、助けはほしいが他者を助ける余裕はない。
人に關心を持つ。
支える側と支えられる側とのミゾが深い。良かれと思い行動したら、とんでもない事になったとか等。責任問題等に発展したとか。条文等作って明確化しないといけない。
近所の方とのお付き合いを心がけ、声かけ等も普通に行うようにしておく。区、班内での交流事とか行事等できるだけ参加する事で親近感が生まれる。
プライバシーをそこなわぬ程度にお互いの存在を知り、区内の人を知っておくことが大切だと思う。
困った時はお互い様という気持ちを多くの人に感じてもらうために、一人暮らし、子育て世帯、高齢者など子ども～高齢者までが生活の中で助けを求める事ができるということを知ってもらう。
幸せというのも、それぞれだと思う。まず自分の事が自分でできるように、暮らしていける事が大切だと思っている。
地域における問題とするとなかなか難しい。もっと細かく隣保班ぐらいの単位が入りやすい。地域という力関係もあり差別があり難しいと思う。
住民の意識改革。人と人とのつながりを再構築し人と人をつなげる。同じ地域、地区という一体感等。
他の地域の事を参考にする。
昔からの地域の考え方や隣人同士の根強い考え方が変わらない限り協力し合う事はできない。（差別や村八分など感情性の高いもの）
公民館組織の中に「我が事丸ごと」対策チームのようなものを作っては？
できるだけ多くの住民が言葉の意味まで知って理解できるようイベントや広報活動を行う。
ボランティア活動においては学習する場があった方がいいと思う。どのようなことが求められているのか、どのような気持ちで取り組んだらいいのか、できることはどういうことなのか。そういう場が必要だと思う。
車社会となっており、車がないと不便である。交通手段又はスーパー等の移動販売。

老若に関係なく、一人ひとりが理解し、日頃から意識し行動できる様になるとよい。障がい者用スペースに健常者が車をとめない。車イスを店等に常備する。障害者、高齢者への目配り、気配りは常日頃から大切。
気軽に話せる近所づき合い。地区内でのコミュニティ。
行政がまずは見本をみせてほしい。今の時代では少し厳しいと思う。
身近の信頼できる方に相談。その方から連携をとってもらい対応につなげてもらう。窓口ばかりたくさんあっても連携していかないと問題解決につながらないと思う。
今の所、元気で車の運転もできるし、週2日働いている。この先、車に乗れなくなって、買い物に行く事が大変になった時に、無料バス乗車券があるといいなと思う。
日頃からの「あいさつ」の励行、声かけによる付き合い。
地域が重要なので福祉部の活動を充実させる。年に1回各地区と福祉部を集めて、その年のテーマを決めて活動を行ってはどうか。
もっと地域の集まる場をつくる事。（行政が主となり）
隣近所の人達の助け合い。通りがかりの子どもにも声をかけている。
進んで住民に講和等にて納得させること。
地域がつながるための新たな取組が必要だと思う。
回覧版の中身があまりにも普通なので大変だと思うけど、区の話とか、顔つきで紹介したり、こんな事があったとか書いてくれると楽しく地域の事が知れると思う。
我が事、丸ごと受けとめようとするのはキレイ事で所得格差が弊害になってると思う。
少し、難しい。
助けてもらおうと思わずに、自活できる力を身に付けるようにする。
相手に対して思いやりをもって接すること。困っている人がいれば声をかけて寄り添うことも大切だと思う。
小さい頃から差別についての教育を受けていると大人になってからも影響してくると思う。今の子どもは、割と偏見を持たず関われる子が多いと感じる。優しい子が多いので、学校や家庭での教育が大切と思う。
老人主体ではなく子ども主体で物事を考えるべき、市の議会は平均年齢が高く、地元密着なので狭い視野や偏った考えを一新するためにも外の人間を入れ、勉強会などをオープンに実施（住民参加可）するべき。十分にPCが使えてまともな英会話ができる地域のリーダー格はどのくらいいるのか、できない人が多い場合にSNS（若い人向けの情報発信）やリスト、一覧、表の作成、外国人への情報伝達はできる人にまる投げするのか、地域として一人ひとりの基礎レベルを上げる政策をしてほしい。
ふだんから、近所の人と仲良くする。
個人情報かもしれないが、せめてご近所さんだけでも家族の事を把握して、コミュニケーションをとる事が理想だと思う。他人事ではなく、愛情を持って接していけたら安心な世の中になるのでしょう。
幼い時からそれが“当たり前”と思える教育が必要だと思う。
年をとると免許を返納せよというが、歩くのに不自由で車で買い物や病院に行く。免許返納したらタクシー代を半額とかにしてくれると免許返納が多いと思う。ぷらっとバスはタクシ

一代が半額になれば必要ないと思う。乗っている人を見ない。いらないと思う。

住民税をさげる。

ふだん福祉に全くたずさわりのない人は興味がないため、情報を集めようと思わないと思う。
多くの人が目にする場所、物、または学校や職場での発信などが必要なのではと思う。

ある程度のパーソナルスペースは必要であり、我が事と受け取られると肩身が狭く心に重たい。

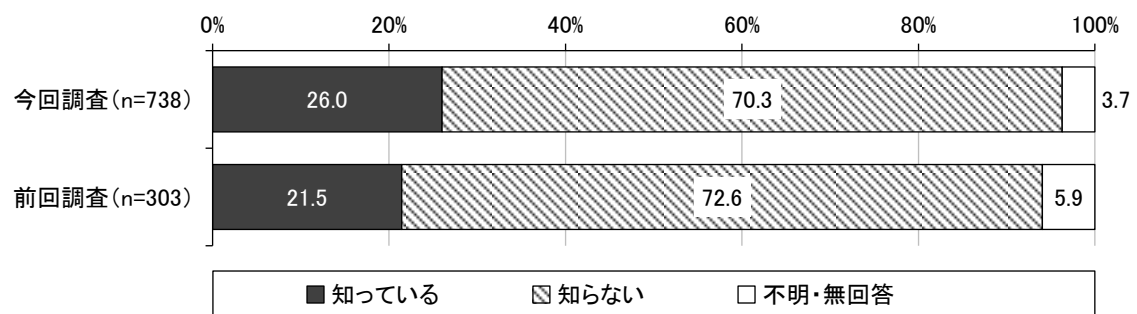
9 生活の困窮について

問 36 「仕事が見つからない」「社会に出るのが不安」「家賃が払えず退去を求められそう」など、さまざまな困難の中で生活に困窮している人に包括的な支援を行うため、平成 27 年 4 月から、社会復帰支援、家賃補助などの「生活困窮者自立支援事業」を行っています、ご存知ですか。（単数回答）

生活困窮者自立支援事業の認知度についてみると、「知っている」が 26.0%、「知らない」が 70.3%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

地域別にみると、すべての地域で「知らない」が高くなっています。



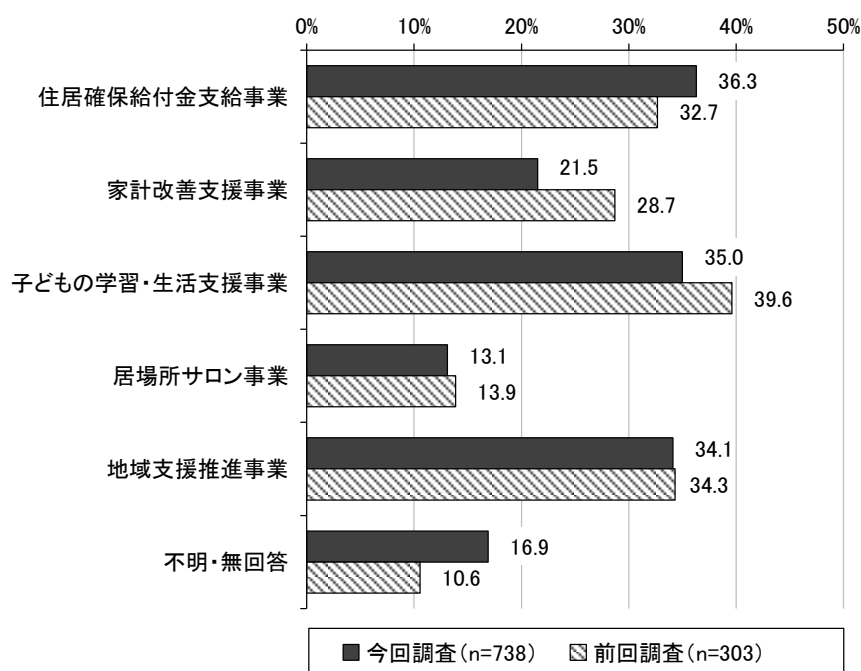
単位: %		知 っ て い る	知 ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=738)		26.0	70.3	3.7
地 域 別	富高・新町地区 (n=120)	28.3	67.5	4.2
	日知屋地区 (n=58)	31.0	69.0	0.0
	日知屋東地区 (n=90)	24.4	71.1	4.4
	細島地区 (n=22)	36.4	54.5	9.1
	大王谷地区 (n=122)	29.5	68.9	1.6
	財光寺地区 (n=170)	20.0	78.2	1.8
	塩見地区 (n=31)	19.4	77.4	3.2
	平岩地区 (n=31)	32.3	61.3	6.5
	幸脇地区 (n=9)	11.1	66.7	22.2
	美々津地区 (n=26)	23.1	61.5	15.4
	東郷地区 (n=55)	29.1	69.1	1.8

問 37 生活困窮者への支援として、どの事業を優先して充実すべきだと思いますか。

(2つまで複数回答)

生活困窮者への支援として優先して充実すべき事業についてみると、「住居確保給付金支給事業」が36.3%と最も高く、次いで「子どもの学習・生活支援事業」が35.0%、「地域支援推進事業」が34.1%となっています。

前回調査と比較すると、「家計改善支援事業」が7.2ポイント低くなっています。



※「家計改善支援事業」は前回調査では「家計相談支援事業」。

「子どもの学習・生活支援事業」は前回調査では「子どもの学習支援事業」。

地域別にみると、細島地区、東郷地区では「地域支援推進事業」、大王谷地区、財光寺地区、平岩地区では「子どもの学習・生活支援事業」、その他の地域では「住居確保給付金支給事業」が最も高くなっています。

単位：%		住居確保給付金支給事業	家計改善支援事業	子どもの学習・生活支援事業	居場所サロン事業	地域支援推進事業	不明・無回答
全体(n=738)		36.3	21.5	35.0	13.1	34.1	16.9
地域別	富高・新町地区(n=120)	40.8	16.7	40.0	10.0	32.5	16.7
	日知屋地区(n=58)	43.1	22.4	32.8	13.8	36.2	13.8
	日知屋東地区(n=90)	41.1	24.4	31.1	11.1	33.3	21.1
	細島地区(n=22)	13.6	22.7	31.8	9.1	40.9	27.3
	大王谷地区(n=122)	33.6	27.9	42.6	18.0	37.7	8.2
	財光寺地区(n=170)	33.5	18.2	40.6	18.2	34.1	11.8
	塩見地区(n=31)	41.9	16.1	16.1	3.2	29.0	35.5
	平岩地区(n=31)	38.7	16.1	45.2	6.5	32.3	16.1
	幸脇地区(n=9)	44.4	44.4	0.0	11.1	22.2	33.3
	美々津地区(n=26)	38.5	23.1	23.1	7.7	30.8	23.1
	東郷地区(n=55)	29.1	23.6	18.2	9.1	32.7	29.1

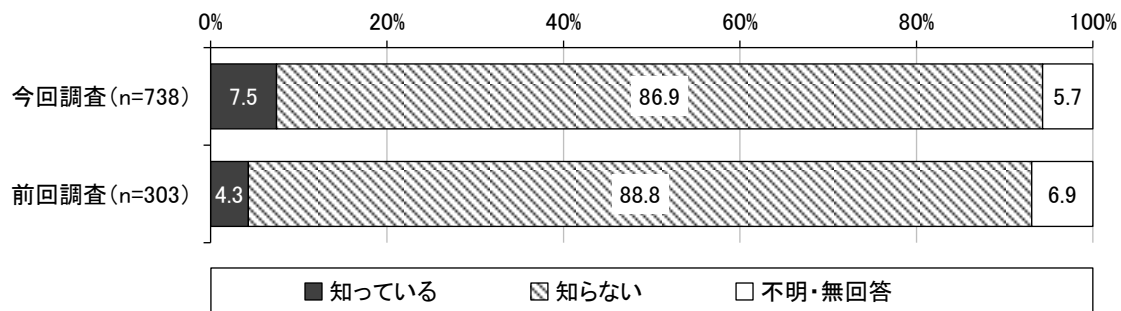
10 妊娠、出産、育児等について

問 38 妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援を行うことを目的として、平成 29 年度から「ヘルシースタート事業」を行っていますが、ご存知ですか。（単数回答）

ヘルシースタート事業の認知度についてみると、「知っている」が 7.5%、「知らない」が 86.9%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

地域別にみると、すべての地域で「知らない」が高くなっています。

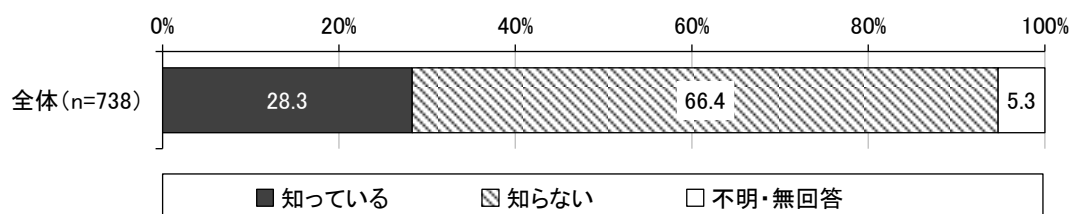


単位：%		知っている	知らない	不明・無回答
全体 (n=738)		7.5	86.9	5.7
地域別	富高・新町地区 (n=120)	7.5	88.3	4.2
	日知屋地区 (n=58)	5.2	93.1	1.7
	日知屋東地区 (n=90)	7.8	84.4	7.8
	細島地区 (n=22)	9.1	68.2	22.7
	大王谷地区 (n=122)	9.0	89.3	1.6
	財光寺地区 (n=170)	8.8	87.6	3.5
	塩見地区 (n=31)	0.0	96.8	3.2
	平岩地区 (n=31)	9.7	80.6	9.7
	幸脇地区 (n=9)	0.0	88.9	11.1
	美々津地区 (n=26)	0.0	84.6	15.4
	東郷地区 (n=55)	7.3	81.8	10.9

問 39 就学前の子どもと保護者の居場所、子育てについての相談の場所として「日向・地域子育てセンター」や「つどいの広場」を設置していますが、ご存知ですか。（単数回答）

日向・地域子育てセンターやつどいの広場の認知度についてみると、「知っている」が28.3%、「知らない」が66.4%となっています。

地域別にみると、すべての地域で「知らない」が高くなっています。

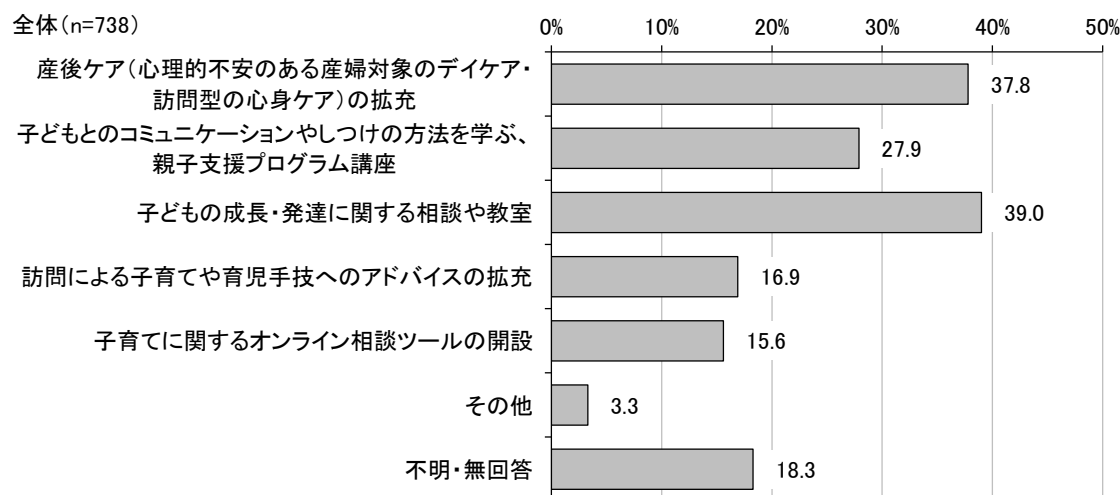


単位: %		知っている	知らない	不明・無回答
全体 (n=738)		28.3	66.4	5.3
地域別	富高・新町地区 (n=120)	31.7	64.2	4.2
	日知屋地区 (n=58)	27.6	70.7	1.7
	日知屋東地区 (n=90)	28.9	64.4	6.7
	細島地区 (n=22)	31.8	45.5	22.7
	大王谷地区 (n=122)	32.8	65.6	1.6
	財光寺地区 (n=170)	31.8	65.3	2.9
	塩見地区 (n=31)	19.4	77.4	3.2
	平岩地区 (n=31)	29.0	64.5	6.5
	幸脇地区 (n=9)	0.0	88.9	11.1
	美々津地区 (n=26)	11.5	73.1	15.4
	東郷地区 (n=55)	16.4	72.7	10.9

問 40 ヘルシースタート事業において、どの取組を優先して充実すべきだと思いますか。

(2つまで複数回答)

ヘルシースタート事業において優先して充実すべき取組についてみると、「子どもの成長・発達に関する相談や教室」が39.0%と最も高く、次いで「産後ケア（心理的不安のある産婦対象のデイケア・訪問型の心身ケア）の拡充」が37.8%、「子どもとのコミュニケーションやしつけの方法を学ぶ、親子支援プログラム講座」が27.9%となっています。



— 「その他」の回答 —

わからない(5)／気軽に相談できるツール開設・ボランティアの育成(4)／親(父親)の教育(3)／子育てのできる環境かどうか／全部大事／親が自分の時間を必ずとる・とれる制度／子ども一時預かり／ふれあいの場などでのトラブルを防ぐ対策／幼児、児童を自由に遊ばせることのできる全天候型の施設整備／ママ同士で交流できる場／産後ケアを誰でも利用できるようにする／教育学、心理学、医学などの知識を心得ておく／離乳食期からのごはんの作り方、進め方を教えてくれる場所

地域別にみると、富高・新町地区、細島地区、財光寺地区、平岩地区、東郷地区では「産後ケア（心理的不安のある産婦対象のデイケア・訪問型の心身ケア）の拡充」、日知屋地区では「産後ケア（心理的不安のある産婦対象のデイケア・訪問型の心身ケア）の拡充」「子どもの成長・発達に関する相談や教室」、その他の地域では「子どもの成長・発達に関する相談や教室」が最も高くなっています。

単位：%		産後ケア・（訪問型の心身ケア）の産婦対象の拡充	子どもの成長・発達に関する相談や教室	子どもの成長・発達に関する相談や教室	訪問による子育てや育児手技へのアドバイス	子育てに関するオンライン相談ツールの開設	その他	不明・無回答
全体 (n=738)		37.8	27.9	39.0	16.9	15.6	3.3	18.3
地域別	富高・新町地区 (n=120)	40.0	33.3	32.5	19.2	10.8	4.2	19.2
	日知屋地区 (n=58)	44.8	17.2	44.8	24.1	24.1	1.7	10.3
	日知屋東地区 (n=90)	35.6	27.8	44.4	15.6	18.9	4.4	16.7
	細島地区 (n=22)	40.9	13.6	31.8	18.2	9.1	0.0	36.4
	大王谷地区 (n=122)	38.5	33.6	41.8	17.2	19.7	4.9	10.7
	財光寺地区 (n=170)	42.9	31.2	41.8	15.9	18.8	2.9	11.2
	塩見地区 (n=31)	19.4	32.3	38.7	9.7	19.4	9.7	22.6
	平岩地区 (n=31)	41.9	32.3	38.7	16.1	6.5	0.0	12.9
	幸脇地区 (n=9)	11.1	11.1	33.3	11.1	11.1	0.0	55.6
	美々津地区 (n=26)	26.9	15.4	34.6	19.2	7.7	0.0	42.3
	東郷地区 (n=55)	30.9	14.5	29.1	14.5	3.6	0.0	40.0

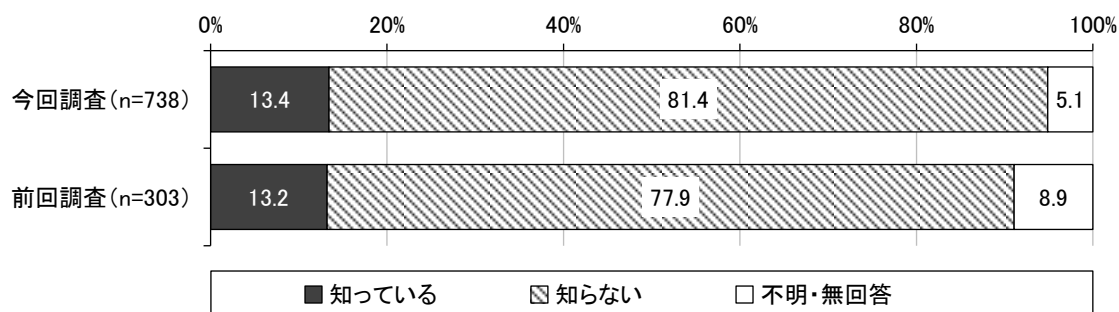
11 手話について

問 41 日向市では、手話を言語として明確に位置づけ、手話の理解促進と普及、手話を使用しやすい環境づくりを推進することで、すべての住民が暮らしやすい地域社会の構築を目指して、「手話言語条例」を制定し平成 28 年 4 月から施行していますがご存知ですか。（単数回答）

手話言語条例が施行されたことの認知度についてみると、「知っている」が 13.4%、「知らない」が 81.4%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

地域別にみると、すべての地域で「知らない」が高くなっています。また、平岩地区では「知っている」が他の地域と比べて高くなっています。



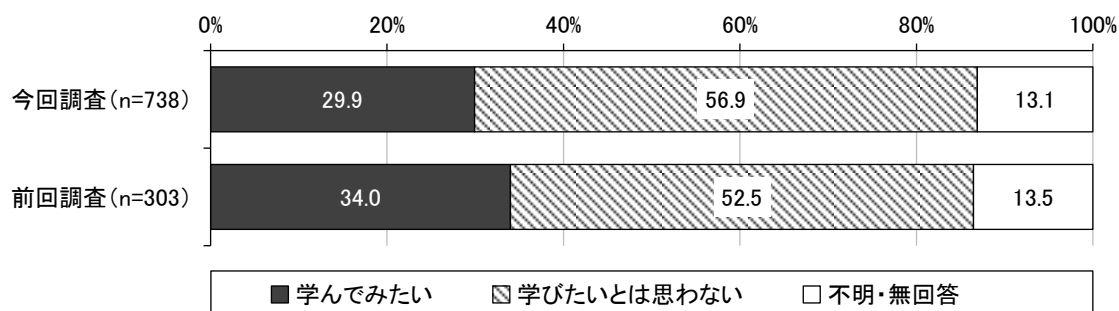
単位: %		知っている	知らない	不明・無回答
全体 (n=738)		13.4	81.4	5.1
地域別	富高・新町地区 (n=120)	13.3	82.5	4.2
	日知屋地区 (n=58)	6.9	89.7	3.4
	日知屋東地区 (n=90)	14.4	82.2	3.3
	細島地区 (n=22)	4.5	81.8	13.6
	大王谷地区 (n=122)	15.6	82.8	1.6
	財光寺地区 (n=170)	14.1	82.9	2.9
	塩見地区 (n=31)	12.9	77.4	9.7
	平岩地区 (n=31)	22.6	74.2	3.2
	幸脇地区 (n=9)	0.0	77.8	22.2
	美々津地区 (n=26)	7.7	76.9	15.4
	東郷地区 (n=55)	14.5	72.7	12.7

問 42 聴覚や視覚に障がいのある人のコミュニケーションの手段である手話、点字（訳）、朗読（音訳）などを学ぶ講習会、高齢者や障がいのある人に対する介助やボランティアなどを学ぶ講座などが地域で開かれています。学んでみたいと思いますか。（単数回答）

手話、点字などの講習会や講座で学んでみたいかについてみると、「学んでみたい」が29.9%、「学びたいとは思わない」が56.9%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

地域別にみると、すべての地域で「学びたいとは思わない」が高くなっています。



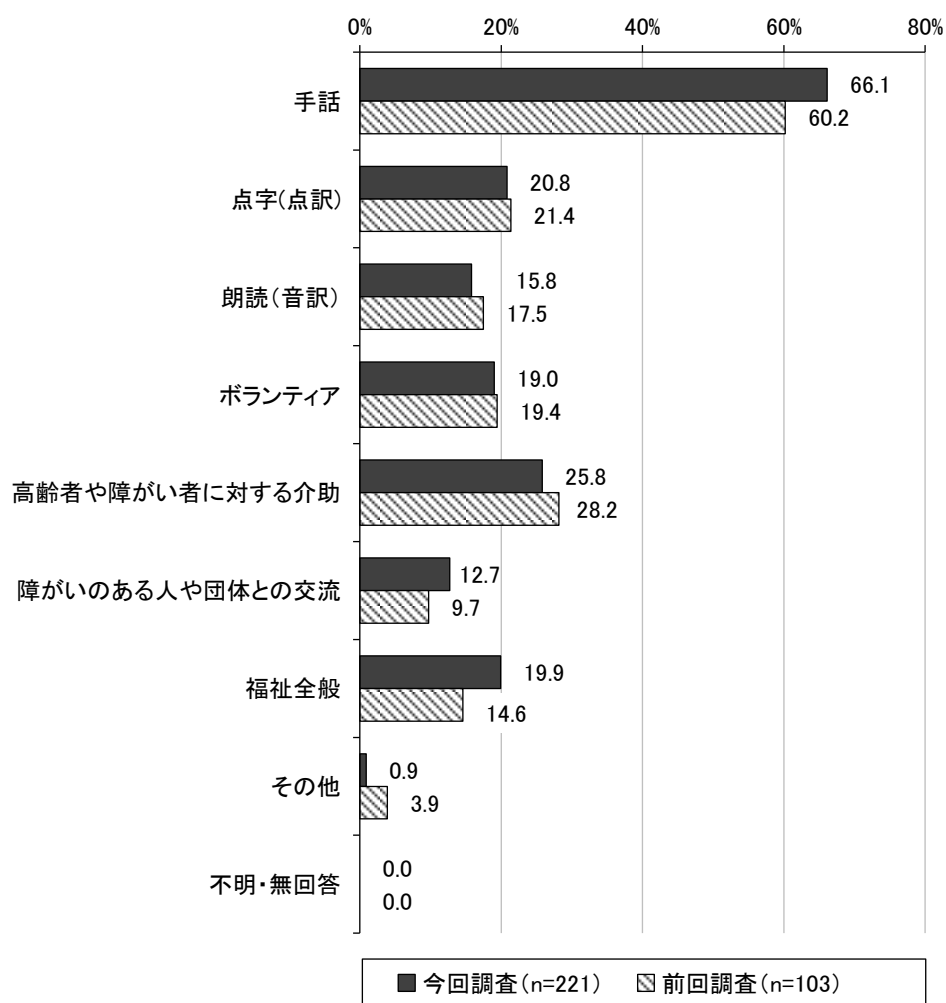
単位: %		学んでみたい	学びたいとは思わない	不明・無回答
全体 (n=738)		29.9	56.9	13.1
地域別	富高・新町地区 (n=120)	29.2	59.2	11.7
	日知屋地区 (n=58)	37.9	51.7	10.3
	日知屋東地区 (n=90)	35.6	53.3	11.1
	細島地区 (n=22)	22.7	59.1	18.2
	大王谷地区 (n=122)	35.2	59.0	5.7
	財光寺地区 (n=170)	30.6	58.2	11.2
	塩見地区 (n=31)	19.4	64.5	16.1
	平岩地区 (n=31)	29.0	54.8	16.1
	幸脇地区 (n=9)	11.1	55.6	33.3
	美々津地区 (n=26)	15.4	57.7	26.9
	東郷地区 (n=55)	20.0	50.9	29.1

問 42 で「学んでみたい」と答えた方のみ

問 43 どのような講座に参加して学んでみたいと思いますか。参加したい講座に○をつけてください。（複数回答）

参加したい講座についてみると、「手話」が 66.1%と最も高く、次いで「高齢者や障がい者に対する介助」が 25.8%、「点字（点訳）」が 20.8%となっています。

前回調査と比較すると、「手話」が 5.9 ポイント、「福祉全般」が 5.3 ポイント高くなっています。



— 「その他」の回答 —

大体できる／男性が学べる簡単な料理教室／機会が有った時の対応の為／高齢なので沢山は出来ない

地域別にみると、東郷地区では「朗読（音訳）」、その他の地域で「手話」が最も高くなっています。

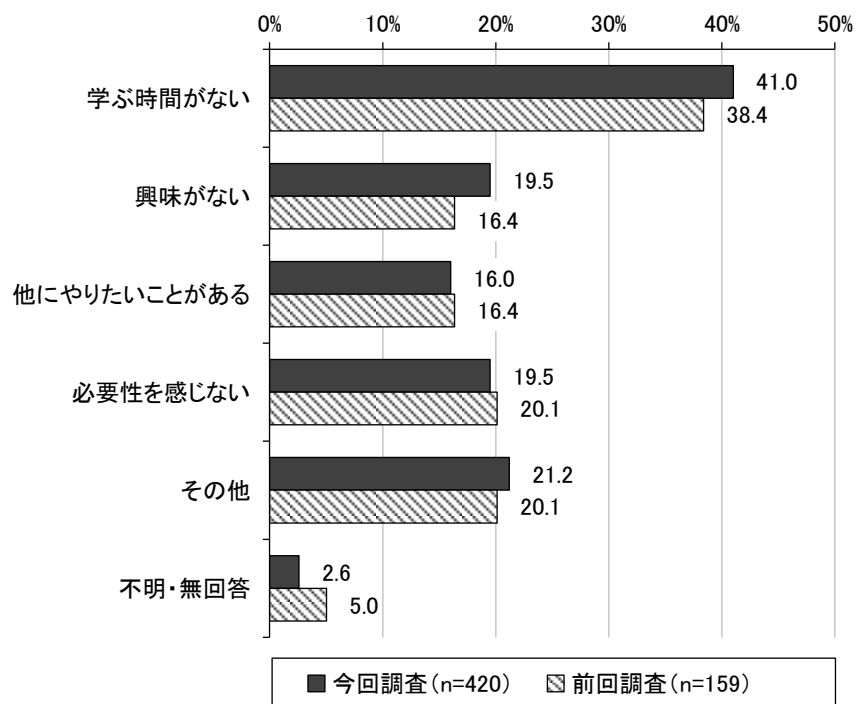
単位：％		手話	点字 (点訳)	朗読 (音訳)	ボランティア	高齢者や障がい者に対する 介助	障がいのある人や団体との 交流	福祉全般	その他	不明・無回答
全体(n=221)		66.1	20.8	15.8	19.0	25.8	12.7	19.9	0.9	0.0
地域別	富高・新町地区(n=35)	77.1	22.9	17.1	22.9	22.9	14.3	22.9	0.0	0.0
	日知屋地区(n=22)	81.8	31.8	18.2	18.2	36.4	9.1	13.6	0.0	0.0
	日知屋東地区(n=32)	65.6	12.5	15.6	21.9	21.9	9.4	25.0	3.1	0.0
	細島地区(n=5)	80.0	20.0	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	大王谷地区(n=43)	65.1	25.6	11.6	23.3	23.3	16.3	18.6	0.0	0.0
	財光寺地区(n=52)	63.5	19.2	19.2	9.6	30.8	17.3	25.0	1.9	0.0
	塩見地区(n=6)	50.0	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0
	平岩地区(n=9)	55.6	33.3	0.0	33.3	11.1	0.0	22.2	0.0	0.0
	幸脇地区(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	美々津地区(n=4)	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	東郷地区(n=11)	27.3	9.1	36.4	9.1	27.3	0.0	9.1	0.0	0.0

問 42 で「学びたいとは思わない」と答えた方のみ

問 44 学びたいと思わない主な理由に○をつけてください。（2つまで複数回答）

学びたいと思わない主な理由についてみると、「学ぶ時間がない」が 41.0%と最も高く、次いで「興味がない」「必要性を感じない」が 19.5%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



— 「その他」の回答 —

高齢のため（49）／体調が悪い・病気等のため（13）／余裕がない（8）／覚えられるか不安（5）／場所が不便（2）／以前に受けたことがある（2）／必要となれば学びたい（2）人が集まる場所が苦手／現実にならないとわからない／できない／それだけが手段だと思い込まぬよう、色々な方法を考える／／知人がいないと興味が持てない／今はゆっくり過ごしたい／自分ができる範囲でしてあげたい／学校であいさつ程度を教えてもらおう。あたり前として身に付けていく

地域別にみると、塩見地区では「興味がない」、その他の地域では「学ぶ時間がない」が最も高くなっています。

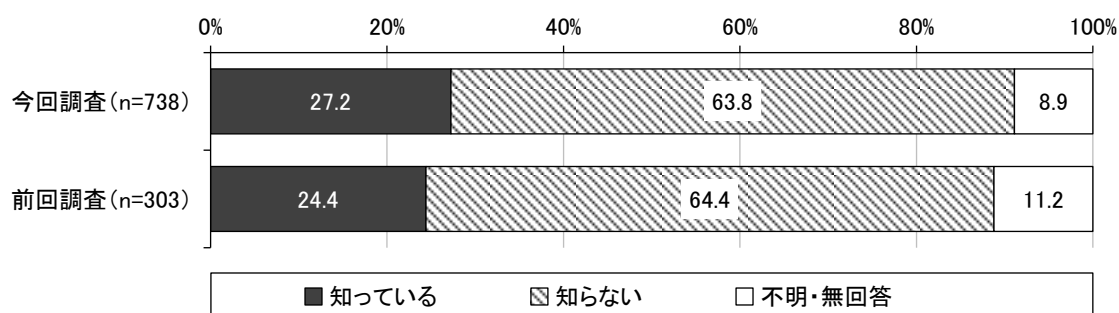
単位: %		学ぶ時間がない	興味がない	他にやりたいことがある	必要性を感じない	その他	不明・無回答
全体 (n=420)		41.0	19.5	16.0	19.5	21.2	2.6
地域別	富高・新町地区 (n=71)	36.6	16.9	15.5	26.8	18.3	7.0
	日知屋地区 (n=30)	43.3	20.0	23.3	10.0	30.0	0.0
	日知屋東地区 (n=48)	50.0	18.8	12.5	20.8	20.8	0.0
	細島地区 (n=13)	38.5	30.8	30.8	7.7	15.4	0.0
	大王谷地区 (n=72)	41.7	19.4	18.1	18.1	22.2	0.0
	財光寺地区 (n=99)	41.4	19.2	15.2	20.2	18.2	3.0
	塩見地区 (n=20)	25.0	35.0	5.0	10.0	20.0	10.0
	平岩地区 (n=17)	70.6	5.9	17.6	11.8	23.5	0.0
	幸脇地区 (n=5)	40.0	20.0	20.0	0.0	40.0	0.0
	美々津地区 (n=15)	33.3	20.0	13.3	26.7	26.7	0.0
	東郷地区 (n=28)	32.1	21.4	14.3	25.0	21.4	3.6

問 45 平成 28 年 4 月に施行された「障害者差別解消法」では、「障がいのある人に対する合理的配慮」（「車いすの人が乗り物に乗る際に手助けをすること」「窓口では障がいのある人の特性に応じた手話や点字などのコミュニケーション手段」を保障することなど）が行政機関では義務化され、民間では努力義務とされています。「障がいのある人に対する合理的配慮」についてご存じですか。（単数回答）

障がいのある人に対する合理的配慮の認知度についてみると、「知っている」が 27.2%、「知らない」が 63.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

地域別にみると、すべての地域で「知らない」が高くなっています。



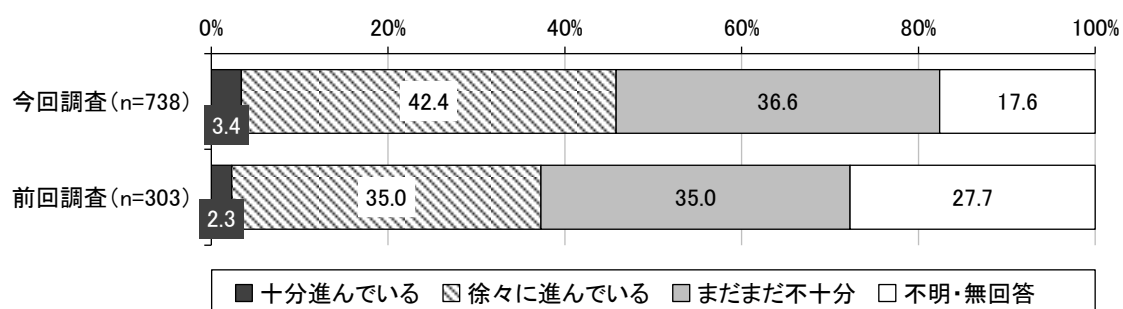
単位：%		知っている	知らない	不明・無回答
全体 (n=738)		27.2	63.8	8.9
地域別	富高・新町地区 (n=120)	25.0	68.3	6.7
	日知屋地区 (n=58)	24.1	70.7	5.2
	日知屋東地区 (n=90)	25.6	68.9	5.6
	細島地区 (n=22)	13.6	68.2	18.2
	大王谷地区 (n=122)	36.9	58.2	4.9
	財光寺地区 (n=170)	25.9	67.6	6.5
	塩見地区 (n=31)	25.8	61.3	12.9
	平岩地区 (n=31)	32.3	61.3	6.5
	幸脇地区 (n=9)	11.1	66.7	22.2
	美々津地区 (n=26)	19.2	53.8	26.9
	東郷地区 (n=55)	30.9	45.5	23.6

問 46 以前と比べて、日向市での「障がいのある人に対する合理的配慮」の取組は進んでいると思いますか。(単数回答)

日向市での障がいのある人に対する合理的配慮の取組の進捗状況についてみると、「徐々に進んでいる」が42.4%と最も高く、次いで「まだまだ不十分」が36.6%、「十分進んでいる」が3.4%となっています。

前回調査と比較すると、「徐々に進んでいる」が7.4ポイント高くなっています。

地域別にみると、日知屋地区では「まだまだ不十分」、塩見地区では「徐々に進んでいる」「まだまだ不十分」、その他の地域では「徐々に進んでいる」が最も高くなっています。

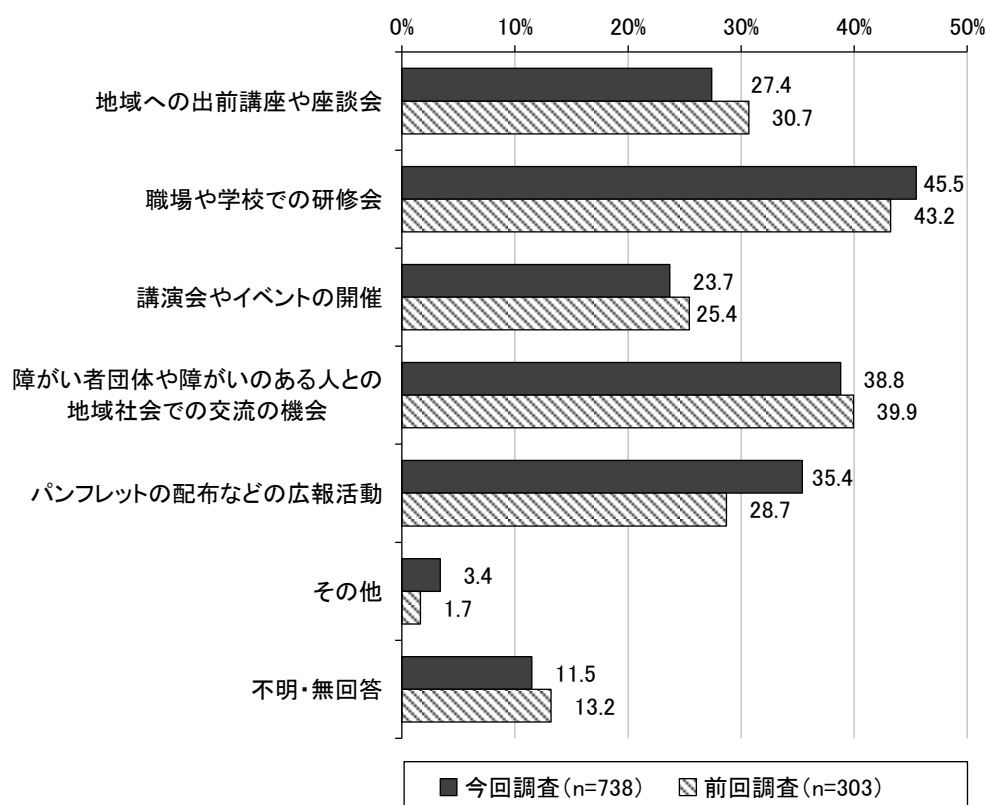


単位: %		十分進んでいる	徐々に進んでいる	まだまだ不十分	不明・無回答
全体(n=738)		3.4	42.4	36.6	17.6
地域別	富高・新町地区(n=120)	3.3	39.2	35.8	21.7
	日知屋地区(n=58)	1.7	39.7	44.8	13.8
	日知屋東地区(n=90)	5.6	42.2	35.6	16.7
	細島地区(n=22)	4.5	40.9	22.7	31.8
	大王谷地区(n=122)	5.7	45.9	38.5	9.8
	財光寺地区(n=170)	2.4	43.5	39.4	14.7
	塩見地区(n=31)	0.0	38.7	38.7	22.6
	平岩地区(n=31)	0.0	45.2	35.5	19.4
	幸脇地区(n=9)	0.0	33.3	22.2	44.4
	美々津地区(n=26)	0.0	46.2	34.6	19.2
東郷地区(n=55)		5.5	41.8	27.3	25.5

問 47 障がいのある人に対する合理的配慮の理解を広げるために、どの取組が効果的だと思いますか。（3つまで複数回答）

障がいのある人に対する合理的配慮の理解を広げるために効果的な取組についてみると、「職場や学校での研修会」が45.5%と最も高く、次いで「障がい者団体や障がいのある人との地域社会での交流の機会」が38.8%、「パンフレットの配布などの広報活動」が35.4%となっています。

前回調査と比較すると、「パンフレットの配布などの広報活動」が6.7ポイント高くなっています。



－ 「その他」の回答 －

わからない（5）／学校教育（2）／障がいのある人でも過ごしやすい環境整備（2）／小・中学校の教師への教育／余裕をもてる社会にする／理解と現実の行動が別になっている可能性の対応／障がいの種類の周知。まず市役所職員が学ぶ／企業が障がいのある方への雇用を増やす／ボランティアを募り、講演会やイベントの開催／自らが身につけるもの／住民が助け合う温かい心をもっと持つ／取組む側の学習（現場だけでなく全員）／高齢者に対しての勉強会／テレビドラマ／社会への積極的な参画。民間より行政で直接雇用推進／障がいのある人がもっと積極的にお願いをしていける環境をつくる／車いすマークの駐車場に停める健常者が多すぎる

地域別にみると、細島地区、塩見地区、平岩地区では「パンフレットの配布などの広報活動」、美々津地区では「職場や学校での研修会」「パンフレットの配布などの広報活動」、東郷地区では「障がい者団体や障がいのある人との地域社会での交流の機会」、その他の地域では「職場や学校での研修会」が最も高くなっています。

単位：%		地域への出前講座や座談会	職場や学校での研修会	講演会やイベントの開催	障がい者団体や障がいのある人との地域社会での交流の機会	パンフレットの配布などの広報活動	その他	不明・無回答
全体 (n=738)		27.4	45.5	23.7	38.8	35.4	3.4	11.5
地域別	富高・新町地区 (n=120)	24.2	42.5	22.5	38.3	27.5	4.2	12.5
	日知屋地区 (n=58)	25.9	50.0	27.6	37.9	31.0	6.9	6.9
	日知屋東地区 (n=90)	32.2	51.1	26.7	33.3	40.0	3.3	10.0
	細島地区 (n=22)	18.2	31.8	9.1	22.7	36.4	0.0	31.8
	大王谷地区 (n=122)	28.7	54.9	29.5	50.8	33.6	2.5	4.1
	財光寺地区 (n=170)	25.3	50.0	25.3	41.8	39.4	1.8	7.6
	塩見地区 (n=31)	29.0	29.0	19.4	25.8	41.9	3.2	19.4
	平岩地区 (n=31)	29.0	35.5	25.8	32.3	38.7	6.5	9.7
	幸脇地区 (n=9)	11.1	33.3	11.1	44.4	55.6	11.1	22.2
	美々津地区 (n=26)	34.6	46.2	19.2	15.4	46.2	3.8	19.2
	東郷地区 (n=55)	30.9	27.3	10.9	38.2	29.1	3.6	27.3

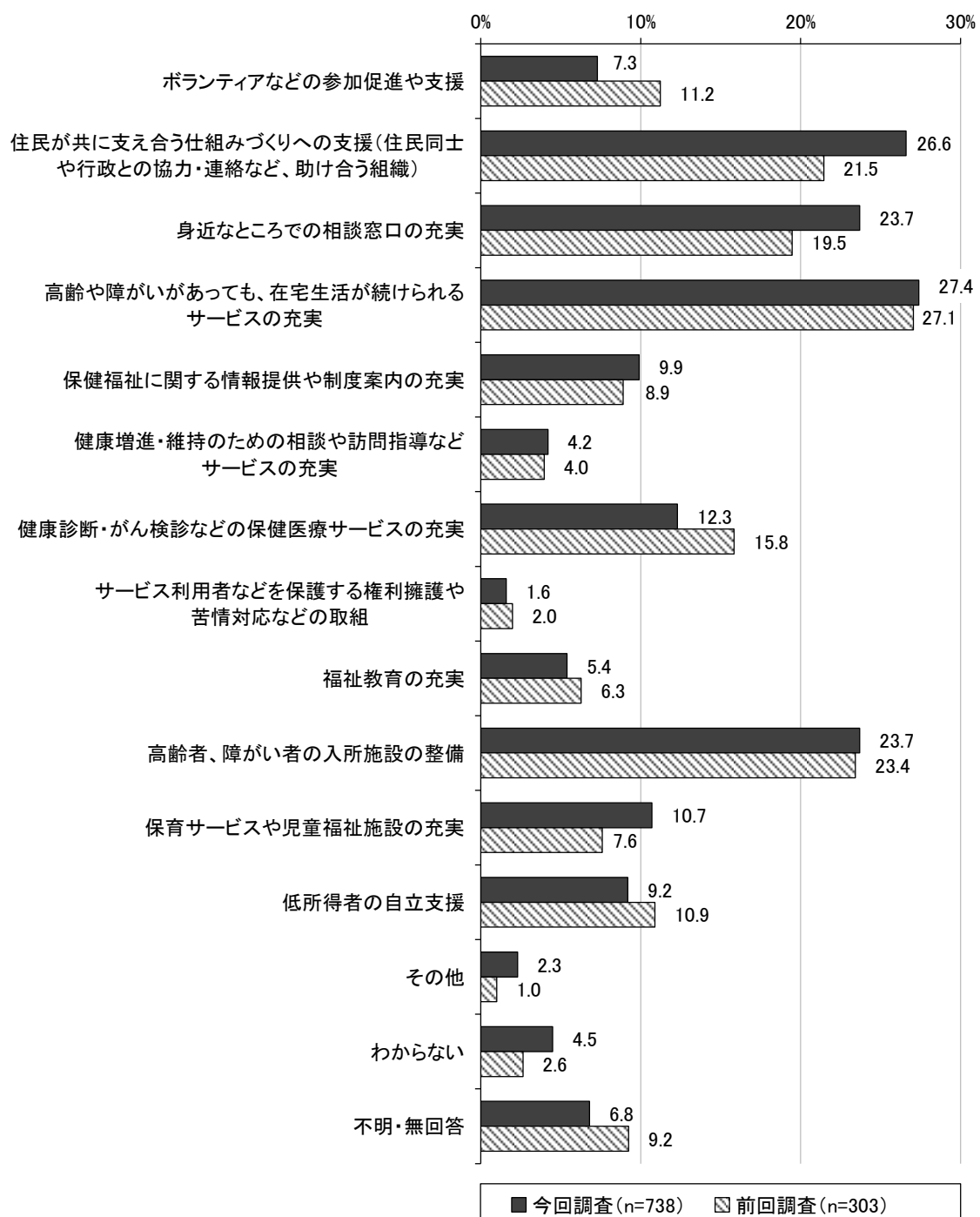
12 行政運営及び地域の福祉について

問 48 今後、市が取り組むべき施策は、どれを優先して充実すべきだと思いますか。

(2つまで複数回答)

優先して充実すべき市の施策についてみると、「高齢や障がいがあっても、在宅生活が続けられるサービスの充実」が27.4%と最も高く、次いで「住民が共に支え合う仕組みづくりへの支援（住民同士や行政との協力・連絡など、助け合う組織）」が26.6%、「身近なところでの相談窓口の充実」「高齢者、障がい者の入所施設の整備」が23.7%となっています。

前回調査と比較すると、「住民が共に支え合う仕組みづくりへの支援（住民同士や行政との協力・連絡など、助け合う組織）」が5.1ポイント高くなっています。



－ 「その他」の回答 －

地域経済の発展、人口の増加、予算の確保／就労している住民の賃金向上、日向市の魅力を上げて市外からの観光や移住によるお金が入ってくる仕組みへの取組み／格差の是正／市の税収アップにつながる企画・住民の所得向上につながる起業計画の作成／介護支援員の増員／住民が余裕を持って生活できる環境を作っていく事／親育ち教育（特に父親）／地域住民を利用したセミナー開催。異業種交流会等／職員を増やすことで声が届く体制にしていく／サポートする側のレベルアップ／低所得世帯の子どもの手当、保障、巨大スケボー場／南海トラフ巨大地震の対策／無駄を減らす／モラル意識向上のための取組み／育児するお母さん、お父さんのケア／市の相談にあたる人が問題点／障害者＝マイナスではない／民生委員が既存している

地域別にみると、日知屋地区、大王谷地区、塩見地区、平岩地区では「住民が共に支え合う仕組みづくりへの支援（住民同士や行政との協力・連絡など、助け合う組織）」、日知屋東地区では「身近なところでの相談窓口の充実」「高齢者、障がい者の入所施設の整備」、財光寺地区では「身近なところでの相談窓口の充実」、美々津地区では「高齢や障がいがあっても、在宅生活が続けられるサービスの充実」「高齢者、障がい者の入所施設の整備」、その他の地域では「高齢や障がいがあっても、在宅生活が続けられるサービスの充実」が最も高くなっています。

単位：％		ボランティアなどの参加促進や支援	住民が共に支え合う仕組みづくりへの支援（住民同士や行政との協力・連絡など、助け合う組織）	身近なところでの相談窓口の充実	高齢者や障がい者があっても、在宅生活が続けられるサービスの充実	保健福祉に関する情報提供や制度案内の充実	健康増進・維持のための相談や訪問指導などサービスの充実	健康診断・がん検診などの保健医療サービスの充実	サービス利用者などを保護する権利擁護や苦情対応などの取組	福祉教育の充実	高齢者、障がい者の入所施設の整備	保育サービスや児童福祉施設の充実	低所得者の自立支援
全体 (n=738)		7.3	26.6	23.7	27.4	9.9	4.2	12.3	1.6	5.4	23.7	10.7	9.2
地域別	富高・新町地区 (n=120)	8.3	27.5	20.8	28.3	9.2	4.2	6.7	0.8	5.8	24.2	11.7	9.2
	日知屋地区 (n=58)	5.2	29.3	25.9	27.6	13.8	8.6	8.6	0.0	0.0	24.1	8.6	3.4
	日知屋東地区 (n=90)	7.8	23.3	28.9	23.3	12.2	1.1	15.6	2.2	5.6	28.9	14.4	7.8
	細島地区 (n=22)	9.1	27.3	9.1	31.8	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	18.2	9.1	13.6
	大王谷地区 (n=122)	13.1	36.1	24.6	24.6	13.1	3.3	14.8	2.5	8.2	16.4	10.7	6.6
	財光寺地区 (n=170)	5.9	18.8	28.8	28.2	10.0	3.5	14.7	2.9	7.1	24.1	14.1	12.4
	塩見地区 (n=31)	3.2	35.5	19.4	22.6	3.2	3.2	6.5	3.2	0.0	32.3	3.2	12.9
	平岩地区 (n=31)	0.0	32.3	19.4	29.0	9.7	9.7	16.1	0.0	0.0	25.8	12.9	12.9
	幸脇地区 (n=9)	0.0	11.1	22.2	33.3	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1	22.2	11.1	0.0
	美々津地区 (n=26)	3.8	23.1	7.7	42.3	3.8	7.7	11.5	0.0	0.0	42.3	0.0	7.7
	東郷地区 (n=55)	7.3	27.3	18.2	29.1	7.3	5.5	12.7	0.0	7.3	18.2	3.6	9.1

単位：％		その他	わからない	不明・無回答
全体 (n=738)		2.3	4.5	6.8
地域別	富高・新町地区 (n=120)	3.3	4.2	9.2
	日知屋地区 (n=58)	6.9	8.6	5.2
	日知屋東地区 (n=90)	2.2	5.6	4.4
	細島地区 (n=22)	0.0	4.5	22.7
	大王谷地区 (n=122)	4.1	0.8	4.1
	財光寺地区 (n=170)	0.0	4.7	3.5
	塩見地区 (n=31)	3.2	9.7	6.5
	平岩地区 (n=31)	0.0	3.2	3.2
	幸脇地区 (n=9)	0.0	11.1	22.2
	美々津地区 (n=26)	0.0	3.8	15.4
	東郷地区 (n=55)	1.8	3.6	10.9

問 49 福祉の問題に限らず、あなたの地域のこういうところを良くすれば、地域がもっと住みやすくなるといった改善すべき点、または、生活環境や日常生活で困っていることなど、ささいなことでもかまいませんので、下の欄に箇条書きで簡単にお書きください。

公共交通機関の充実（高齢者の交通支援も含む）。（11）
ゴミ捨てのマナーが悪い。（10）
ない、わからない。（7）
街灯を増やしてほしい。（4）
病院がほしい。（2）
ずっと住み続けられる生活圏として日向市が成長しなくてはならない。学校を卒業して就職リタイア後の老後、ずっと住み続けていられる環境づくりができていないと地区、地域に根づいた様々な活動が出来ず、その地域が成長出来ない。
福祉従事者や各種地域安全ボランティアなどで活動している方々の功労を称えて表彰（市長賞、〇〇部長賞、感謝状など）を授与する機会が多くあれば、活動の励みになるのではないかな。
人間関係。思いやり。
日向市の社協で手話を教える人達の独特な圧があり、我慢したり、やめる人がいる。
サービスや制度に頼るのではなく、自分で自分の健康を維持する取り組み（運動施設など）を増やす。子どもの自転車利用の教育、ゴミ削減対策など。
住民の間の事など知らない事が多い。取り組みと通知の徹底を心がけてほしい。
年よりが少ない人数でも集まる場所が欲しい。交通（病院、買い物など）運転のできる人を利用した場合事故等の解決できる制度の確立（運転者の登録講習会等）。
国民年金受給の少ない人へ、毎年なにかしらの手当が出れば良いと思う。
健康寿命を伸ばす（運動不足、食事管理の推進）。
将来的にはテレビで日向市チャンネルを設け、読む情報より、見る情報にする事で隅々まで住民に情報を伝える。紙面による情報伝達は高齢者にとって読む事がおっくうで、結局知らないになってしまう。大量な資源の無駄と思う。
相談窓口の充実。
台風での水害で道路や土地の低い家は浸水する。そういった地域への区画整理を進めてほしい。
駐車スペースが狭く道路にはみ出して止めている車両がある。 マイナンバーカードによりもっと手続き（年金等や交付関係）が簡素化できないものか。 地域によって市職員が多い所はないか。
最近の困り事はゴミ出しマナーの悪さ。カラスもいるので荒らされて残飯などが雑然となり、ゴミの日が苦痛になる。ネットも備えてあるが・・・。班のゴミ当番も苦痛。
地域医療。
何処でもタバコの吸い殻やマスク等のゴミを平気で捨てて行くような人が多い状況で物を言うのも寂しい気がする。
50 年以上もくらしていると改めて身の回りの変わり様におどろく毎日。となりの人がだれか、

時々会ってもどこの人なのか、あいさつ一つなく出たり入ったりの貸し家ばかり、何とかならぬか。
公園清掃など月 1 あるけど班長になった人だけしか出てこない。ひどい時は毎月、1 人で草取りをするけど高齢（68 才）で持病があるのに義務感だけで行くけど、市は区に依頼せず市でやってほしい。
コロナに関して、県と国は良くやっているが市としては、あまり行動力が無いと思う。ほとんどと言って良い。
福祉に関する事では、自分が高齢者になった時、生きていけるのか心配。地域の雰囲気がいや（人の悪口。出る杭はうたれる感じ）。
これからが福祉が大事！
今までに築き上げられてきている社会の仕組み有識を一段と向上させること。ボランティアには限界があるので無理はさせないこと。
福祉と言うが障害があり入社しても個人情報と言いつつ、他者からバカにされ、仕事も出来るのにさせてもらえず、秘密にされてまともに働くことができない。差別は今もなおあり。
公園掃除について、ほとんど同じ人が毎月でている。高齢化も進んでいるので何か対策が必要だと思う。
要介護 4 の父がいる。今、老健施設に入所しているが長くは居れないと思う。これから先のため他の施設に何件か申し込みしているが、希望者が多いのでなかなか決まらない。入所しても 1 ヶ月の施設利用の金額も高い。もっと施設にも入りやすく、金銭面の援助があると助かる。
地域のコミュニケーションがない。同じ班の人とでのコミュニケーション持つようにすると良いと思う。
避難所の増設。高校生、大学生の支援（幼児等よりもお金がかかる）。
自治会(地区) の役員のなり手がいない。自己中心からの脱却、組織が希薄になる。共助の意識を高める工夫。隣近所が遠くなっている。難聴で障害があり、病院その他の施設で困ることが多い。対人関係も。
住民みんなが集えて楽しめる場所、笑える場所がほしい。今この時代だからこそ。
区長が市議の仕事をした方が住民の声がダイレクトに伝わると思う。富高地区の市議とは会ったことがないので声が届けにくい。
農家の担い手がいないので農地が荒れて行っている。市内で暮らす子どもが帰ってきて親と一緒に暮らせるような住宅へのリフォーム助成制度があったら良いと思う。
むずかしい。
障がい者などに対する保護は必要と思うが、生活保護を受けている人たちの中に車を持っていたり、朝からパチンコ店などに通っている人たちもいるということを知る。住民の中には少ない国民年金を受給しながら生活している方も多いのに・・・。何か不公平感を感じる。
財光寺地区には子供が遊べる公園などがとても少なく、散歩して行けるような公園があると親としてはありがたい。こういう時期だからこそ公園などで遊ばせたいが近場にない為、家で遊ぶことが多くなっている。
居住地区が農村とサラリーマンの入れ混じった地区で、生活のパターンが違い家畜のふんの匂いや時間の調整がつかなくて日頃から意見の違いが有り、皆が話をしない地区となつてし

まった。
問 48 の内容をみてわかるように、子育てに対する考えが少ない。お金の負担が多いと時間も仕事でとられ地域どうこの考えにならない。なぜ日向市は市税（その他の税）などをうまく使えないのかいつも話しに出る。
若い人達の地域活動への参加。
小中高校生の交通マナーをもっと考えて行動してほしい。ゴミ収集所のゴミの分別を住民の人にもっと知ってちゃんと分けて出してほしい（何曜日にどのゴミが出るのかを知ってほしい）。
発達障がいの専門医がおらず、延岡市や宮崎市などまで行かなければいけない。また、発達障がいがある子への理解が少ない。
街灯をたくさんつけてほしい。（2）
班を中心にして情報収集、普段からのつきあいを深める。今も結構できていると思う。
道路の舗装ができていない所が多く、子ども達の通学など散歩したりしていても歩きにくさを感じている！ほこりも多い。
ゴミの分別→特に大きいもの。
進行中の区画整理の早期完了（道路の舗装）。
区に入っているメリットがあまり分らない。
広報の配布が遅い。開催期日がすぎている事がある。月末までに次の月の広報配布を希望。地区区民である。
雨水などの排水が出来ずに困っている。
わずかな世帯数のうゑに夫婦だけ、又は1人住まいという現実がある。この事を改善する為には経済的（若い人の仕事）な事も必要では。
ゴミを細かく分別する。リサイクル率を上げたい。
日向は他市に比べて社会福祉、教育面は充実していると感じる。超高齢化社会を見据えて取り組みをよりアクティブに考えていく必要はあるかと思う。引きこもりニートに対する支援の充実も是非図っていただきたい。
無収入者への支援。年齢無制限の仕事の確保。施設（障害）作業者の賃金向上（ひと月8万円程に）。
高齢者や障がい者など一番手助けの必要な人達がアパート住まいなどで町内会に入っていない為、情報が少なく、支援が届かないような気がする。
自治体に参加したくない人（自分も含めて）もいると思うので、持ち家であれば加入するのが当たり前のような雰囲気、消防団に入らなければいけないような雰囲気はやめて頂きたい。必要最低限な挨拶・付き合いだけを望んでる世帯も、うちに限らずいると思うので、それぞれが負担にならないような、行事なども好きな方が参加すれば良い地域づくりをしてほしい。個人個人が住みやすく居心地の良い地域になれば、それがより良い日向市へとつながっていくと思う。密な近所付き合いを求める人は、それでいいと思う。
最近になり足が悪くなり自由に出かけることが出来なくなった。現在は主人と2人暮らしなのでどうにか生活できますが1人になったらと思うと先がこわくなる。これからは色々な面でお手伝いできる人に頼むことになると思うので福祉の事を勉強したい。
融資以外の生活回復の対策をお願いしたい。コロナ騒動の終了がなければ融資をうけること

ができたとしても返済計画を立てることができないので借金が増えるだけ。融資より価値が少しでも高いうちに売却し、他の自治体へ移るという判断をされる方々が増えていくように思う。「善意のベンチ」のような取り組みはとてもすばらしい。
ある企業に 500 坪の先祖代々の土地を騙しとられた上に告訴され現在裁判中である。畑をけずり取られ更地にした上で道もなく実行支配されている。
歩道にでこぼこが多過ぎる。これではベビーカーも車椅子もシニアカーも不便だと思う。公園遊具の老朽化。
ボランティアの潜在的資源はある。ケガした時の保険を福祉課等で責任をもち、ネットを通じて、○月○日（日）8:00～9:00 河川のゴミ拾いや、△月□日大王谷コミセン集合！○○地区の高齢者宅の電球替えなどの発信。
地域包括支援の不足を補う。
もっと地元公立学校の P R を計り地域の学校に通いやすい（通いたいと思う学校作り）環境を作って、若者が定着する様にしていく必要が有ると思う。
明かりが少なく夜暗い、さみしく感じる事がある。過剰な明かりは逆効果だが、明かりがあるだけで安心感があると思う。
花ヶ丘地区に公園がないので、公園を作って子どもたちが屋外で遊べるようにして欲しい。
障がいのある子が通える療育施設を充実してほしい。
生活の安定。そのためには企業誘致に力を注ぐ。行政に携わる人の地区別（都城、小林などとの）交流（転勤）をして相互に高め合う（特に心の交流を・・・）。
今、共働き世帯が多く、子どもの病気などで、どちらかが休みをとり生活している。通常保育では病児はみてくれない。市中心部にそういう場所がなおあると助かると思う。職場も、休みが出ると他のスタッフが大変になる。病児だけではない。軽い風邪などや処置（ケガや傷）のある高齢者の引き受けも少ないと思う。
近所の細い道路がきれいに整備されるとよい（かなりボコボコしている）。 市からの放送？（スピーカーでの）が聞こえづらい時がある。
スポーツランド（運動公園、スポーツ施設）が少ない。”お船出の湯”の再開をお願いしたい。
自家用車の路上駐車が多々見られるので定期的に警察官に見回りに来て欲しい。 野良猫が多いのでどうにかして欲しい。
専門職員の見回り等。
子どもがコミュニケーションとれて元気がある。高齢者がイベントで元気がある。子育てしやすい施設への整備。
地域内のコミュニケーション。
区への加入者が少ない。子どもが少ないのでイベント等がない。
隣人の一方的な暴言。自宅前のトラック通行が多い為、家や車の汚れがひどいこと（住宅地の狭い道路を通らず、近くの大きい道路を使ってほしい）。
道路整備（草木、下水道の整備）。
子どもを安全に遊ばせることのできる“場所”が欲しい。
班に入会しているが最近脱班する高齢者の方が増えている。班費も以前より下がったがどの

ような使われ方をしているのか、残額も不明。コロナ等で催事も少なくなっていると思われる。もっとみなさんにわかる使途をお願いしたい。地域で話し合うなど……。近所との付き合いがうすれているのが原因。
自分の生活を守る事がいっぱいやってきたが、若く他人にしてやれる時はいっぱいやってきたけど（だまされだまされ）年いき自分自身を守る事でいっぱい、心と生活にゆとりが欲しい。心にゆとりがあれば、ボランティアとか支援とか何にでも参加できる。今の自分には無理。
通学路の整備（舗装）を5年前からお願いしているが、いつまで経ってもやらないし、問い合わせでも開口一番は「予算」といって逃げる。平岩地区の児童クラブが無くて困っているにもかかわらず、市長はじめまったく相手にしてくれないと相談を受けた。日向を選んで移住してくれた方に申し訳なく思う。
給食費の口座振替をして欲しい。回覧板の配布物が本当に必要か精査して欲しい。
福祉の仕事をしていて退職したが、見てきて思う事は、障害者福祉は大分改善されてきている。高齢者福祉（年金収入だけでの生活者）に市としてはもう少し手助けをしてほしい。病院に行くお金がない年金者が一番かわいそう。年金かけてきたゆえに生活保護が受けられず、かけてこなかった人が生保を受け、病院に行って薬等要らない分までもらっている状況は本当に腹立たしくて仕方ない！
生活困窮者への支援と早期発見して、困っている人を助け合えば良いと思う。
現在はコロナ禍でなかなか実行できないが、隣保班に関係なく子どもを通じて近くの公園で何か家族ぐるみで楽しめる事を企画して、高齢者もそれに参加できて住んでる人皆で楽しめる事を計画してみても？育成会と協力して。
空家が最近多くなっているようだが、庭の木々が荒れ放題で木の葉が近所に散らかっている。家主さんに連絡もとれない状態だそうだが、市の方で解決できないか。
多数では困難ですが、2～3班に分けて、総会、避難の仕方、用意する物等、実際にやっていただきたい。
生活保護を受けている方々の見直しを考えて欲しい。安い賃金で働いている方より、良い生活をしているのはどうかと思う。色々な手口を使って受けている方がいる。
国道10号線の工事を早く進めてほしい（高齢ドライバーの逆走や迷走を良く見る為。危険）。
発信ツールが少ない。誰もが通う学校や職場で、発信をしていくと良いのかもしれない。どこの誰がどんな理由で困っているかを知らないので手の差し伸べようがない。本当に困っている人がいて助けてたい人がいて、それをどのように橋渡しするかの仕組み作りは難しいと思う。
老人会になかなか入らなくて、85才から上の人達ばかり。
全国的に車の運転に関して、高齢者の事故が多発しているということで、「〇〇歳になったら車の運転をしてはいけない」というルールを設けるのはどうか。
サーフィンだけではなく魚釣りでもPRしてほしい。
日向市財光寺から現在地に移り住んで丁度19年。環境的に全く不自由は感じていない。区費、その他区に納入する金額が東郷地区は高すぎる。財光寺地区の3倍である。年金生活者には負担が重すぎる。
国道327号線。特に塩見永田から東郷の切通しの峠まで改良出来ないだろうか。

カーブミラーの不足（交差点でのリスクが高い）。
近所同士の交流が減っているようで世代間交流を進める。高齢者が引きこもっているが増えない様。
自転車に乗っている時に段差などがあり走りづらい。
市は住民へ区に加入する重要性をPRして地域に関心を持つよう住民へPRしないといけない。地域に関心を持ち協力する区民となれるよう考えないといけないのでは？
自治会の回覧板だけで伝えるのではなく、もっと誰にでも同じ情報が届くようにする。
私は軽い発達障害があるが、日向市には発達障害者の団体や集まりがない（知らないだけかも）。そういった集まりがあれば、お互いに困り事や悩みの相談が出来ると思う。
人間性を育てる手立てがあるといいかと思っている。常に人を批判したり悪口を言うような心のささくれ立った人々が一定数いて、そのような人と関わる気になれない部分があるため、地域に出て行きにくいことがある。
コロナ禍での県外者に対してのワーケーション作りなど、とても良い事だとは思いますが、地元住民は生活しやすい状況なのか・・・ふと思う時がある。市税もかなり高額で大変な思いをされている方が沢山いる。よく、日向市の税金の事を耳にする事がある。きちんと解決方法を早目にされて住民の負担が減る事を願う。他から見られる日向市も大事だが、私達住民から見た日向市より良い住みやすい日向にしていってほしい。無駄を省き、生きたお金の使い方をしていただきたい。
日向市に住み始めて2,3ヶ月すぎの為、把握するのにまだ時間がかかると思うが、地域で避難訓練等（年2回位）実施するのも良いかと思う。福祉とは関係ないが、道路の白線（表示）が薄くなり見えにくいので、消えかかっている所を記入して欲しい。沢山あるのでチェックしてもらい、きれいに表示し直してほしい!!事故につながる。日向市全体（すごく多い）。
道路の舗装、歩道の整備。避難タワーを増やしてほしい。
相談やコミュニケーションをとれる場が大切。65歳以上の日知屋大学などよさそう（高齢者にとって）。自分は0歳児がいる為、支援センターを利用していこうと思っている。
職員の障害者に対する思いやり（もっと親身になってほしい）。庶民レベルの支援で良いから手厚くお願いしたい。職員のレベルUPをお願いしたい。
水時の側の墓地を利用しているが、カラスの害がひどくて線香たてなど何度も落とされて割れている。どうにかならないかと思う。フン害もしきみもひきぬかれるし・・・。
近所の人とは、あいさつをする程度だが、地域とのつながりを持てるようなイベントや活動などがあって欲しいような気もする。
自治会への加入促進。
日向市は市がトップなので、それぞれの区が機能して、どうしてもものに市に頼れるピラミッドが漠然とでなく、きちんと出来る様になること。
私の地域では高齢者に対して皆さん良くして下さる。いきいきサロンとかその他に加入していれば、お互いに声かけ合いもあり良いのでは。
近所にスーパー等がなく不便。
市役所の福祉課の窓口が奥で、大変そうにしていた。
地域の代表、福祉の代表、登下校時の交通安全路の確認（警察関係、消防署、PTAの安全

部・・・）。
路上駐車をなくすこと。子どもの遊び場の充実。お年寄りとのコミュニケーション。
コロナで民生委員の活動が出来ないので困っている人がいるのではと心配。
若者は地域との交流を避ける傾向が強い。子育て世代の方々が地区の行事に対して先頭になって動く事が昔に比べ少なくなっている。地域に目を向けてほしいと思う。
24 時間、ゴミを捨てられるところがほしい。
1 人暮らしの高齢者が年金暮らしだけで生活していけるのか不安。もっと地域での集まりを強化したほうがよい。子どもも楽しめる企画。
健康に若者も暮らせるよう、高齢者だけでなく若者も検診の無償化をしてほしい（他市町村では行っているところもあった）。
災害時の避難所（避難タワーや避難山はあるがもう少し高さが必要と思う）。特に、財光寺や日知屋など。
歩いて、又は自転車等で行ける範囲（少々時間がかかっても）に買い物の出来る場所があること。週に 1、2 回でも広場、コミュニティセンターを利用しての移動店等。
男女問わず生活に役立つ知識や職歴を持つ人、法律等の資格を持つ人、県を出ない限り持ち得ない見識を持つ人・・・。様々な住民に対して各人強みを活かして発信出来たら、もっと地域が活性すると思う。市が主体となるのではなく、住民が主体となる施策に期待する。
地域での交流・情報等が全く皆無。現在の場所に移転して 16 年ほど経過するが、以前暮らしていた所へ戻りたい心境。
若い世代の世帯者は職場、友人だけの会話しかできない人が多いように感じる。子どもの育成に不安がある。とにかく挨拶だけでも良いのにとと思う。
福祉に限らず心を育てる教育を充実する。人に癒しを与える動物（ペット）の保護活動の充実。
十分に住みやすい地域だと思う。
横断歩道の子連れで渡る際、なかなか止まってくれないので、登下校の時だけでも横断中の旗を持った人がいたら、とても助かる。
問の選択個数に制限があるのが理解できない。幾つもの考えを持つ人もいるのでは？ランキングではないので選択に制限を設けてはいけないのでは？
若者と高齢者との共通の楽しみになるようなイベント的な行事があるといい。
山間地であり、何事も移動するのは、車が必要。生活道の整備を早急に進めてもらいたい。
市道の拡充、拡張を。危険箇所の事業を。
ゴミ置き場まで遠い。道がせまい。
生活困窮者への支援（特に高齢者）。
日向市をもっとアピールしてほしい。体育館を早く造ってほしい。
亀崎東区に設置してある広報用屋外スピーカーが末端まで聞き取りにくいので屋外用のスピーカーの設置をお願いしたい。特に防災面での対応には欠かせないと考えている。
地域の方々と話しはしたいが皆さん仕事をされたり、高齢になると思う様に動けず（車移動なども）家族との電話が楽しみ。
子育てしているとどうしても行く場所が付き、困っている。もっと地域を活性化してほしい。例えば、公園の遊具や施設を作るなど。

スケボー場を作ってあげて欲しい。子どもの支援（特に低所得者）。シングルマザーの支援、幼児がいる世帯への支援。
高齢者がもっとバスを利用しやすい料金、時間を設定してほしい。病院にもタクシーでしか行けないとお金がかかる。補助資金（安くタクシーに乗れるなど）の制度があれば助かる。
自治会班に高齢者世帯が多く、この先も高齢化は進む。班は維持できるか。脱退すればゴミ出しや住みづらさが残るが、班長は何歳まで？不安。
不用品のポイ捨てをしないで欲しい。
地域が広過ぎるのも改善すべき事だと思う。いろんな行事があっても不参加が多く、班を抜ける人が多くなった。
カーブミラーを増やす。スクールゾーンに歩道を作る。
留守中に車庫の中の物が盗まれる。ハシゴ、スコップ、網戸、花器、庭の片隅に積み重ねていたブロック。隣近所の家が終わった後、気がつけば必ず物が無い（家の裏から出入り出来る）。現場を見ていないので相手に問う事が出来ず近所の方との交流は現在ない。交流をと思っても疑心暗鬼になる（最近も出入りしている）。
地域高齢化が進んでおり、活性がにぶるばかり。
各々が、目の前だけでなく、もう少し広い視野を持つ。個人それぞれ違う考えである事を受け入れる。
高齢化に伴い、小さな地域、隣保班でも班長の受け手が難しくなっている。
空き家をへらす。
正社員なのに賃金が低く、勤め続ければ上がっていくもののその額も低いのでどうしようもない。就職に少しでも有利になる様に進学したが、その際借りた奨学金の返済はまだ残っているし、生活の為に借りた他の借金の返済もある（自転車操業の様）。親の借金もあり、住宅ローンや税金等も滞納している。以上の様なことから、地域に目を向ける余裕がない。
若者の居つく町。
道路の幅が狭い。台風、大雨の時の浸水がある。
資源ゴミ出しがやがて不可能な身体状態になるはず。その時他人をわずらわせることなく、各戸に（希望すれば）集めに来てくれないものか（高齢、病気持ち1人暮らしの悩み）。
高齢者の場合、中々難しい事ですが、近隣の付き合い等がない状態でどう交われば良いのか解らなかった（私事）。待っているのではなく、その中に混ざると案外知らない人達との話しが出来る事があった。高齢になると限られた包囲でしか行動出来なくなるので、見回り訪問等で生活環境を知る。
通学路が交通量も多く、子どもの通学が心配。防災無線が放送されても聞き取りにくいので、スピーカーの設置場所を増やして欲しい。
夜中にドアの開け閉め。
子育て支援の充実。発達障害（診断はない場合も）の児童に対するトレーニング（ソーシャルスキルや理学的）などを受けられる施設が少なくて困った。
空き家に大変困っている。
今後高齢者は増えて来ると思うが、もっと外に出て行ける所が増えるといい。
自治会活動の無関心。

100 歳体操で週 1 回会うが、今はコロナで中止。みんなでする事が時々あると良い。
近所の方々に声掛けや挨拶を積極的に行うことで一人暮らしのお年寄りの孤独や孤独死、児童虐待を未然に防ぐことになるのではないかな？
地域でのイベントを皆が参加出来る物を行う。
地区における民家とアパート住人との差別感。区に入らない協力しない住人等。犬の散歩が多いが道路が狭く何処でも便、小をさせ知らないふりの人等。自分勝手が多い。何かいいアイデアが無いものか。指摘をされると腹を立てる人が多い。
コロナ禍で地区の集まり、子ども達の育成会が全くない。お互いを知る機会が失われ、近所や地区の方はもちろん、知らない人と関わることによる子ども達の成長する機会もなくなってしまっている。少しでもあるとありがたい。
災害避難経路の表示（少なくとも主要の避難場所への案内板設置。遠くからでも「あそこにある」とわかるような蛍光塗料のもの）。 ※災害時に外に出て誘導等声かけするボランティアの人をつくるなど。
地区の行事や清掃等に参加する人はいつも決まっていて地区全体の活動になっていない。小さい頃から参加する仕組みづくりが必要かと思う。地域と学校の連携等はとても重要と思う。
路上駐車が多い。大王谷学園下、子ども送迎の車があり迷惑なことがある。就学前児童が 1 人で公園に来ていることがあり心配になる。
地域住民の高齢化が進み、又今のコロナ禍の中で交流が出来ていないように思う。迷惑をかける生き方の工夫が必要になって来ると思う。
市役所の方の地域ボランティア結成（地元）。若者の定着化。
通院のため福祉タクシー（足が不自由の為）を使ったら民間のタクシー料金より高かった。近所の子どもをしかる母親の声が「罵声」の様に聞こえ、迷惑。多分入浴時だと思うが、虐待では？と思う様な子どもの泣き声が聞こえる。
共生。
自治会活動への強制的な参加の廃止（活動内容が不明）。
他人事と思っている私も気づけば年齢を重ねていて、まわりに少し興味をもたなければとも思うが、あまり魅力も感じない。学生の頃から少し地域の事に関心をもてばよかったのかなと思う。
役員の任期もある程度にして、足りないところを、みんなで支え合って順送りにし、育てて、育っていけば地域活動も苦になりにくく、連携がとれていく様な希望を持ちたい。
東郷にある中島美術館に行ける様なぷらっとバスをお願いしたい。車がないので灯油の配達制度を作ってほしい（電気料金の節約）。
現在私の地区では高齢者が多く又单身の方が何組もいる。行政の方々は各地区がどんな状況化があるのか調べる必要があるのではないかな。その上でアンケートでの答えも見えてくる様になると思う。
最近墓じまいが多く聞かれる。若い人がこの先管理出来ないという事。市側としてはスポーツ施設など力を入れて、お金を投じているが、市営納骨堂等作って住民であった証として敬意を表する。そう言った事も考えてもらいたい。この先人口減少の中、福祉アンケートもいいが、こういう問題も考えてはどうか。

犬を散歩中に、家の前で糞をさせて、そのままだったりペットボトルを捨ててあったりが時々ある。コロナが終息し、いつになったら普通の生活に戻るのだろうと思う。
福祉の拠点として、財光寺地区の公民館の建設の早期実現。市立図書館の充実を願う。
コロナが収束し地域の方が集まって話をする場を持つことが大事。
塩見川浴堤防を高くする or 川を深くする（津波対策）。
健康で楽しい余生を。近所の方々と仲良く暮らせたら幸せ。
人と人のつながり。
歩道の整備、新設。
全世帯が自治会に加入する。
暮らしも共にする部落の住民を、通りがかりに因縁をつけて警察に通報して我が者顔で文句を言う様な援助は絶対にすべきではない。
夫が仕事で帰りが遅く週末も仕事や趣味で、いないことが多く子育てをほぼ一人でやっているなので大変。
人口の減少に伴い、将来の地域像を想像しながら持続可能な地域にするために、今、どうすればよいかを考えていかなければいけないと思う。旧態依然とした区のあり方を見直し、若い人たちも参加できる（しやすい）コミュニティづくりを模索していくことが大事ではないか。
公民館内に、なんでも相談というか、はけ口みたいなサロンがあればいいと思う。そこから各担当場所へ改善要望として出していけば。
産婦人科が少ない。
障がい者等が気がねなく、はいれる店が少ないと思う（坂道の入口、せまい場所、車イスではせまい入口等）。これらを指導（店に対して）する人も、もう必要ではないのか？
田中精肉店の交差点の通路を広くしてほしい。10号線のコープを右折（10号線から）進入禁止にしてほしい。後方車両が急に止まる為危険。
小さな子どもが楽しく遊べる公園がすぐ近くにない。少し遠くの遊具の充実した公園に行きたくても、車を駐車するスペースがないところが多く、近くの公園だと遊具が古くなっているものが多い。また、産じょくヘルパーなどの産後すぐに頼れる機関があるといい。
子育て中だが、コロナ禍で外出もなかなかできず、親子共々、日々退屈している。早くコロナがおさまり元の生活に戻ってほしいと願うばかり。
車の運転マナーが最悪。犬のフンは持ち帰ってほしい。レジの列は詰められても順番は変わらない。外国人に冷たすぎる。物価も賃金も安いのに外食は高い。
若い人が中々班に加入しない。
となり近所の人が声かけしてくれて助かっている。
公園があると良い。隣近所（隣保班）での花見とかBBQとか小さな行事等をしてコミュニケーションを日頃からはかる。
各地区の公民館活動を充実させ、コミュニケーションの場を多く持つことが地域活性化につながると思う。
津波が怖い。周りに大きな建物もなく避難塔も低くて怖い。家を建てたばかりだけど、引っ越しを考えている。

今はとなりの人との付き合いがない。年をとると足も悪くなるし、付き合いがない事が淋しい。
高齢者の住む家までゴミ収集車が回ってくれたら有り難い。凸凹の道路があって危険だと思うところがあるので舗装してほしい。
子育ての充実。子どもが増えないと日向市の人口増は難しいし、経済はまわらない。小、中、給食無償化。
地区、子ども会などの“会”が苦痛。（引き継ぎなどの）マニュアル等あるのなら、まだいいが、人前に出るのも苦手な人もいるのに、この班長や“長”の制度はきついと思う。子どもを育てていくのも（その部分だけ）苦痛を感じる。会に参加してるのが母親ばかりなのも納得できない。子どもをつれての会もむずかしい。預けて行くのもむずかしい場合の夜の“会”は必要なのか？毎年人も変わるので、毎年2月～4月はいやになる。
すでに自分は老人ホームにいる為、残っている精神的病気のある子どもが心配。住宅の手入れができていない。
建前上ではなく、助け合いの心を持つ。
過疎化地域の空き家が増えているのに他人に貸したくないから、そのままにしている方が多い。移住したい人も多いので、どうにかして空き家バンクとか作って欲しい。地域に人が増えれば地域がうるおうのに……。自分としては田舎に戻りたい。

問 50 その他ご意見、ご要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

住民一人ひとりがもっと日常の事、たとえばチリ出しのルールなど守ってほしい。又家庭内での話し合い、学校での道徳の時間が多くなれば、今後福祉事業にも前進していくのでは。
日向に来る前は延岡にいた。延岡では社会事務所から週に1度見えて夕方7時30分～9時迄地域に付いてのお話があった。
あと2年半で定年になりますが、年寄りの母親を抱えていて、介護の不安や施設があるかどうか、心配している。有料の老人ホームより年金でまかなえる施設を増やしてほしい。
75才以上のコーラスグループの設立。勉強会、講演会、旅行等の開催。
運動を通じての健康管理、コミュニケーション作りに力を入れていただきたい。
私の住んでいる地区は台風でよく水が上がり大変。近所には80代の高齢者が夫婦だけで住んでいる。仕事で家にいない時は、様子がわからないので心配になる。こういった方々への災害時の避難できる支援をお願いしたい。多分、自力では避難できないと思うので。
家族が障がい者となり何度も市役所へ行き各課をまわり、いろいろな申請をし、何度も住所氏名を書き・・・という事に労力を費やした。各課丁寧に対応してくださったが、もっと各課紐づけして簡素化できないか？
暮らしが豊かになった見返りが人の生活に最も大事な近隣とのつながりを遠くさせてしまったのか？昔はもっと物がなくても豊かな暮らしができていたと思う。
近所どころか、親子、家族のつながりさえおかしくなっている今日。学校帰りの子どもにさえ声をかけてはいけないとか、知らない人にあいさつをしてはいけないなど、これでいいのだろうか・・・。
民生委員はどんな仕事か。以前の委員さんはほとんど毎日回って来て下さっていたが、ここ数年私達の時代後半の家族さえ1度も来ていない。回りの独居者宅さえ・・・。委員さんの顔さえ知らない人がたくさん居る(地区内)。地域の高齢者の現状をどれほど分かっているのか。
民生委員が誰かもわからないし、なんの通知もないので、どんな事をしているのか不明。
自治会で市から委託されている、ごみ減量化推進員に任命され17年間(区長6人交替)になる。ごみを見ていると世の中の移り変わりが少々見える時がある。もっと住民1人1人がごみに問題意識を持って欲しい。
行政がお金をかけて色々したところで、住民にはそれが届いていない。生活保護者がギャンブルをしていても調べず、市議というだけで権力をふるい何もしない。見下しバカにする。行政が何かしても住民はありがたいと思えないし、差別もまだあることすら知ってか知らずか・・・防災無線も聞きとれず、いざとなったら死んでしまう。
障がい者(子ども)を育てる上で、親同士の希望する人が集まって、悩みを相談し合える機会があれば良かったと思う。
自然災害が起きた時、どこに避難したら良いか分からない。マップなどの配布があると良い。
今回、家族がコロナ濃厚接触者扱いとなり(結果は陰性)陽性患者にはレトルト食品等の手当があったと聞いた。私達家族には何もない。慌てて買出しに行って相当な出費になった。不公平だ。

思いきって「老後は暖かくくらしやすい日向市へ」とアピールし、いろいろな取り組みを考えていくといいのでは。「シルバータウン」となるかも知れませんが。そこには若い人たちの意見や活動する場、職場ももちろん必要になるし、いろいろなメリットも多くなると思う。
子どもを持つ世帯にもっと協力的な地域、市であって欲しい。
優先が年を重ねている人になりすぎている。“そこじゃない”という内容が多い。子育てしにくい。コロナの情報が少ない。延岡の方がわかりやすい。
無料で遊べる場所が増えてほしい。コインパーキングなどの駐車場がほしい。
時代の流れか。昔は集落に1人は相談できる人物がいたのだが、子どもの頃が懐かしい。
高齢者のぷらっとバス、無料か月500円位？
まず、子どもたちや障がい者が幸せで暮らせる日向市になってほしい。障がい者と一般の人の垣根が無いようになってほしい。
横文字カタカナ語が多く解しがたい（このアンケートに限らず）。日本語を使ってほしい切望。
我家は介護生活3年目。1ヶ月まるまる介護しているとお互いに高齢なのでショートステイを月2回程利用しているが、コロナ禍で預けるたびにPCR検査が以前は15000円でしたが現在でも10000円（毎回）かかり負担が大きく大変。宮崎・延岡など無料のPCR検査があるが、日向市はなぜ出来ないのか？預ける場所でも違うようだが……。そういう施設への指導はできない物なのか？
難しいと思うが、生保受給の方の審査の改善、受給資格の見直し等が必要かと。以前に比べ生保受給を恥と思わず、もらえる物なら何でも……。特に子どもの収入が良くても世帯分離して親の施設入所を機に生保申請等がやたら目につく。先々が心配。
誰もが金銭面で困る事のないような政策作りを進め、例え1つでも住民の声を拾える社会体制の確立を求めたい。もっと幅広い意見を着実に全てに反映させるべきだと思う。
地区の消防団には市から活動費が出ていて完全なボランティアでは無いはずなのに、寄付を募ってくるのはなぜか？団員の飲み会代にでも充てているのか？市の方からも確認して頂き、そのような寄付活動（しかも500円からと言われた）はやめさせてほしい。地区の安全の為に働いてるのだから……。という払わなければならないような圧を感じる。
人間は若い時から体に気を付けてしっかりと生活して行くべきだと思う。自分ではそのつもりで生きて来たが思わないことも起こる。その時の為に安心できる社会であって欲しい。
保護猫ボランティアで活動されている方々の疲弊が大きいと思う。保護猫活動は地域の生活環境の向上につながり子どもたちの情操教育の役に立つと考えている。日向市の評価につながる活動だと思う。観光産業にとっても利のある活動では。杜の猫さんたちの活動を見学させていただいた。地域福祉活動につながると思う。
地域の山々は限りなく削り取られ、自然環境は変わり果てた。港は泥水が流れ込みヘドロがたまり、生コンの汚水で船舶のプロペラは数日でセメントがはりついてとれない。
色々な支援を市が提供しているとしても、その支援事業を知らなければ利用できない現状があると思う。福祉事業所等を集め学習会などしてくれると知識や情報が広がっていくと思う。
日向に住むようになり2年になるが、どんな活動をしているかボランティア活動、日向と言えば＜良い所、良い場所、美味しい物＞分からない。どの様に情報を入れたらいいのか分からない。

（個人情報保護があり）難しい面が多いと思うが、社協や福祉課がマッチングできるシステムをネットでつくってみては。依頼者：買い物に行ってきたほしい⇔何かやってみたい人：情報入手、ボランティア（犯罪の可能性もある。身元をはっきりさせて登録）。
今の時代にあった地域福祉のあり方を見直すべき。自治区は時代に沿わなくなっている。 1. 福祉の支援が必要な方ほど、情報取得、支援等知識に乏しい 2. 福祉の支援が必要な方ほど、社会的つながりが薄い or 避けている 3. 福祉の支援が必要な方のつながりとして大きいものは学校（子）と会社（勤務先） ☆支援の情報発信はここからすべき！ ・学校でプリントを持たせる（支援の） ・会社へ配布→会社から従業員へ
○「共助」は敷居が高い（双方ともに）。 ・昭和とは違い今はプライバシー重視の時代だから福祉のあり方（アプローチ）を見直すべき ・自治区（近隣）でのつながりは近すぎて、わずらわしくなる（マンツーマンになりやすい） 近隣での顔の見える支援は依存しやすい（されやすい） 間接的な支援。「公助」へのボランティアへなら気軽に参加しやすい。都会から田舎に移住した人が、近所づきあいのわずらわしさで去るという話は良く聞く事で「つながり」を強制される環境は「住み易さ」に反してしまう。行政では負担しきれない分をNPOなど住民団体活動に頼り、その活動への参加の発信を行政からしてもらえれば「信頼」が生まれる。
町村合併で市の末端に位置し、美郷地区よりも行政支援・生活支援が低下している。区に可能な限り権限を移譲し、独自運営を推進する。
若者が定着したいと思うような環境作りや働く職場の提供（会社誘致を積極的実施する）を行う。
地域福祉活動がどんな事を行っているのか知る機会がなかった。知る機会が増えれば興味を持つ人が増えると思う。日向市がもっと良い所になると良いと思う。
空屋が多い。環境に悪い。
地域福祉や共生に対して、私も含め子育て世代の親の意識改革が急務だと感じる。しかし現実には、コロナ禍で人が集まること（ワークショップ等）が難しく、また、多くの家庭が共働き、ひとり親であることなどから、時間的、精神的な余裕がないのが実情ではないか。行政には、今、支援が必要な人達を見つけ出し、一人ひとりに合った福祉を考えて欲しいと思っている。
学校の施設、整備等を地区住民にもっと開放して利用できると良いと思う。市職員、議会議員（何やってるのかわからない）等の市内巡回による市内の実態調査。
班に入会していますが最近脱班する高齢者の方が増えています。班費も以前より下がりましたがどのような使われ方をしているのか、残額も不明です。コロナ等で催事も少なくなっていると思われます。もっとみなさんにわかる使途をお願いします。地域で話し合うなど……。近所との付き合いがうすれているのが原因ですが……。 （問 49 再掲）
支援とかボランティアとかにお世話にならないように頑張って生活をしなければいけない年になっている。迷惑をかけないように頑張るので、他の人に日向市の発展、地域福祉の為に頑張ってくださいことを希望する。

こんないい環境の多い日向の良さをほったらかしにしてもったいなく思う。ワーケーションなど県外者の移住を積極的にした方がいいと思う。延岡市と日向市長が企業誘致の事で喧嘩していると聞いた。もっと心を広く持った方がいいと思う。
市の緊急連絡が家の中にいると、まったく聞こえない。塩見地区には家の中にラジオレコーダーみたいなのがあって、そこから情報が入っている。全家庭にあったらいいと思う。
問 37 の生活支援への支援→生活困窮者を出さないようにする事が最優先では？
楽しい職場作りと求職者への充実。
福祉が充実した優しい街、日向市！他のところから注目されるようなすばらしい街にできたら最高だと思う。
子どもを気軽に預けられる施設や制度がまだまだ少ない。
選挙用紙、名前を書いているものに丸印を押すだけにする。字が書けない人や間違いをなくすために。お年寄りの方のためにどうでしょうか？
コロナ禍ではあるが、高齢者や障がい者と交流できる機会を設けてほしい。
問 37 について。仕事を選ばず働いてほしい。支援は不必要。
3 回目コロナワクチン接種も大規模会場を設けてほしい。
電灯が少ない。暗い。
今年は成人式があったが、昨年の子供達達はコロナで中止、中止となりましたが、何もしてあげられないのか。
公園に設置している防災スピーカーはほとんど家の内では聞けない。市からラインで来る情報もわかり易く考えて見直して欲しい。各戸へ有線スピーカー設置が必要では。高齢なので。
地域の事で相談の電話をしても、はっきりした答え等が返って来なかったのもう少し詳しく分かる人が対応して欲しい。
今回、答えてみて、知らない事ばかりだったので、情報をもっと提供して頂きたいと思った。
高齢者や障がい者の介護や世話などは、現在関わりがないのが突然当事者になるものだと思うし、そうなる初めて問題意識が生まれるものなのだろうと思う。なので、このようなアンケートで当事者の意見を吸い上げてもらえるのはとてもいいことだと思う。
延岡の市長さんとか見ると、自ら動いて色々発信されてるように思う。よく聞くのが日向市長の動き、住民に対しての思いがよくわからない。キャンプで一軍を呼ぶための小倉が浜運動公園の整備もいいが、住民に寄りそった動きをもっとしていただきたい。
このアンケート調査をふまえた結果・改善策が決まれば市報などで知りたい。
職場や地元付近、これまでの繋がりも多く不安はなく、不満もないものの、住居地の本当の近所の人達とは繋がりが無いと改めて感じた。
グリーンパークの芝生の部分、犬もOKにしてほしい。市が保有している土地に市が経営する公園（ドッグラン含む）を作してほしい。
財光寺地区は避難場所が多く、日知屋地区は少ない。道路脇の花壇に犬の（フン、シッコ）が臭い。でも掃除しないといけない為ペット税で補って？（ペット税の条例を作る様に）（道路標識が折れる）。
コロナが大変な時に福祉を行うことは色々大変だと思う。班に入っていない為、市報とか自分で取りに行かないと見れない。この地域は子ども（学生）が居ない所は班に入っていない

人が多い。だから、色々な事を知らない人が多いと思う（私を含めて）。
もし福祉にお世話になる事になったら最低限のサービスを受けたいと思っている。
区に加入していない方々もあたり前にゴミを処分している。それは一人ひとりの自覚がないからだと思う。もちろん区費で困る方もいると思うが、みんな加入すればかなり負担が減るのではないかな。
問 22 について。多忙すぎる。民生委員だけでは荷が重い。
コロナまん延の為、何も出来ません（外の交流）。
住み始めて5年も経っていないこともあり、まだ日向について知らない事が多い。食事スポットや観光スポットなど、たくさん発信してほしいと感じている。
市役所の方々の対応がいつも素晴らしい。これだけをもってしても日向市民として胸を張れる事だと思う。
問 37 について。そもそも生活困窮者への支援は必要ない。自立した社会貢献している者が搾取されるべきではない。相互扶助の上に社会が成り立っているとは言え、テイクがないのにギブばかりでは頑張るだけムダ。
浅はかですが私にとって福祉とは手帳の期間ごとの再取得だけと思っていた。
34 年間、小、中、高、一般のスポーツ指導をしてきた。今はスポーツ指導者が減っていると聞く。長期間専門指導できる人を養成する機関はあってほしい。
ボランティア活動について、経済的に余裕があり、時間もあり、豊かな方々が楽しく行っているイメージがある。身につけている物も良い物と思われることもある。世の中とのコミュニティが薄い人には、受け入れるのにハードルが高いと思う。
長く生き、長く住めばその分困り事もある。それをひとつひとつ解決するのはムリなこと。地域のつながりがなくても充実した日々が送れるか。それはメンタルの強さだと思う。小さい頃から苦しい体験をして身体的に強くなっていく教育。手取り足取り痒いところに手が届くような支援はやりすぎると人を宛てにして、思うようなサポートを受けれないと人のせいにするような人間になると思う。軽度ではあるが制限の体ではあるが人位の心を持ってどう過ごせば良いか考える日々。
私はまだ 50 代。元気の良い高齢者、自分に甘えず出来る事があれば頑張ってもらいたい。あなた方が 50 代の時どんな生活をしていたか？旅行にも行けていたか？仕事もやれていたか？動ける体があるなら予防もしてほしい。妊婦や幼い子どもを連れた人も一緒。医師から制限を受けていなければ少し頑張してほしい。自分自身や自分の大切な人が障がいを持ってしまうたら。人生の途中で障がいを持つというのは、受け入れるのに大変なエネルギーが要る。
子ども食堂について。本来の目的は経済的に厳しい家庭、ひとり親家庭又は祖父母の家庭の居場所作りや見守りや食事のサポートだったと聞いている。イベントのように賑やかに行えば、行きたくても行けない子どもやその家庭があるのではないかなと思う。コミュニケーションの場は別に作れば良いと思う。
女子トイレのように、オムツ替えの所に忘れた時用にオムツを置いておいてもらえると助かる。
福祉に関するイベントの実施と広報をより充実させ、住民にまず関心を持ってもらう事が大切。
免許返納した高齢者の交通の手段として、ぷらっとバスの利用をもっと促して欲しい。乗車賃の補助（割引）などがあると魅力的かなと思う。そういうのがあれば、親に「返納してくれ」

と言い易いのだが。
日向市に他県からも人が集まる商業施設等を誘致して、地域が元気になる様な市にしてほしい。
地域と学校との連携面で亀崎東区では防災上一次避難所が寺の上公園になっていて、二次避難は大王谷小学校になっているが、移動する時にフェンスにカギがかかっているため、移動には困難が予想される。避難がスムーズできるように対応策をお願いしたい。
今は年に1回市役所に行くか行かないか位だが、対応が丁寧でわかりやすい説明など感じが良く、嫌な気持ちになった事がない。このままの日向市役所であってほしい。
一人暮らしになると体調不良になると心配。子どもも遠方にいたり親しくしていても、その時の事情で思うようにいかない事もあるのではと思う。
福祉の仕事も大変だろうと思う。現在の若者の賃金アップを強く願っている。若い人の目的につながる事だと思う。
ペットの飼い方特に猫を飼っている所での指導と、ごみ出し分別。地区には環境整備部の係もいる。
私は父が戦死し母子家庭で育って70年以上。常に福祉政策を推進する方達に感謝している。また、家族が脳内出血で2回の手術で重度障害者となり、重ねてお世話になっている。また、私も高齢者。何時お世話になるか心配。
日向市はいわゆる道路の凹凸が多く、下水道も進んでいない。
グリーンパークは普通の靴でサッカーとかラグビーの練習をさせてもらいたい（スパイクは絶対ダメ）。サンドームを使用したいが野球ばかりに特化しないでほしい。簡素化！使用者に責任もたせて年に3～4回大規模な清掃をさせる。
道路が狭いので小学生の通学時の交通事故等が心配。台風、大雨の浸水時の排水対策等取組んでもらいたい。床下・床上浸水にならない様な対策を要望したい。
市より防災グッズ、コロナ感染対策グッズ（マスク、消毒液、ハンドソープ等）配布して欲しい。成人式がコロナで中止になった場合、金券等贈り、家族でお祝いができるようにして欲しい。節目の行事なので思い出に残るような対応を。
日向市に遊ぶ場所がない。芸能人が来ない。
このアンケートに回答しながら自分自身の福祉全般に対する知識の無さを痛感した。今後関係箇所へ足を運び、パンフレットや話を伺う事で理解を深める事から始めたいと思う。
アンケートを受けて自分が福祉について知らない事が多い事を実感した。もっと関心をもっていかなければと思った。
地域の消防団の方達の活動に大変だろうなあと思い感謝している。本人と家族の方も大変だと思う。もう少し活動費等を増やしてあげるとかしたらどうか？
近所の人に会うのもゴミ出しの日。なかなか会う事がない。皆様に親切にさせていただいて助かっている。
知らない事が多いが、何か協力できる事があれば話を聞く意志はあるので、まずは広報の充実が必要かと思う。
日向市は県内の住みたくなる町で上位とのこと。名実共に住みたくなる町にするために、自分にできることを小さな事からやっていきたいと思っている。
福祉に対する姿勢は何をとっても耳ざわりが良いが、その為の財源等を確保安定化させる為

に市として無駄を無くしたり、まず職員の働き方等を見直す事が一番と思う。民間は何事もきびしい。
自治会に入っていない住民が増えているとの事だが、市の広報紙や社協の会報等、住民全てに届く様にしてほしい。身体不自由の方など外出困難な人も多いと思う。
うちは区に入っているので、月イチの回覧板や各種広報や新聞等で情報が分かるが、まわりの30～40代の夫婦のいる世帯はほぼ区に入っていない。入って欲しいと思うが声をかけづらい。
コロナ禍で、集会、イベント等中止になり、地域の人達ともふれあいの機会がなくなって来た。コロナ禍が早く収束してほしい。
お知らせ、案内ばかりでなく、今回のアンケートで判断に困る内容もあった。目立たなくても、物事が上手にいった事例などの、お知らせなどがあれば、解りやすいかもしれない。
問 37 について。市の責任で、土地、建物を担保にして借入が出来る様な制度をつくってほしい。
現在、私の地区では高齢者が多く又单身の方が何組もいる。自分も高齢だが子どもが同居しているので、心にも少しはゆとりがある。各地区事に現状を確実に調べる必要があるのではないか。
市役所の仕事も大変だと思うけど、家庭のこともできるような労働環境にしてもらえると嬉しい（帰宅時間や週末は仕事に行かず休めるなど・・・）。
住所が「～大字日知屋〇〇〇〇番地」といった町名のない住所を改善し、区割または新しい町名などにしてほしい。これは行政の仕事。1万何千何番地なんていう住所が市レベルでこんなにたくさんあるのは日向市だけではないか。地域、同じ地域に住んでいるという共有感が持てない原因にもなっていると思う。
子どもは国の宝物。子どもの出産、育児は行政がもっと力を入れてもらいたい。
主人は頸椎損傷で、泌尿科でパラクの交換、皮膚科で床ずれの治療、整形外科と通院している。ベッドから車椅子の移動、トイレに行く時もリフトを使用しているので福祉タクシーを利用しているが、12月～3月までの割引券がない。患者さんによっては残ると言われる方も居るそう。そのあたり調整できないか。
昨年10月、直腸癌の全摘出手術を受け12月障害者手帳の交付を受け、福祉のお世話を受ける事になった。病院、医師、市役所の福祉課の職員の親切な対応助言に感謝している。
ゴミが散らかっていたり、分別を守らず不法投棄などよく見かける。袋を有料化するなどシステムを変えた方が良いのではないかな？
私の住んでいる地区には公園がないので、子どもと遊べる公園をつくっていただきたい。
国民年金6万で生活しているが、どう思うか？国民年金の人、皆が話すのは年金が1ヶ月6万では食べていけない。市として何か方法はないか。生活保護を受けた方が良いと話している。
うちには発達障害の娘がいる（未就学児）。そういう子達が受けられるサービス、施設が日向市には少なすぎる。専門の先生や、場所がない、保育園も健常者と一緒に通える所もない。健常者と障がい児が関わる事が少なくて町中などで不安な目や接し方が分からず困っている人が多い。その子にとっても周りの人にとっても沢山交流の場を作るべき。
どこに相談していいのかわからないのでこちらに書くが、ほぼ毎日夜中の12時過ぎに学校のチャイムのような音がする。目が覚めてしまうのでやめてほしい。

近い将来自分もひとり暮らしになると思うと頼れる場所が必要。65 歳独身、父 90 母 85、不安しかない生活に少しでも頼れる日向市に期待する。
回答が大変だった。（4）
アンケートの内容が難しかった。（3）
コロナについてのアンケートも加えてほしかった。
アンケート、ランダムに 2000 人選んだとあったが、仕事や家事などで大変忙しいのに、このようなアンケートを送付され迷惑している。ランダムに選ぶのではなく暇な方へ送付を願う。送付されたら番号が書いてあるので返送しなければならないという気持ちになる。本当に迷惑。
「日向市地域福祉計画」について知識のない人にこのアンケートを送る事に意味があるのか？有識者や現場に近い方々のご意見を参考にされては？
質問等がこれはこれと同じになるんじゃないかと思う部分が多々あるように思える。
色々と知る、きっかけとなった。
この意見・要望が少しでも役に立ってほしい。（3）
福祉のお仕事に携わっている方々には頭が下がる。（2）
大変だが頑張ってほしい。（11）
全ての人が安心安全に暮らせる町作りをお願いしたい。

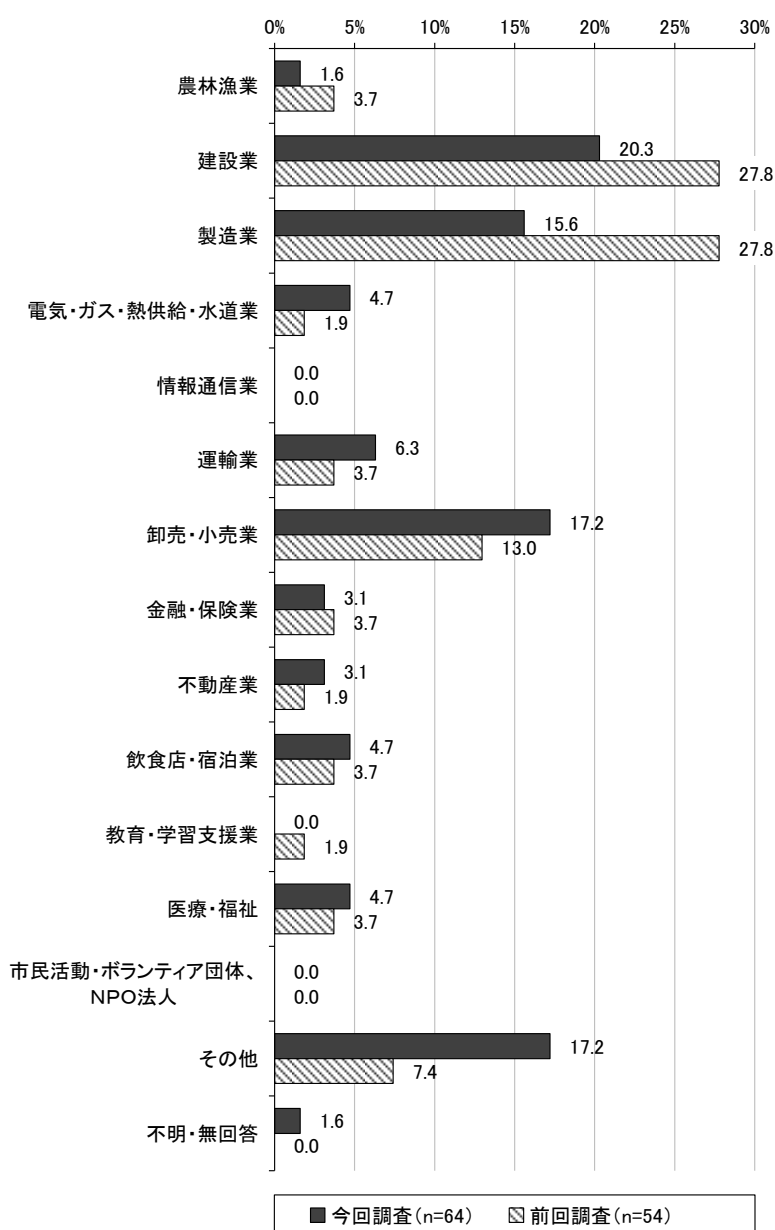
Ⅲ 事業所アンケート調査結果

Ⅰ 貴団体・事業所の概要について

問１ 貴団体・事業所の主たる業種についてお答えください。（単数回答）

主たる業種についてみると、「建設業」が20.3%と最も高く、次いで「卸売・小売業」が17.2%、「製造業」が15.6%となっています。

前回調査と比較すると、「建設業」が7.5ポイント、「製造業」が12.2ポイント低く、「その他」が9.8ポイント高くなっています。



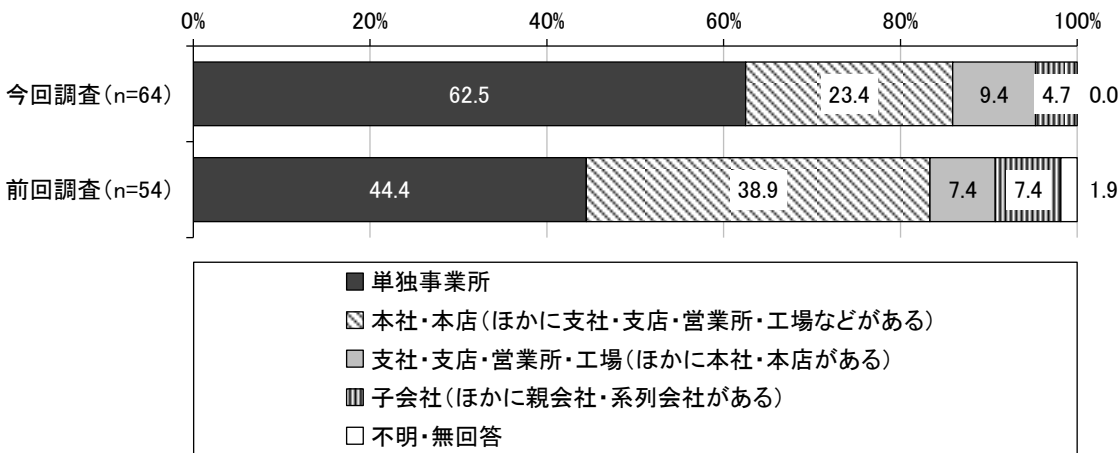
－ 「その他」の回答 －

廃棄物処理業／廃棄物収集運搬業／自動車整備業／生活サービス、清掃／クレーンリース業／ソフトウェア開発／コンピュータ関連／測量／サービス業／技術の提供

問2 貴団体・事業所の形態についてお答えください。(単数回答)

団体・事業所の形態についてみると、「単独事業所」が62.5%と最も高く、次いで「本社・本店（ほかに支社・支店・営業所・工場などがある）」が23.4%、「支社・支店・営業所・工場（ほかに本社・本店がある）」が9.4%となっています。

前回調査と比較すると、「単独事業所」が18.1ポイント高くなっています。

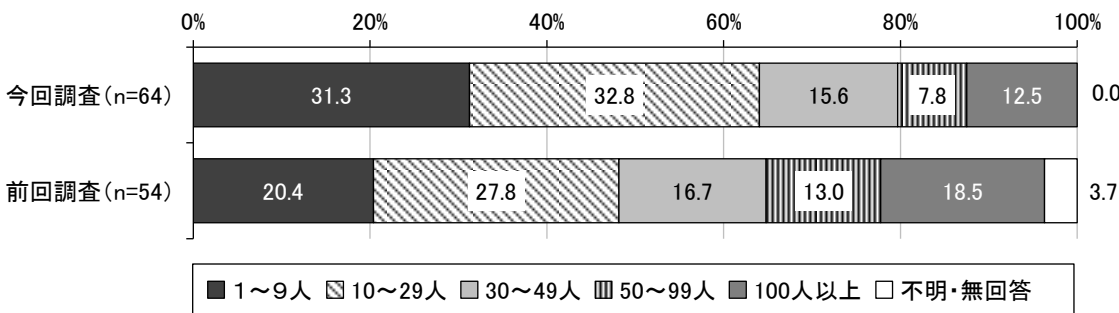


問3 貴団体・事業所の従業員数についてお答えください。(単数回答)

全従業員数についてみると、「10～29人」が32.8%と最も高く、次いで「1～9人」が31.3%、「30～49人」が15.6%となっています。

前回調査と比較すると、「1～9人」が10.9ポイント高くなっています。

(1)全従業員数



うち障がい者

単位:人		0人	1～9人	10人以上
従業員数	1～9人(n=20)	17	3	0
	10～29人(n=21)	21	0	0
	30～49人(n=10)	7	3	0
	50～99人(n=5)	2	3	0
	100人以上(n=8)	0	7	1

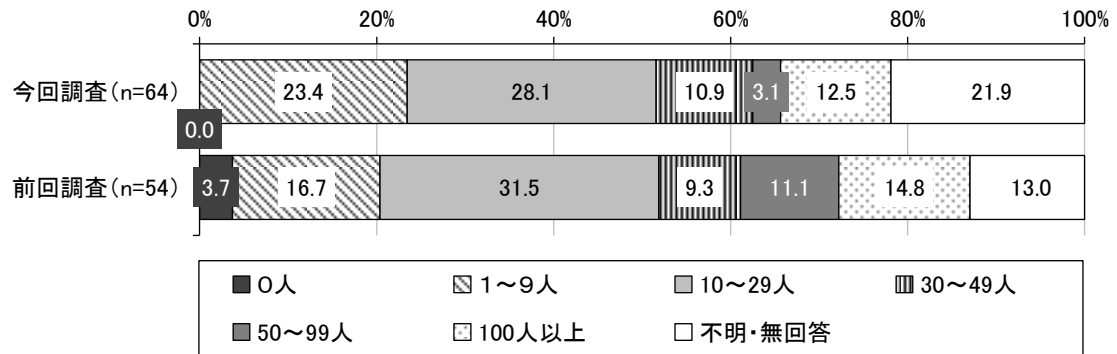
うち60歳以上の方

単位:人		0人	1～9人	10～49人	50人以上
従業員数	1～9人(n=20)	10	10	0	0
	10～29人(n=21)	1	18	2	0
	30～49人(n=10)	1	4	5	0
	50～99人(n=5)	0	1	3	1
	100人以上(n=8)	1	3	3	1

正規従業員数についてみると、「10～29 人」が 28.1%と最も高く、次いで「1～9 人」が 23.4%、「100 人以上」が 12.5%となっています。

前回調査と比較すると、「1～9 人」が 6.7 ポイント高く、「50～99 人」が 8.0 ポイント低くなっています。

(2) 正規従業員数



うち障がい者

単位: 人		0人	1～9人
従業員数	1～9人 (n=15)	12	3
	10～29人 (n=18)	17	1
	30～49人 (n=7)	4	3
	50～99人 (n=2)	1	1
	100人以上 (n=8)	2	6

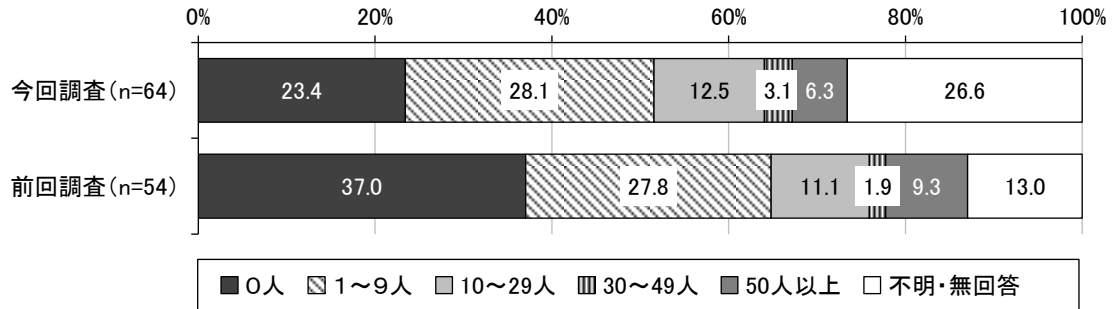
うち 60 歳以上の方

単位: 人		0人	1～9人	10～49人	50人以上
従業員数	1～9人 (n=15)	7	8	0	0
	10～29人 (n=18)	3	15	0	0
	30～49人 (n=7)	1	4	2	0
	50～99人 (n=2)	0	1	0	1
	100人以上 (n=8)	2	2	4	0

正規従業員以外の従業員数についてみると、「1～9人」が28.1%と最も高く、次いで「0人」が23.4%、「10～29人」が12.5%となっています。

前回調査と比較すると、「0人」が13.6ポイント低くなっています。

(3) 正規従業員以外の従業員数



うち障がい者

単位: 人		0人	1～9人	10人以上
従業員数	1～9人 (n=18)	18	0	0
	10～29人 (n=8)	7	1	0
	30～49人 (n=2)	2	0	0
	50人以上 (n=4)	2	1	1

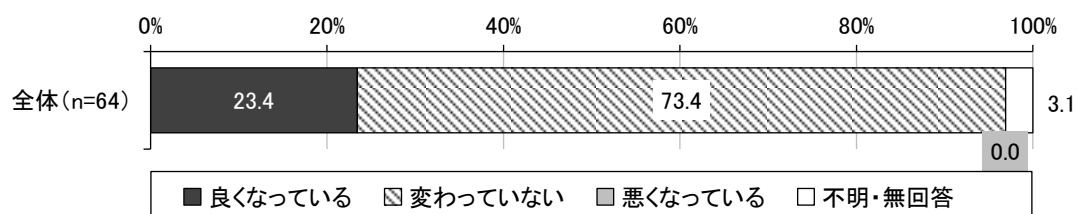
うち 60 歳以上の方

単位: 人		0人	1～9人	10～49人	50人以上
従業員数	1～9人 (n=18)	8	10	0	0
	10～29人 (n=8)	2	5	1	0
	30～49人 (n=2)	1	1	0	0
	50人以上 (n=4)	0	0	3	1

2 地域活動（ボランティア活動や助け合い活動）について

問4 以前と比べて、日向市の地域福祉が良くなっていると思いますか。（単数回答）

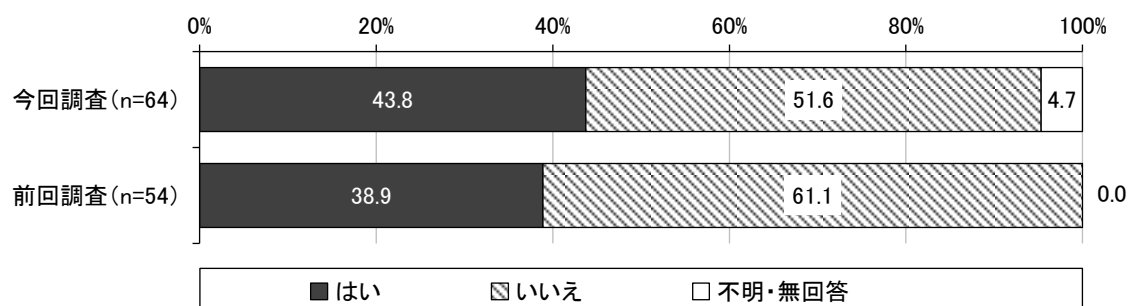
以前と比べて、日向市の地域福祉が良くなっているかについてみると、「変わっていない」が73.4%と最も高く、次いで「良くなっている」が23.4%、「悪くなっている」が0.0%となっています。



問5 貴団体・事業所では、従業員に対し、地域活動への参加や意識づくりを促す活動を行っていますか。（単数回答）

従業員に対して地域活動への参加や意識づくりを促す活動を行っているかについてみると、「はい」が43.8%、「いいえ」が51.6%となっています。

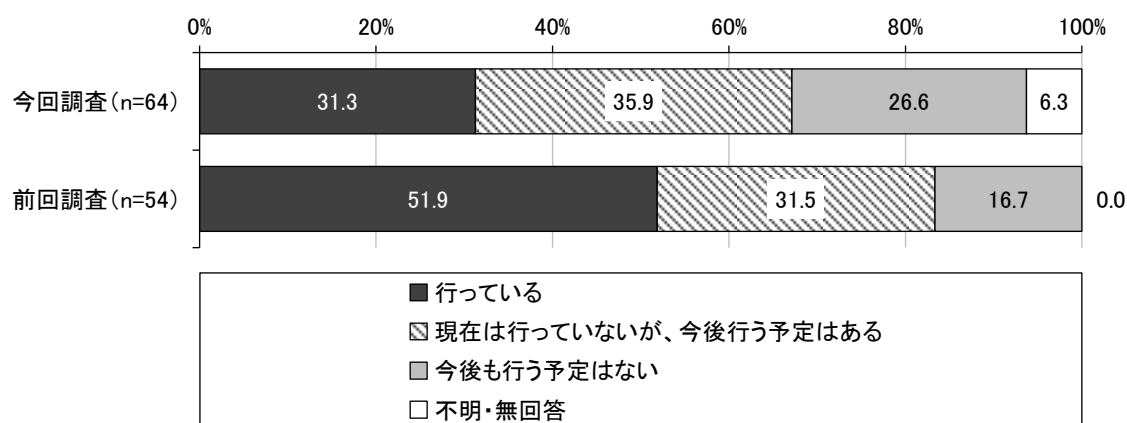
前回調査と比較すると、「いいえ」が9.5ポイント低くなっています。



問6 貴団体・事業所では、従業員等が地域住民の一人として地域活動へ参加する場合の支援を行っていますか。または、今後行う予定はありますか。（単数回答）

従業員等が地域活動へ参加する場合の支援を行っているか、または、今後行う予定はあるかについてみると、「現在は行っていないが、今後行う予定はある」が35.9%と最も高く、次いで「行っている」が31.3%、「今後も行う予定はない」が26.6%となっています。

前回調査と比較すると、「行っている」が20.6ポイント低くなっています。



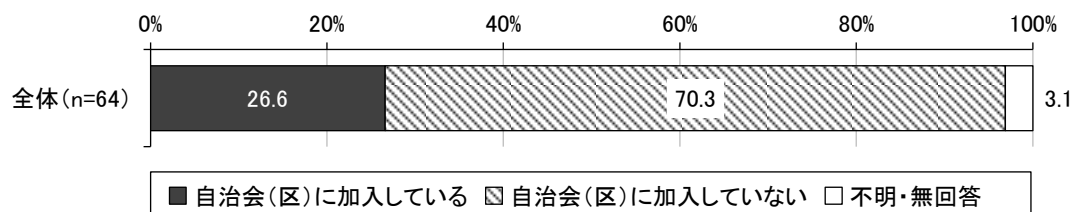
— 「行っている支援」の回答 —

有給等休暇の取得（7）／消防団（3）／美化・清掃活動（3）／出勤の調整／災害ボランティア参加の休暇や参加費用補助／ワーケーション推進／歩きたくなる街イルミネーション／商店街振興組合／まちゼミ／本社に対して社員の地域行事参加を要請している／地域貢献を目指す社員づくりを管理職にお願いしている／ボランティア活動参加の呼びかけ／地域イベントに参加、寄付活動／

※括弧内の数字は同様意見の数（以下、同）

問7 貴団体・事業所では、団体・事業所として自治会（区）に加入していますか。（単数回答）

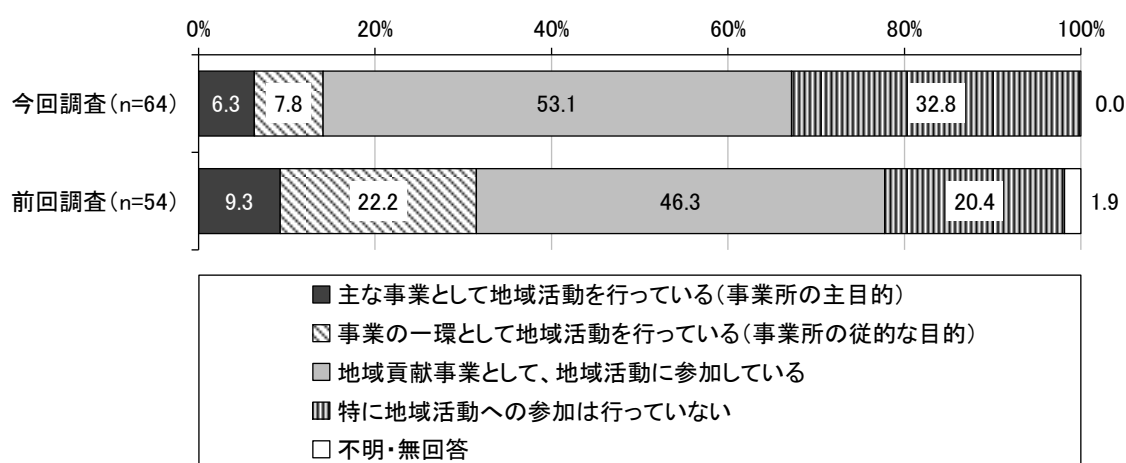
団体・事業所として自治会（区）に加入しているかについてみると、「自治会（区）に加入している」が26.6%、「自治会（区）に加入していない」が70.3%となっています。



問8 貴団体・事業所での地域活動への取組についてお答えください。（単数回答）

団体・事業所での地域活動への取組についてみると、「地域貢献事業として、地域活動に参加している」が53.1%と最も高く、次いで「特に地域活動への参加は行っていない」が32.8%、「事業の一環として地域活動を行っている（事業所の従的な目的）」が7.8%となっています。

前回調査と比較すると、「事業の一環として地域活動を行っている（事業所の従的な目的）」が14.4ポイント低く、「特に地域活動への参加は行っていない」が12.4ポイント高くなっています。

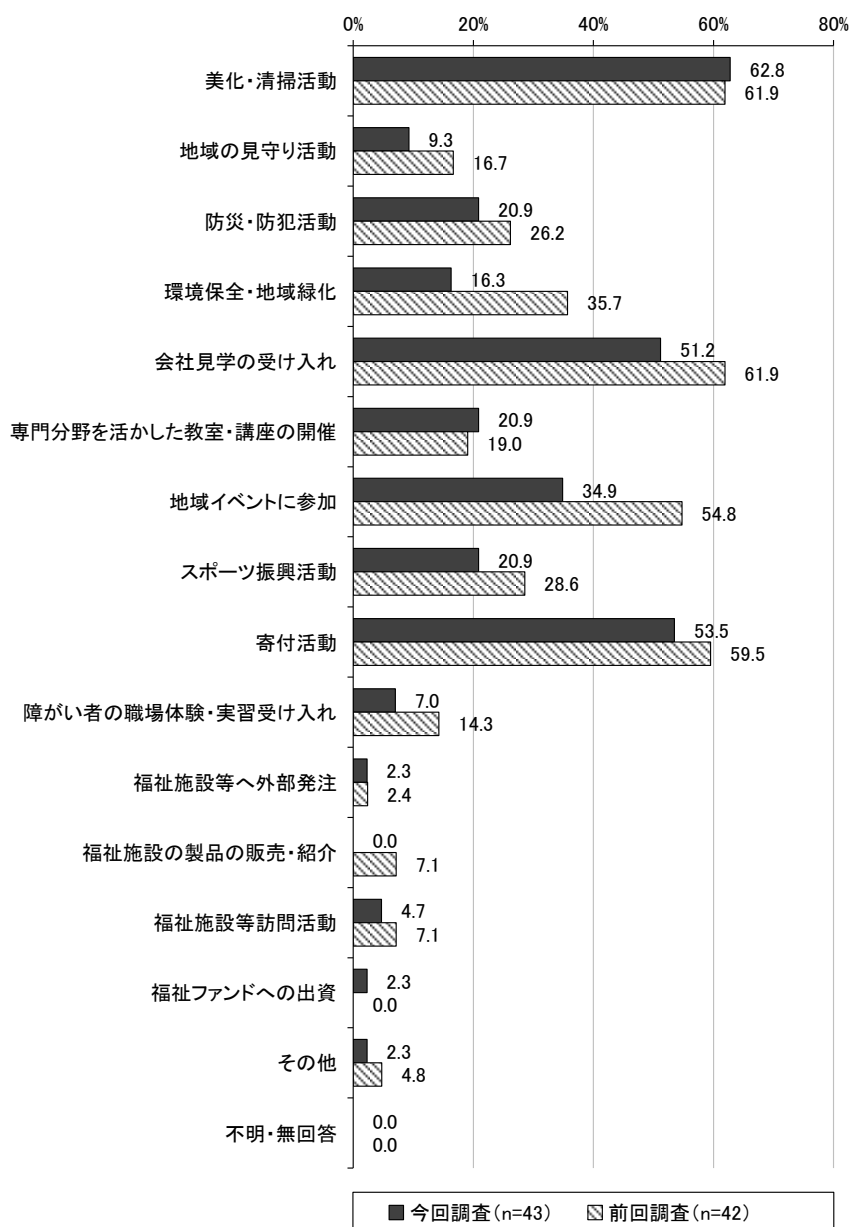


問8で「主な事業として地域活動を行っている（事業所の主目的）」「事業の一環として地域活動を行っている（事業所の従的な目的）」「地域貢献事業として、地域活動に参加している」と答えた方のみ

問8-1 具体的にどのような地域活動を行っていますか。（複数回答）

行っている地域活動についてみると、「美化・清掃活動」が62.8%と最も高く、次いで「寄付活動」が53.5%、「会社見学の受け入れ」が51.2%となっています。

前回調査と比較すると、「環境保全・地域緑化」が19.4ポイント、「会社見学の受け入れ」が10.7ポイント、「地域イベントに参加」が19.9ポイント低くなっています。



— 「その他」の回答 —

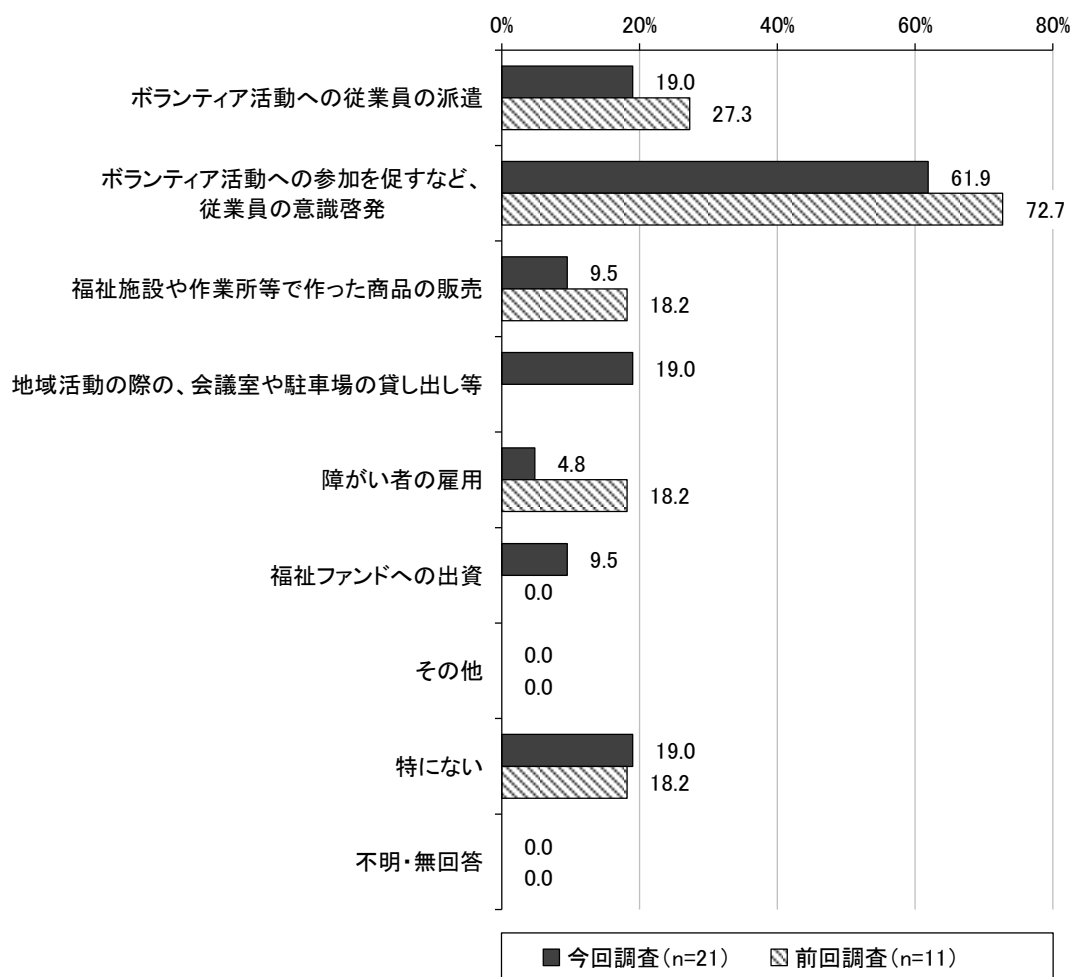
フードバンク活動

問8で「特に地域活動への参加は行っていない」と答えた方のみ

問8-2 今後、どのようなことなれできると思いますか。(複数回答)

今後できると思うことについてみると、「ボランティア活動への参加を促すなど、従業員の意識啓発」が61.9%と最も高く、次いで「ボランティア活動への従業員の派遣」「地域活動の際の、会議室や駐車場の貸し出し等」「特にない」が19.0%となっています。

前回調査と比較すると、「ボランティア活動への参加を促すなど、従業員の意識啓発」が10.8ポイント、「障がい者の雇用」が13.4ポイント低くなっています。

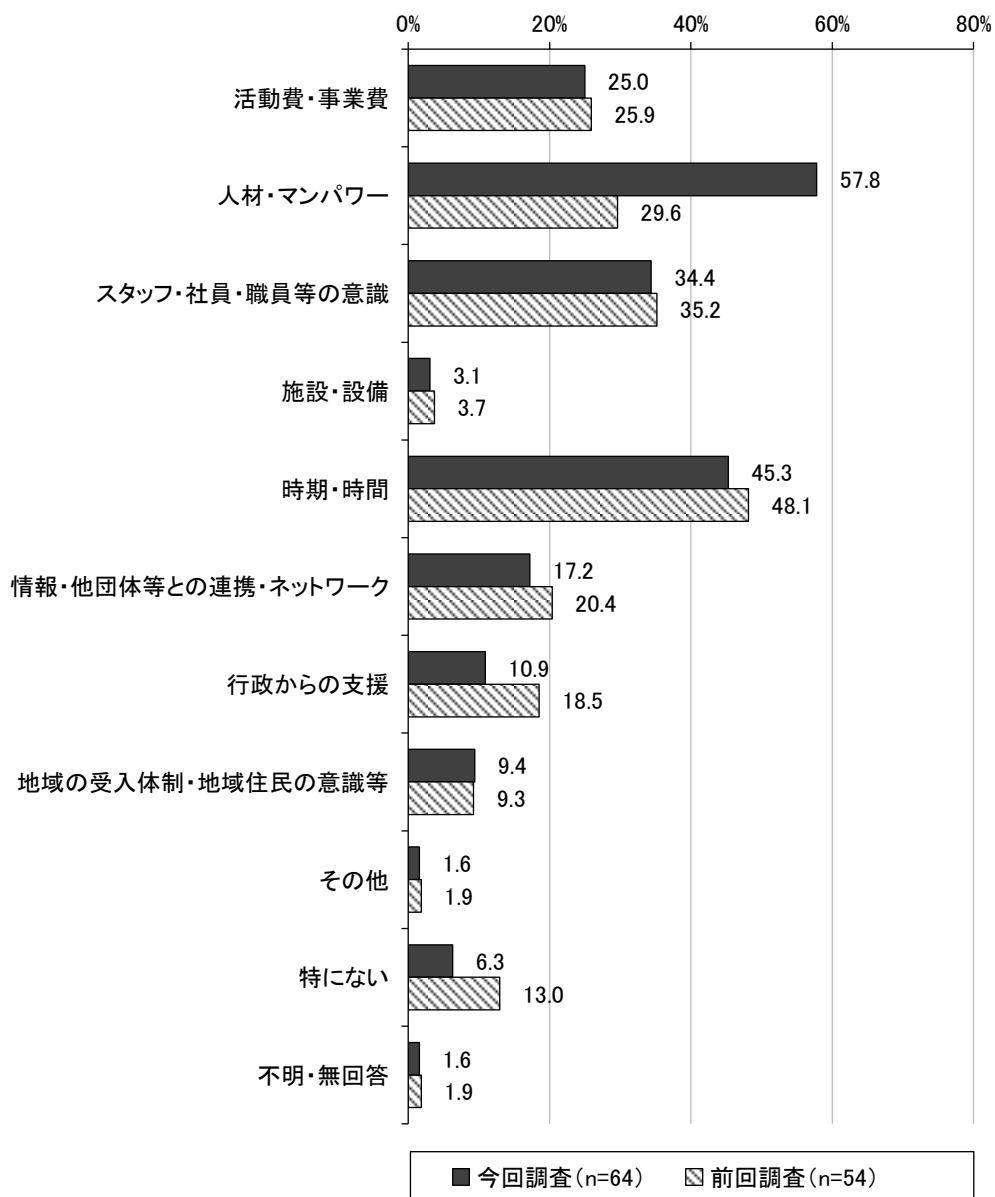


※「地域活動の際の、会議室や駐車場の貸し出し等」は今回調査のみの選択肢。

問9 貴事業所が地域活動を行う上での問題点・課題についてお答えください。(複数回答)

地域活動を行う上での問題点・課題についてみると、「人材・マンパワー」が57.8%と最も高く、次いで「時期・時間」が45.3%、「スタッフ・社員・職員等の意識」が34.4%となっています。

前回調査と比較すると、「人材・マンパワー」が28.2ポイント高くなっています。



— 「その他」の回答 —
新型コロナウイルス感染防止

問1で「教育・学習支援業」「医療・福祉」「市民活動・ボランティア団体、NPO法人」と答えた方のみ

問10 貴団体・事業所の具体的な業種をお答えください。(複数回答)

具体的な業種についてみると、「介護保険サービス提供事業所」が2件(66.7%)、「障がい福祉サービス提供事業所」「保育園・幼稚園・認定子ども園」「医療機関」が1件(33.3%)となっています。

前回調査では、「保育園・幼稚園」が2件(66.7%)、「介護保険サービス提供事業所」「障がい福祉サービス提供事業所」「学童保育」「医療機関」が1件(33.3%)となっています。

単位: %	介護保険サービス提供事業所	障がい福祉サービス提供事業所	保育園・幼稚園・認定子ども園	学童保育	託児所	小学校・中学校	医療機関	訪問看護・訪問リハビリ	市民活動・ボランティア団体	NPO法人	母子生活支援施設	その他	不明・無回答
今回調査(n=3)	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
前回調査(n=3)	33.3	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

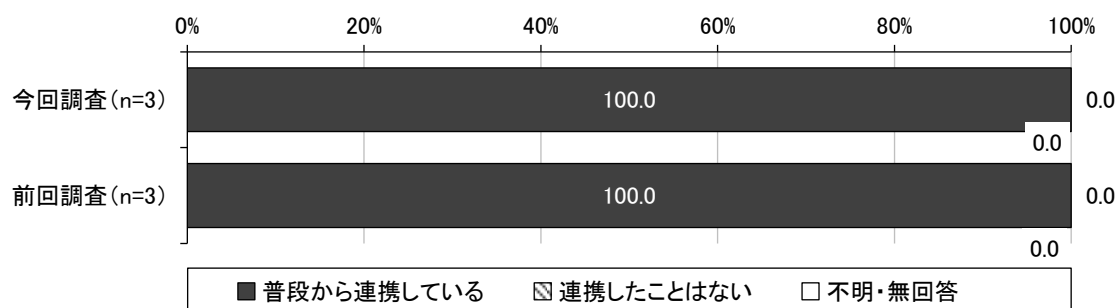
※「保育園・幼稚園・認定子ども園」は前回調査では「保育園・幼稚園」。

問1で「教育・学習支援業」「医療・福祉」「市民活動・ボランティア団体、NPO法人」と答えた方のみ

問11 貴団体・事業所だけでは解決できない利用者・顧客等のニーズを解決するため、他の福祉関係者及び関係団体・機関と連携・連絡を取り合って解決に結びつけたことはありますか。
(単数回答)

他の関係団体や機関と連携・連絡を取り合って、利用者・顧客等のニーズを解決したことについてみると、「普段から連携している」が3件(100.0%)となっています。

前回調査も同様に、「普段から連携している」が3件(100.0%)となっています。



問 11 で「普段から連携している」と答えた方のみ

問 11-1 どの機関と連携をとっていますか。(複数回答)

連携をとっている機関についてみると、「介護保険サービス提供事業所」「医療機関」が 2 件 (66.7%)、「障がい福祉サービス提供事業所」「保育園・幼稚園・認定こども園」「学童保育」「小学校・中学校」「行政機関」「地域の方（民生児童委員、区長等）」が 1 件 (33.3%) となっています。

前回調査では、「行政機関」が 3 件 (100.0%)、「介護保険サービス提供事業所」「障がい福祉サービス提供事業所」が 2 件 (66.7%)、「医療機関」「訪問看護・訪問リハビリ」「地域の方（民生児童委員、区長等）」が 1 件 (33.3%) となっています。

単位：%	介護保険サービス提供事業所	障がい福祉サービス提供事業所	保育園・幼稚園・認定こども園	学童保育	託児所	小学校・中学校	医療機関	訪問看護・訪問リハビリ	市民活動・ボランティア団体	NPO 法人
今回調査(n=3)	66.7	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
前回調査(n=3)	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0

単位：%	母子生活支援施設	行政機関	社会福祉協議会	地域の方（民生児童委員、区長等）	その他	不明・無回答
今回調査(n=3)	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
前回調査(n=3)	0.0	100.0		33.3	0.0	0.0

※「社会福祉協議会」は今回調査のみの選択肢。

「保育園・幼稚園・認定子ども園」は前回調査では「保育園・幼稚園」。

— 「その他」の回答 —

細島まちづくり協議会／障がい就労支援

問 11 で「連携したことはない」と答えた方のみ

問 11-2 連携したことがない理由についてお答えください。（2 つまで複数回答）

問 11-2 は、回答がありませんでした。

問 11 で「普段から連携している」と答えた方のみ

問 11-3 今後、どの機関と連携をとっていきたいですか。（3 つまで複数回答）

今後連携をとっていきたい機関についてみると、「行政機関」「社会福祉協議会」が 1 件（33.3%）となっています。

前回調査では、「障がい福祉サービス提供事業所」「医療機関」「地域の方（民生児童委員、区長等）」が 2 件（66.7%）、「介護保険サービス提供事業所」「市民活動・ボランティア団体」「行政機関」が 1 件（33.3%）となっています。

単位：%	介護保険サービス提供事業所	障がい福祉サービス提供事業所	保育園・幼稚園・認定こども園	学童保育	託児所	小学校・中学校	医療機関	訪問看護・訪問リハビリ	市民活動・ボランティア団体	NPO 法人
今回調査 (n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
前回調査 (n=3)	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0

単位：%	母子生活支援施設	行政機関	社会福祉協議会	地域の方（民生児童委員、区長等）	その他	不明・無回答
今回調査 (n=3)	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	66.7
前回調査 (n=3)	0.0	33.3		66.7	0.0	0.0

※「社会福祉協議会」は今回調査のみの選択肢。

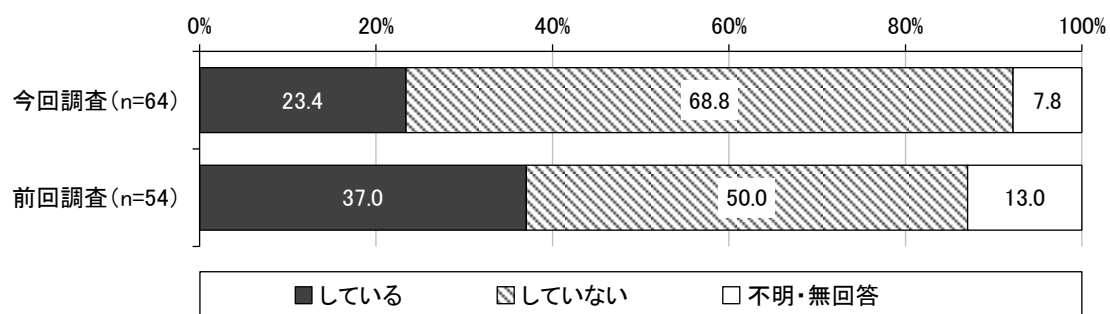
「保育園・幼稚園・認定子ども園」は前回調査では「保育園・幼稚園」。

— 「その他」の回答 —
よく分からない／その時の機会で

問 12 障害者差別解消法が平成 28 年 4 月から施行され、障がいのある方に対する「合理的配慮」が民間においては努力義務となっています。貴団体・事業所において、「合理的配慮」への取組をされていますか。(単数回答)

合理的配慮への取組をしているかについてみると、「している」が 23.4%と最も高く、次いで「していない」が 68.8%となっています。

前回調査と比較すると、「していない」が 18.8 ポイント高くなっています。

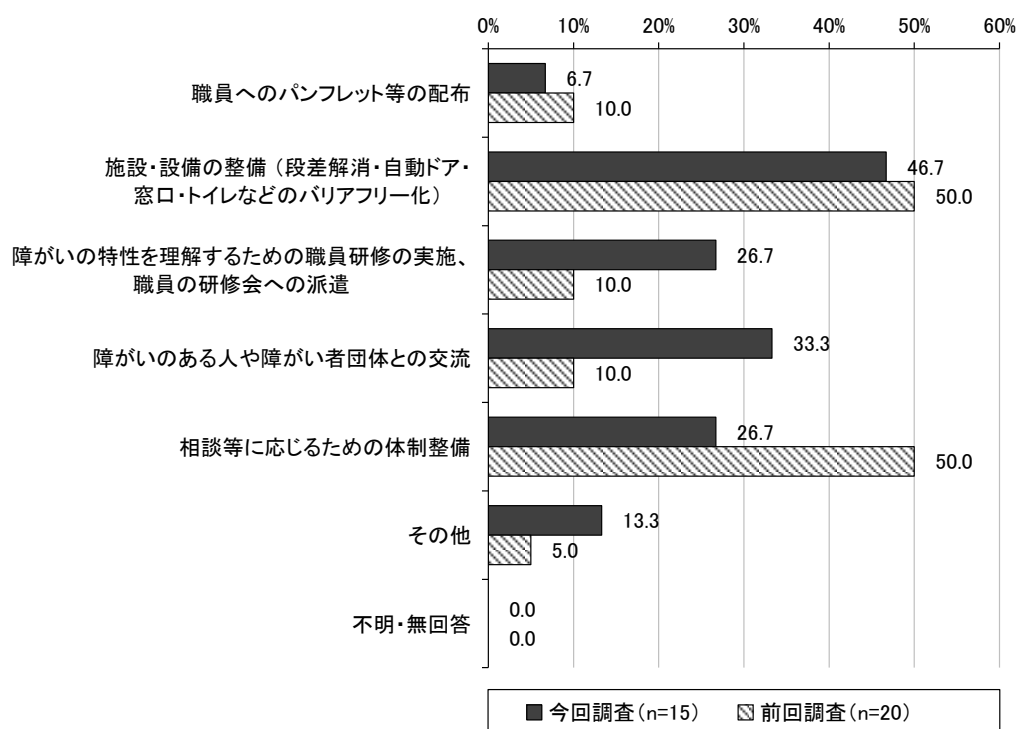


問 12 で「している」と答えた方のみ

問 12-1 どのような取組をされていますか。(複数回答)

行っている取組についてみると、「施設・設備の整備（段差解消・自動ドア・窓口・トイレなどのバリアフリー化）」が 46.7%と最も高く、次いで「障がいのある人や障がい者団体との交流」が 33.3%、「障がいの特性を理解するための職員研修の実施、職員の研修会への派遣」「相談等に応じるための体制整備」が 26.7%となっています。

前回調査と比較すると、「障がいの特性を理解するための職員研修の実施、職員の研修会への派遣」が 16.7 ポイント、「障がいのある人や障がい者団体との交流」が 23.3 ポイント高く、「相談等に応じるための体制整備」が 23.3 ポイント低くなっています。



— 「その他」の回答 —

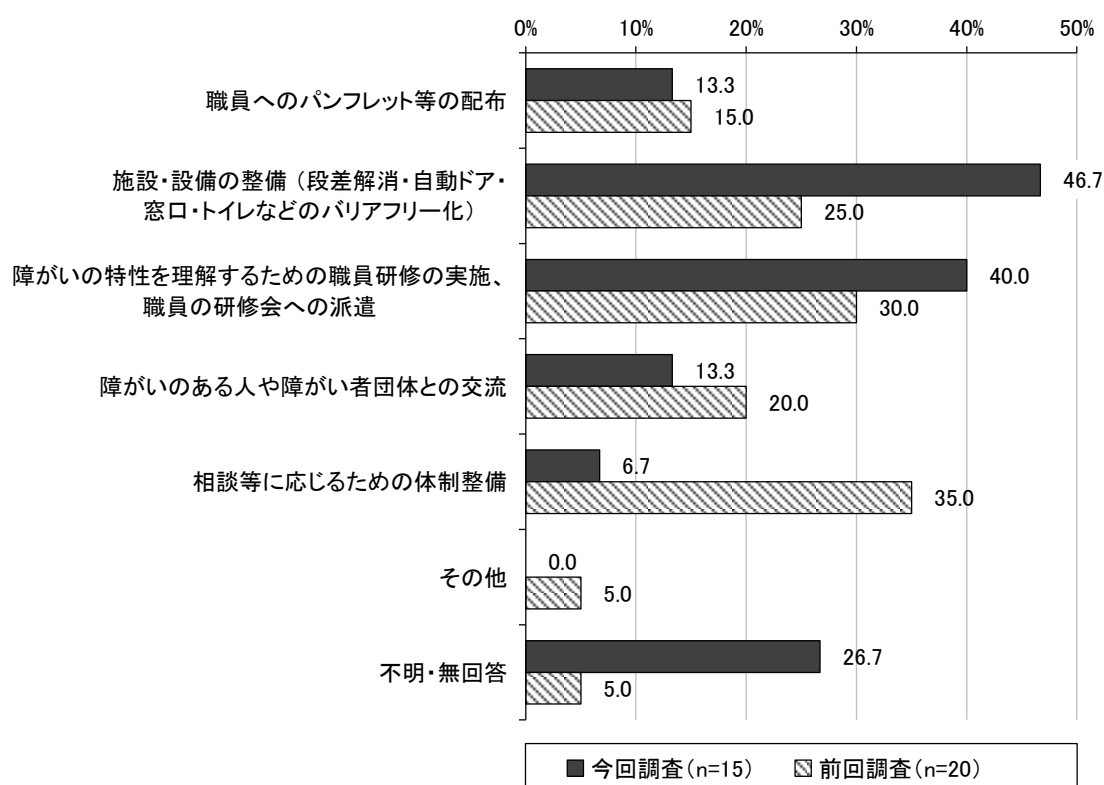
病院への優遇

問 12 で「している」と答えた方のみ

問 12-2 今後実施したいと思う取組はありますか。(複数回答)

今後実施したいと思う取組についてみると、「施設・設備の整備（段差解消・自動ドア・窓口・トイレなどのバリアフリー化）」が 46.7%と最も高く、次いで「障がいの特性を理解するための職員研修の実施、職員の研修会への派遣」が 40.0%、「職員へのパンフレット等の配布」「障がいのある人や障がい者団体との交流」が 13.3%となっています。

前回調査と比較すると、「施設・設備の整備（段差解消・自動ドア・窓口・トイレなどのバリアフリー化）」が 21.7 ポイント、「障がいの特性を理解するための職員研修の実施、職員の研修会への派遣」が 10.0 ポイント高く、「相談等に応じるための体制整備」が 28.3 ポイント低くなっています。

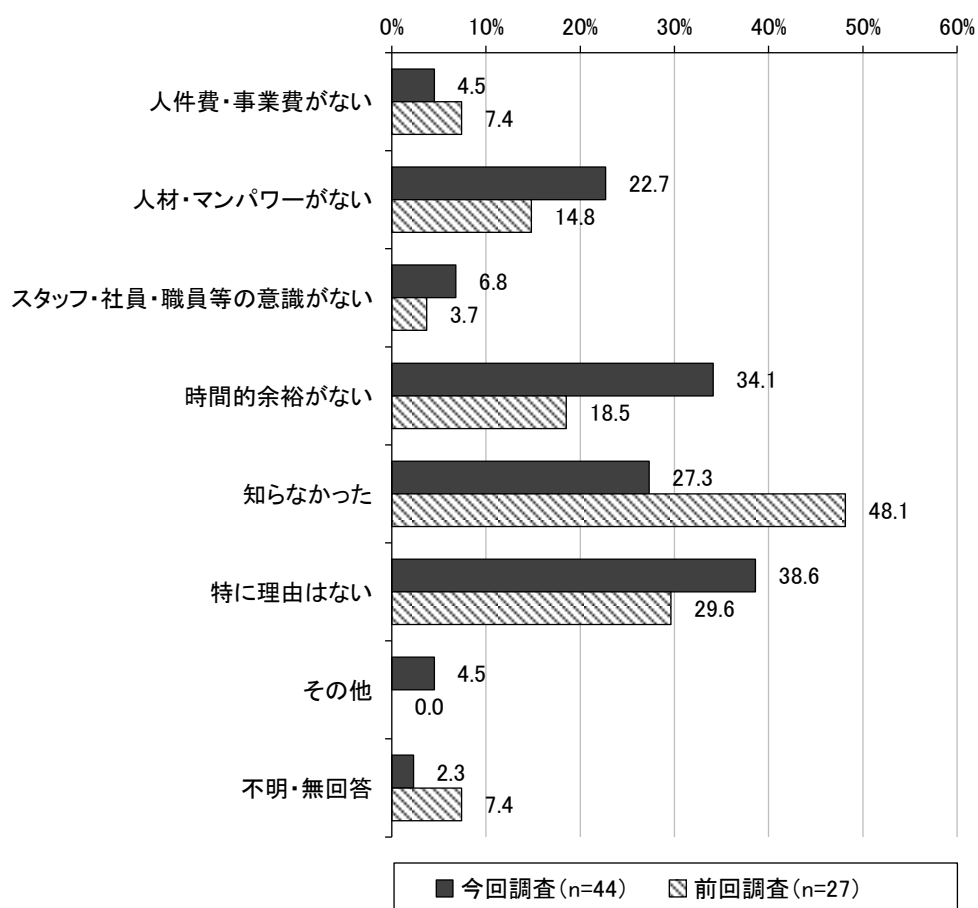


問 12 で「していない」と答えた方のみ

問 12-3 取り組んでいない理由を教えてください。（2 つまで複数回答）

取り組んでいない理由についてみると、「特に理由はない」が 38.6%と最も高く、次いで「時間的余裕がない」が 34.1%、「知らなかった」が 27.3%となっています。

前回調査と比較すると、「時間的余裕がない」が 15.6 ポイント高く、「知らなかった」が 20.8 ポイント低くなっています。



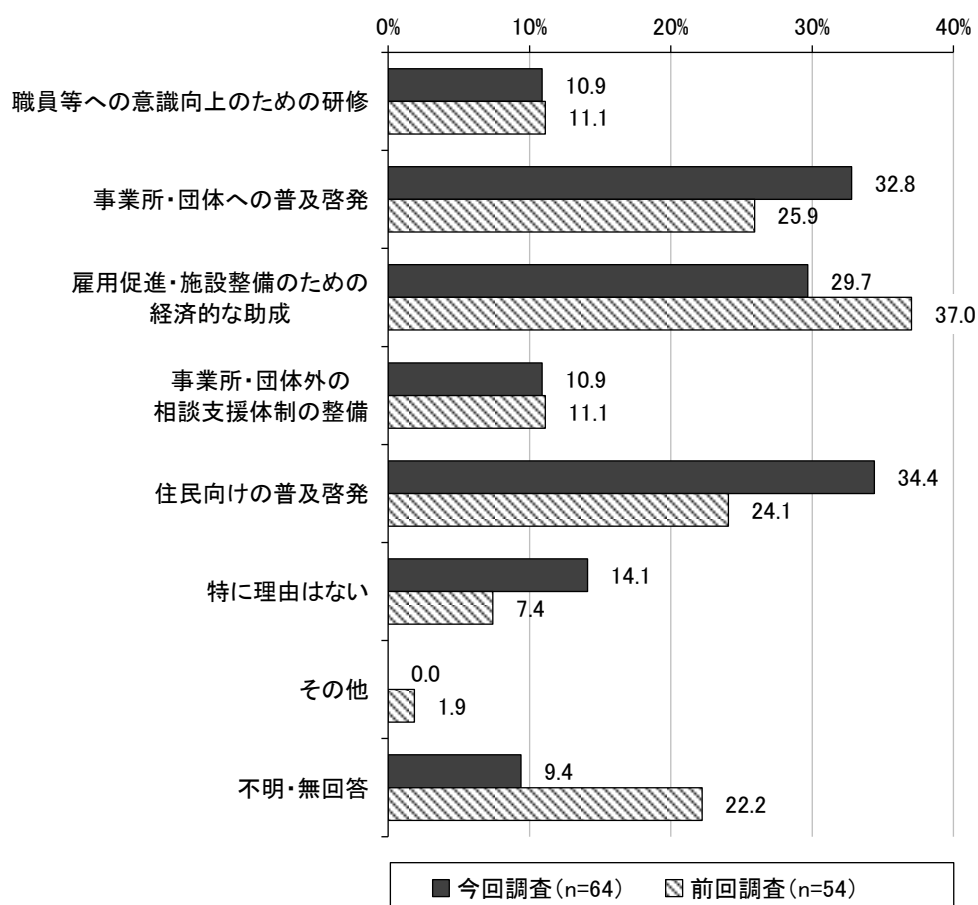
— 「その他」の回答 —

今までその場面に接したことがない／合理的な配慮の範囲がわからない

問 12-4 障がいのある人に対する「合理的配慮」を進めていくなかで、特に行政に取り組んでほしいことはありますか。（2つまで複数回答）

合理的配慮を進めていくなかで、特に行政に取り組んでほしいことについてみると、「住民向けの普及啓発」が34.4%と最も高く、次いで「事業所・団体への普及啓発」が32.8%、「雇用促進・施設整備のための経済的な助成」が29.7%となっています。

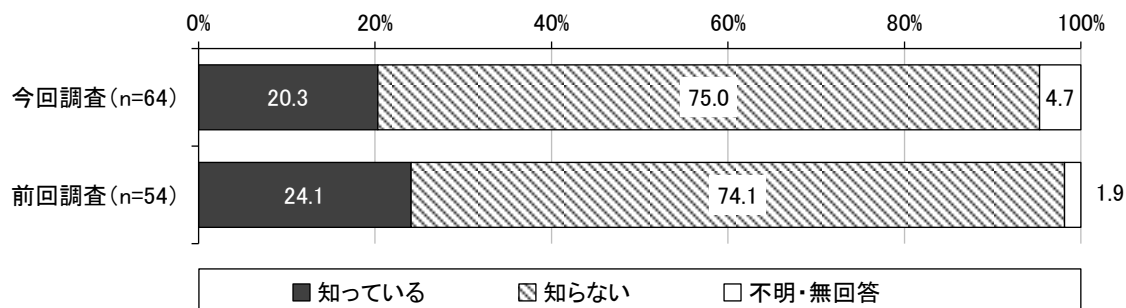
前回調査と比較すると、「住民向けの普及啓発」が10.3ポイント高くなっています。



問 13 日向市では、県内で初めて手話言語条例を制定し、平成 28 年 4 月から施行していますが、手話言語条例が施行されていることをご存知ですか。（単数回答）

手話言語条例が施行されていることの認知度についてみると、「知っている」が 20.3%、「知らない」が 75.0%となっています。

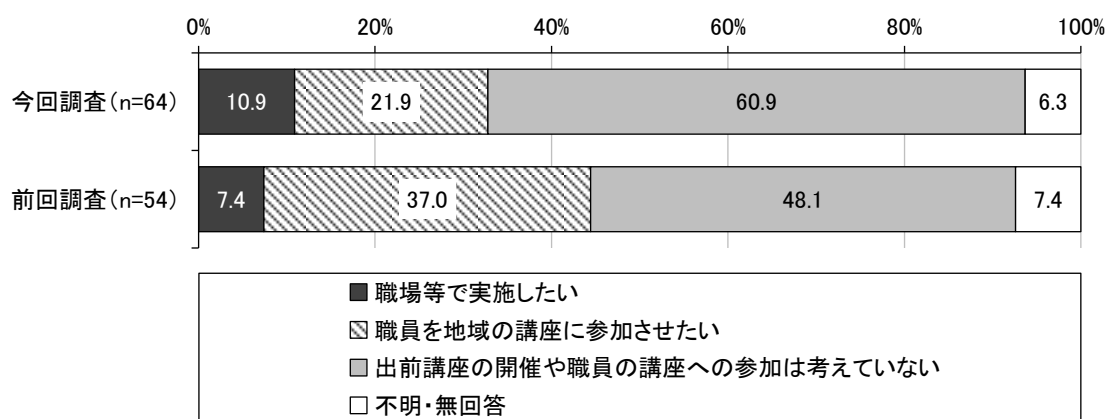
前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



問 14 日向市では、手話の普及や障がい、福祉についての理解を広げるために地域や企業等に市職員を講師として派遣して出前講座を実施しています。また、地域で手話や点字・音訳などの講座も開講しています。貴団体・事業所で開講したいと思いますか。（単数回答）

手話の普及や障がい、福祉についての理解を広げるための講座を開講したいかについてみると、「出前講座の開催や職員の講座への参加は考えていない」が 60.9%と最も高く、次いで「職員を地域の講座に参加させたい」が 21.9%、「職場等で実施したい」が 10.9%となっています。

前回調査と比較すると、「職員を地域の講座に参加させたい」が 15.1 ポイント低く、「出前講座の開催や職員の講座への参加は考えていない」が 12.8 ポイント高くなっています。

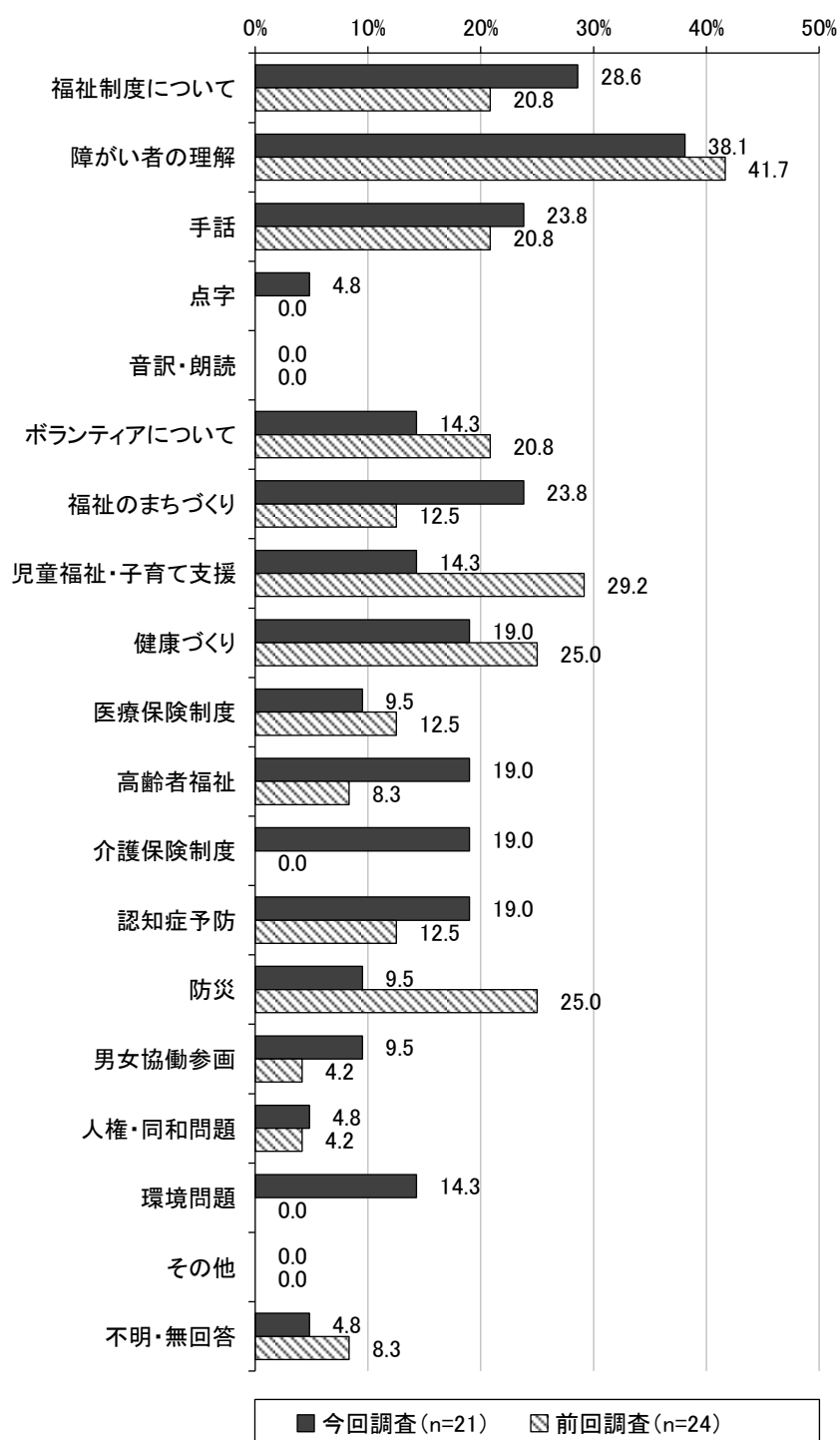


問 14 で「職場等で実施したい」または「職員を地域の講座に参加させたい」と答えた方のみ

問 14-1 どのような内容について、出前講座の開催や職員の研修会等への派遣を考えていますか。
(3つまで複数回答)

出前講座の開催や職員の研修会等への派遣を考えている内容についてみると、「障がい者の理解」が 38.1%と最も高く、次いで「福祉制度について」が 28.6%、「手話」「福祉のまちづくり」が 23.8%となっています。

前回調査と比較すると、「福祉のまちづくり」が 11.3 ポイント、「高齢者福祉」が 10.7 ポイント、「介護保険制度」が 19.0 ポイント、「環境問題」が 14.3 ポイント高く、「児童福祉・子育て支援」が 14.9 ポイント、「防災」が 15.5 ポイント低くなっています。



問 15 アンケートにつきまして、また、日向市の地域福祉の推進につきまして、ご意見、ご要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

正直、直接かかわった事がないので分からない。当社も高齢者のみで人数も少なくない日の仕事をするので精いっぱい。何かあれば皆協力はすると思うが、今の所そういう場面にあったことがない。
アンケートを通して初めて知った事も有った。現在日向市・地域のことを考えた活動については、役員が法人会・商工会・ライオンズクラブ・商店会に属し、会員の皆様と取り組んでいるくらいで、企業単位での行動が中々出来ていない状況。企業として強制力があってはならず、マンパワーを使わない寄付等で対応している状況。将来的に年に1回でも社員全員が地元に貢献出来る様な仕事以外での取組みを構築したい。
子育て支援の充実：共稼ぎの家庭の小学生の安心安全な預かりを目指し、保育所や幼稚園の少子化による園児数減対策として保育所や幼稚園で対応してはどうか。（事業費は行政と利用者負担とする）。
社会福祉協議会の充実：超高齢社会において健康な高齢者づくりは重要と考える。百歳体操、いきいきサロンを区単位でなく、身近な施設で「井戸端会議」的な小単位、身近な体制で取組みができないか（80歳以上になる免許証の返納が多くなると思う）。
身近なところから、少しずつ活動して行くことが望ましいのだろうが、実際現実においてどう活動できるかあまりわからない。
地域福祉については、当社は全く進んでいない。今後、勉強して地域福祉へ協力していく。
地域福祉について、理解がまだまだ不十分の為、意識が低すぎた。このアンケートで知る「きっかけ」となった。
私達の身近で起き得る福祉サービスの制度と日向市での取組みについて分かりやすく説明していただけると幸いです。
高齢化が進行していく中で、街の活力維持のためには高齢者が元気であることが必要である。高齢者が積極的に社会に関わる事ができる環境づくりが大切である。
アンケートの内容や意図することが理解しにくかった。（2）
問9以降の進行指示が間違っているため、どこの問に答えるべきか分からなくなった。このようなミスはありえないと思う。
アンケートの答によって「問〇〇-〇〇へ」という箇所が数問あるが、わかりにくい。
いつも地域の為に、ありがとうございます。

日向市
日向市地域福祉計画の見直しに伴う
アンケート調査
結果報告書

発行：日向市役所 福祉部 福祉課 福祉政策係
TEL：0982-66-1019
FAX：0982-54-4350

発行年月：令和4年7月